

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-----------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 憲法 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 上本昌昭 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育士等には乳幼児を育むチームの一員として、保護者や、保健医療・福祉・教育といった関連職種と連携して仕事を行う能力が求められます。人権などの「憲法」の知識は、多職種連携の下、仕事を行う際の「共通の基盤」となります。憲法を学ぶことで、乳幼児を育むチームの一員として必要な「共通の基盤」を身につけます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 憲法が保障する「人権」への理解は、乳幼児を育むチームの一員として仕事をする上で、最も重要な内容です。また、この人権が確実に保障されるために、憲法は「国の仕組み」も定めています。そこから、この授業を通じて、憲法が定めている「人権」や「国の仕組み」について正確に説明できるようになることが目標になります。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：配布資料に目を通して、講義内容を把握し、わからない漢字は調べておく。 事後学習：各回で提示する確認テストを解き直してみる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『憲法』（豊岡短期大学）を使用する。毎回レジュメ・資料を配布する。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科 | | |
|----------------------|---------------|--------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス／法とは何か？ | 憲法を学ぶ理由／法と憲法との関係について理解する。 |
| 2 | 憲法とは何か？ | 憲法はなぜあるのか？／「憲法」という言葉の意味について理解する。 |
| 3 | 憲法の三大原則 | 国民主権、平和主義、基本的人権の尊重といった原則について理解する。 |
| 4 | 基本的人権の種類 | 基本的人権にはどのようなものがあるか／「新しい人権」とは何かを理解する。 |
| 5 | 権力分立の原理 | 国会・内閣・裁判所の役割とそれらの関係について理解する。 |
| 6 | 平和主義 | 平和主義の理念／憲法第9条の解釈について理解する。 |
| 7 | 日本国憲法の成立過程 | 日本の近代史と大日本帝国憲法から日本国憲法への変遷を理解する。 |
| 8 | 法の下での平等 | 「平等」の意味すること／「合理的差別」とは何かを理解する。 |
| 9 | 思想良心の自由／信教の自由 | 信教の自由を保障する理由／信教の自由で保障されることを理解する。 |
| 10 | 表現の自由 | 表現の自由を保障する理由／表現の自由で保障されることを理解する。 |
| 11 | 経済的自由 | 職業選択の自由を保障する理由と保障される内容について理解する。 |
| 12 | 身体的自由 | 身体的自由を保障する理由／身体的自由で保障されることを理解する。 |
| 13 | 社会権 | 生存権で保障されること／生存権と社会保障制度の関係を理解する。 |
| 14 | 全体の振り返り | 憲法で規定されている各種人権と国の仕組みについて振り返る。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-----------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 憲法 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 上本昌昭 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育士等には乳幼児を育むチームの一員として、保護者や、保健医療・福祉・教育といった関連職種と連携して仕事を行う能力が求められます。人権などの「憲法」の知識は、多職種連携の下、仕事を行う際の「共通の基盤」となります。憲法を学ぶことで、乳幼児を育むチームの一員として必要な「共通の基盤」を身につけます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 憲法が保障する「人権」への理解は、乳幼児を育むチームの一員として仕事をする上で、最も重要な内容です。また、この人権が確実に保障されるために、憲法は「国の仕組み」も定めています。そこから、この授業を通じて、憲法が定めている「人権」や「国の仕組み」について正確に説明できるようになることが目標になります。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：配布資料に目を通して、講義内容を把握し、わからない漢字は調べておく。 事後学習：各回で提示する確認テストを解き直してみる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『憲法』（豊岡短期大学）を使用する。毎回レジュメ・資料を配布する。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科 | | |
|----------------------|---------------|--------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス／法とは何か？ | 憲法を学ぶ理由／法と憲法との関係について理解する。 |
| 2 | 憲法とは何か？ | 憲法はなぜあるのか？／「憲法」という言葉の意味について理解する。 |
| 3 | 憲法の三大原則 | 国民主権、平和主義、基本的人権の尊重といった原則について理解する。 |
| 4 | 基本的人権の種類 | 基本的人権にはどのようなものがあるか／「新しい人権」とは何かを理解する。 |
| 5 | 権力分立の原理 | 国会・内閣・裁判所の役割とそれらの関係について理解する。 |
| 6 | 平和主義 | 平和主義の理念／憲法第9条の解釈について理解する。 |
| 7 | 日本国憲法の成立過程 | 日本の近代史と大日本帝国憲法から日本国憲法への変遷を理解する。 |
| 8 | 法の下での平等 | 「平等」の意味すること／「合理的差別」とは何かを理解する。 |
| 9 | 思想良心の自由／信教の自由 | 信教の自由を保障する理由／信教の自由で保障されることを理解する。 |
| 10 | 表現の自由 | 表現の自由を保障する理由／表現の自由で保障されることを理解する。 |
| 11 | 経済的自由 | 職業選択の自由を保障する理由と保障される内容について理解する。 |
| 12 | 身体的自由 | 身体的自由を保障する理由／身体的自由で保障されることを理解する。 |
| 13 | 社会権 | 生存権で保障されること／生存権と社会保障制度の関係を理解する。 |
| 14 | 全体の振り返り | 憲法で規定されている各種人権と国の仕組みについて振り返る。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 情報リテラシーと処理技術 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 田中 康裕 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。 ・情報セキュリティについて理解し、適切な管理ができるようになる。 ・「コンピュータの機能」「インターネット」「情報モラル」「情報セキュリティ」の概要について理解する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常生活の中で、情報モラル・セキュリティに意識を向け、積極的にICT機器を活用し、WordやExcelなどの操作方法を定着させる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト） | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------|-----------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 情報化社会 |
| 2 | コンピュータの仕組み① | コンピュータの発展 |
| 3 | コンピュータの仕組み② | ハードウェア |
| 4 | コンピュータの仕組み③ | ソフトウェア |
| 5 | インターネットの仕組み① | 情報ネットワーク |
| 6 | インターネットsの仕組み② | インターネット |
| 7 | 情報社会のまとめ | 情報システムと情報社会の課題 |
| 8 | Windwosの基礎 | Windwosの基本操作 |
| 9 | Wordの基礎① | 文書作成の基本①（基本操作・書式設定） |
| 10 | Wordの基礎② | 文書作成の基本②（図形・表・ページ設定） |
| 11 | Excelの基礎① | 表計算の基本①（基本操作・書式設定） |
| 12 | Excelの基礎② | 表計算の基本②（計算式・関数・グラフ機能） |
| 13 | 情報リテラシー | 情報モラル・情報セキュリティ |
| 14 | 保育とICT | 教育現場におけるICTの活用と展望について |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 情報リテラシーと処理技術 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 田中 康裕 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 情報セキュリティについて理解し、適切な管理ができるようになる。 「コンピュータの機能」「インターネット」「情報モラル」「情報セキュリティ」の概要について理解した上で、それらの知識を活用できるようになる。スクーリング：ワープロ・表計算ソフトの基本操作／情報モラル・情報セキュリティの概要を理解する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| コンピュータの操作には習熟が必要です。タイピングの練習など積極的に行いましょう。また、文書作成などの課題は、各自復習などで操作を反復し、定着を図るようにしてください。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 授業内で適宜講義資料を配布する。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------|-------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 情報リテラシーとは |
| 2 | Wordの基礎① | 文字入力の基本 |
| 3 | Wordの基礎② | 書式の設定 |
| 4 | Wordの基礎③ | 画像の挿入と装飾 |
| 5 | Wordの活用① | 表の作成と活用 |
| 6 | Wordの活用② | チラシ形式の文書作成 |
| 7 | Wordまとめ | Wordの復習と総合演習 |
| 8 | Excelの基礎① | データ入力の基本とグラフの作成 |
| 9 | Excelの基礎② | 計算方法とセル参照 |
| 10 | Excelの基礎③ | 関数の基本 |
| 11 | Excelの基礎④ | 関数の応用 |
| 12 | Excelの基礎⑤ | Excelによる名簿管理 |
| 13 | PowerPoint① | スライド作成の基本 |
| 14 | PowerPoint② | PowerPointを活用したチラシ作成の基本 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | キャリアデザイン | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 米田朝香 キャリア支援課（大川拓馬 山田萌 桑山史人） | | | |
| 実務経験 | キャリア支援課…学生のキャリアコンサルティング（年間約400件）の実務経験を有する | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 皆さん一人ひとりが保育士としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。 自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、個人ワークを中心に進めます。 また、「職業理解」を図るために、児童福祉施設で働く現場の方による講話をオムニバス形式で実施します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。 ・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。 ・保育士として活躍できる場を知り、自分なりの介護観を考える。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 毎回の授業の振り返りを行い、「自己理解」「職業理解」を深める。 ゲストスピーカーによる講話前にはその法人について下調べをする。 求人検索システムや紙求人、施設ホームページを利用し、進路に関する情報収集をする。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |
| 適時、資料配付。 | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------|---------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 8/26 授業概要の説明、成績評価の説明、2年間のキャリア支援について |
| 2 | キャリアとは | 9/2 キャリア形成の考え方、自己理解の導入ワーク |
| 3 | 伝わる文章の書き方 | 9/9 文章をまとめる力を身につける |
| 4 | 学科長による講話 | 9/16 園長経験も有する、こども保育学科 学科長の講話 |
| 5 | 職業理解① | 9/30 株式会社 保育園編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 6 | 職業理解② | 10/7 社会福祉法人 保育園編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 7 | 自己理解① | 10/14 キャリアの棚卸、キャリアを考える3つの視点 |
| 8 | 自己理解② | 10/21 強みを考える |
| 9 | 自己理解④ | 10/28 自己PR作成 |
| 10 | 職業理解③ | 11/4 施設編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 11 | 職業理解④ | 11/11 卒業生編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 12 | ワールドカフェ | 11/18 ワールドカフェの手法を使った対話を通じ、保育・キャリアを考える |
| 13 | 自己理解⑤ | 11/25 自己PR発表① |
| 14 | 自己理解⑥ | 12/2 自己PR発表②／2年次に向けて・本科目の振り返り |
| 15 | まとめ | 12/9 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | キャリアデザイン | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 米田朝香 キャリア支援課（大川拓馬 山田萌 桑山史人） | | | |
| 実務経験 | キャリア支援課…学生のキャリアコンサルティング（年間約400件）の実務経験を有する | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 皆さん一人ひとりが保育士としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。 自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、個人ワークを中心に進めます。 また、「職業理解」を図るために、児童福祉施設で働く現場の方による講話をオムニバス形式で実施します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。 ・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。 ・保育士として活躍できる場を知り、自分なりの介護観を考える。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 毎回の授業の振り返りを行い、「自己理解」「職業理解」を深める。 ゲストスピーカーによる講話前にはその法人について下調べをする。 求人検索システムや紙求人、施設ホームページを利用し、進路に関する情報収集をする。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 適時、資料配付。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------|---------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 8/26 授業概要の説明、成績評価の説明、2年間のキャリア支援について |
| 2 | キャリアとは | 9/2 キャリア形成の考え方、自己理解の導入ワーク |
| 3 | 伝わる文章の書き方 | 9/9 文章をまとめる力を身につける |
| 4 | 学科長による講話 | 9/16 園長経験も有する、こども保育学科 学科長の講話 |
| 5 | 職業理解① | 9/30 株式会社 保育園編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 6 | 職業理解② | 10/7 社会福祉法人 保育園編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 7 | 自己理解① | 10/14 キャリアの棚卸、キャリアを考える3つの視点 |
| 8 | 自己理解② | 10/21 強みを考える |
| 9 | 自己理解④ | 10/28 自己PR作成 |
| 10 | 職業理解③ | 11/4 施設編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 11 | 職業理解④ | 11/11 卒業生編（ゲストスピーカーによる講話） |
| 12 | ワールドカフェ | 11/18 ワールドカフェの手法を使った対話を通じ、保育・キャリアを考える |
| 13 | 自己理解⑤ | 11/25 自己PR発表① |
| 14 | 自己理解⑥ | 12/2 自己PR発表②／2年次に向けて・本科目の振り返り |
| 15 | まとめ | 12/9 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 英語コミュニケーション | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 朝倉久実 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園にて幼稚園教諭として、保育所等にて保育士として、児童福祉施設にて心理相談支援業務の実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育の様々な場面で使われる英語とその使い方を学習し理解する。 ②保護者との会話に使われる英語表現方法や、園のおたより・連絡事項の書き方を学ぶ。 ③実際の保育現場に取り入れる事を目標とした様々な英語を用いたアクティビティーの演習を通して実践力を身につける。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回講義で行う小テスト範囲内容を把握しておく。 事後学習：講義内容を復習する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・毎回、レジュメ・資料を配布する。 ・『英語コミュニケーション』 能勢規子 著 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|------------|--------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 英語の文法（１） | オリエンテーション、科目概要の説明（英文読解） |
| 2 | 英語の文法（２） | 入園準備に必要な英語の学習（英文読解） |
| 3 | 英語の文法（３） | 入園・降園に必要な英語の学習（英文読解） |
| 4 | 英語の基礎構文（１） | 室内遊びに必要な英語の学習（英文読解） |
| 5 | 英語の基礎構文（２） | 工作・お絵かきに必要な英語の学習（英文読解） |
| 6 | 英語の基礎構文（３） | 外遊び・けんかに必要な英語の学習（英文読解） |
| 7 | 運動・お散歩 | 動作に必要な英語の学習（英文法）（英文読解） |
| 8 | 健康・病気・けが | 健康・病気・けがに必要な英語の学習（英文法）（英文読解） |
| 9 | 食事 | 食事・国際理解に必要な英語の学習（英文法）（英文読解） |
| 10 | 着替え・トイレ | 着脱・トイレに必要な英語の学習（英文法）（英文読解） |
| 11 | 乳児保育 | 乳児の発達に必要な英語の学習（英文法）（英文読解） |
| 12 | 行事・おたより（１） | 遠足のおたより・運動会のおたより 作成（英文法）（英文読解） |
| 13 | 行事・おたより（２） | 園の行事（英文法）（英文読解） |
| 14 | 連絡帳 | 連絡帳 作成（英文法）（英文読解） |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 英語コミュニケーション | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 朝倉久実 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園にて幼稚園教諭として、保育所等にて保育士として、児童福祉施設にて心理相談支援業務の実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 近年、海外から日本の保育園・保育施設に入園・入所してくる外国籍の保護者や子どもたちが増え、英語による保育の必要性が重視されている。基本的な英文法や英語読解力の総復習を図り、基礎英語の理解を深め、保育の現場において必要な英語表現を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育の様々な場面で使われる英語とその使い方を学習し理解する。 ②保護者との会話に使われる英語表現方法や、園のおたより・連絡事項の書き方を学ぶ。 ③実際の保育現場に取り入れる事を目標とした様々な英語を用いたアクティビティーの演習を通して実践力を身につける。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回講義で行う小テスト範囲内容を把握しておく。 事後学習：講義内容を復習する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| | | | | |
| 使用テキスト | ・毎回、レジュメ・資料を配布する。 ・『英語コミュニケーション』 能勢規子 著 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|-----------|--------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 科目概要の説明 |
| 2 | 入園準備 | 園の施設についての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 3 | 登園・降園 | 送迎等についての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 4 | 室内遊び | 室内の遊具、遊びについての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 5 | 工作・お絵かき | 色、形、作業についての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 6 | 外遊び・けんか | 屋外の遊具、遊びについての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 7 | 運動・お散歩 | 動作についての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 8 | 健康・病気・けが | からだ、病気・けがについての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 9 | 食事 | 食事についての英語表現、国際理解（英文法）（英文読解） |
| 10 | 着替え・トイレ | 着脱、トイレについての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 11 | 乳児保育 | 乳児の発達についての英語表現（英文法）（英文読解） |
| 12 | 行事・おたより① | 遠足のおたより、運動会のおたより 作成（英文法）（英文読解） |
| 13 | 行事・おたより② | 園の行事（英文法）（英文読解） |
| 14 | 連絡帳 | 連絡帳 作成（英文法）（英文読解） |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 健康科学 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ・健康と運動について様々な視点から取り扱う ・自身の生活に即した健康課題を考える （※授業計画は、豊岡短期大学の課題内容に基づき変更されます。 こちらのシラバスはあくまでも参考内容として理解してください。） | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・発達や生活習慣病についての知識を持つ ・健康における運動の効果を知る ・健康に関わる知識を持ち、学習内容を身近に感じる | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 適度な運動習慣を持つこと | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 豊岡短期大学『健康科学』 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-------------|-------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の伝達 |
| 2 | 運動実技 | 体ほぐし |
| 3 | 生活リズム | 自律神経と生活・睡眠リズムの理解 |
| 4 | 発育発達の基礎 | ※以下4-7についてはレポート設題が公開され次第、扱う内容を共有します |
| 5 | レポートに関わる指導① | |
| 6 | レポートに関わる指導② | |
| 7 | レポートに関わる指導③ | |
| 8 | 運動実技 | 集団で行う運動遊び |
| 9 | 子どもの運動発達 | 運動発達の基礎 |
| 10 | 試験に関わる指導① | ※以下10-13は試験設題が公開されし次第、扱う内容を共有します |
| 11 | 試験に関わる指導② | |
| 12 | 試験に関わる指導③ | |
| 13 | 試験に関わる指導④ | |
| 14 | 授業内容の振り返り | 振り返りと確認 |
| 15 | まとめ | 定期試験 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 健康科学 | | | |
|---------|--|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

- ・自身の生活に即した健康課題を考える
- ・身体活動指針、健康日本21、生活習慣病について理解する
- ・健康と運動との関わりを理解する
- ・実技授業を数回含む

※授業の進捗状況により、内容を変更する場合があります

到達目標

- ・健康について生活の中でより意識することができるようになる
- ・生活習慣病についての知識を持つ
- ・健康の維持増進における運動の効果を知る

準備學習

適度な運動習慣を持つこと
実技見学者は要レポート提出

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|------|
| 使用テキスト | 適宜配布 |
|--------|------|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|---------------|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス | 授業概要の伝達、生活リズムについて |
| 2 | 生活リズム | 自律神経と生活・睡眠リズムの理解 |
| 3 | 現代社会と健康課題① | 人口・高齢社会・合計特殊出生率 |
| 4 | 現代社会と健康課題② | 健康日本21（厚生労働省）とは何か |
| 5 | 現代社会と健康課題③ | 健康日本21（厚生労働省）第3次について |
| 6 | ロコモティブシンドローム① | ロコモティブシンドロームとは何か、グループ演習（運動計画立案） |
| 7 | ロコモティブシンドローム② | 実技 |
| 8 | ロコモティブシンドローム③ | 発表 |
| 9 | 運動科学① | 身体組成 |
| 10 | 運動科学② | 有酸素運動の仕組み |
| 11 | 運動科学③ | 筋力、柔軟性 |
| 12 | 運動実技 | 集団で行う運動遊び |
| 13 | 乳幼児の運動発達 | 発達の基礎 |
| 14 | 総括 | 授業全体の総括 |
| 15 | まとめ | 定期試験 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|--|------|-----|------|------------------------|-------------|-------------------|
| 科目名 | スポーツ（実技） | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 実技 | 1 | ガイダンス | 授業概要の伝達 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | | 2 | 保育実習Ⅰ 振り返り① | こどもと運動遊びについて：記録作成 |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | | 3 | 保育実習Ⅰ 振り返り② | こどもと運動遊びについて：口頭発表 |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 運動実技の基礎を行う。保育者に必要となる基礎体力の維持増進や、運動に親しみを持つことができるよう、実技を通して基礎的な運動を楽しむことを重視する。 | | | | | | | |
| ※集中スクーリングのため本シラバスはあくまでも参考内容と理解してください。 スクーリング実施時に改めて授業スケジュールの詳細を配布します。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| ・運動の実践に必要な基礎力を身につける。 ・実技を通じ、体力づくりや健康における運動の意味について学ぶ。 ・参加者皆で協力し、集団での活動を楽しむ。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 適度な運動習慣を持つこと | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 豊岡短期大学『健康科学』『表現とこどもの運動』 | | | | | | |

| | | |
|--|--|----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | </ |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | スポーツ（実技） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 1 | 実技 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 運動実技の基礎を行う。保育者に必要となる基礎体力の維持増進や運動へ親しみを持つことができるよう、実技を通して集団での運動経験を楽しむことを重視する。 | | | | |
| ※授業の進捗状況により、内容を変更する場合があります | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・健康的な運動の実践に必要な基礎力を身につける ・実技を通じ、体力づくりや健康における運動の意味について学ぶ ・集団で運動を行うことの楽しさを味わい、皆で協力し、活動を行う | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 適度な運動習慣を持つこと 見学者は要レポート提出 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の伝達 |
| 2 | 運動実技① | 様々なストレッチ |
| 3 | 運動実技② | 操作性遊具を使った遊び |
| 4 | 運動実技③ | 基礎的な移動運動、集団で行う運動遊び |
| 5 | 運動実技④ | 幼児と行う体操のレパートリー① |
| 6 | 運動実技⑤ | 幼児と行う体操のレパートリー② |
| 7 | 運動実技⑥ | 幼児と行う体操のレパートリー③ |
| 8 | 運動実技⑦ | 幼児期運動指針：「幼児期に身につけたい36の基本動作」 |
| 9 | 運動実技⑧ | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに／創作 |
| 10 | 運動実技⑨ | 素材の検討 |
| 11 | 運動実技⑩ | 創作、練習、発表 |
| 12 | 運動実技⑪ | 幼児と行う体操のレパートリー④ |
| 13 | 運動実技⑫ | 幼児と行う体操のレパートリー⑤ |
| 14 | 運動実技⑬ | 総括 |
| 15 | まとめ | 定期試験（実技） |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育原理 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

保育の基本的な理念や意義について、テキストを中心に講義する。

保育の歴史、保育観、思想、制度を学ぶとともに、子どもの発達と保育計画、保育環境や保育方法について、具体的な事例を基に授業を進め、「保育原理」に関する理解を深めるとともに、保育者としての基礎を学ぶ。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

○保育の概念、保育の歴史保育の制度を理解する。

○保育の方法、保育環境、計画等、保育の基本的事項を理解する。

準備學習

テキストにより講義内容を理解し復習する。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。

定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 「保育原理」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------|-------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 保育の意義① | 保育の意義 |
| 3 | 保育の意義② | 保育の原理 |
| 4 | 保育の基本① | 保育の目的と方法 |
| 5 | 保育の基本② | 環境による保育 |
| 6 | 養護と教育の一体性 | 養護とは・教育とは |
| 7 | 保育の計画と評価 | 保育課程と教育課程 |
| 8 | 生きる力の基礎とは | 保育の質を高めるための方法 |
| 9 | 子どもの遊びと発達 | 生活と遊びを通した総合的な保育 |
| 10 | 保育の思想① | 保育の歴史的変遷 |
| 11 | 保育の思想② | 近代・現代の保育の思想 |
| 12 | 保育の思想③ | 我が国における保育の歴史的変遷 |
| 13 | 保育制度 | 保育所・幼稚園・認定こども園の役割 |
| 14 | 保育の現状と課題 | 小学校との連携・保護者支援 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育原理 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

保育の歴史、保育観、思想、制度を学ぶとともに、子どもの発達と保育計画、保育環境や保育方法について、具体的な事例を基に授業を進め、「保育原理」に関する理解を深めるとともに、保育者としての基礎を学ぶ。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ・保育の概念、保育の歴史、保育の制度を理解する。
- ・保育の方法、環境、計画等、保育の基本的事項を理解する。

準備學習

講義内容を理解し理解し復習する。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 「保育原理」（資料） 「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針解説」 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------|-------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 保育の意義① | 保育の意義 |
| 3 | 保育の意義② | 保育の原理 |
| 4 | 保育の基本① | 保育の目的と方法 |
| 5 | 保育の基本② | 環境による保育 |
| 6 | 養護と教育の一体性 | 養護とは・教育とは |
| 7 | 保育の計画と評価 | 保育課程と教育課程 |
| 8 | 生きる力の基礎とは | 保育の質を高めるための方法 |
| 9 | 子どもの遊びと発達 | 生活と遊びを通した総合的な保育 |
| 10 | 保育の思想① | 保育の歴史的変遷 |
| 11 | 保育の思想② | 近代・現代の保育の思想 |
| 12 | 保育の思想③ | 我が国における保育の歴史的変遷 |
| 13 | 保育制度 | 保育所・幼稚園・認定こども園の役割 |
| 14 | 保育の現状と課題 | 小学校との連携・保護者支援 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 教育原理 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 林 若子 | | | |
| 実務経験 | 短期大学にて、専任および非常勤の教員として保育者養成にあたった。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育士資格および幼稚園教諭免許状の必修科目。子どもが育つこと・育てること、社会における教育の位置等、多角的に教育の原理・原則を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1, 子どもの権利と教育の関連を理解する。 2, 主に欧米の教育思想家のそれぞれの特徴を理解する。 3, 日本における公教育の歴史と現在の制度の基本を理解する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 教育に関する報道等に関心をもち、考察する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『教育原理』豊岡短期大学 『最新保育小六法・資料集 2025』ミネルヴァ書房 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------|-------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 学びの進め方 「教育」とはなにか |
| 2 | 日本における公教育の歴史 | 学制発布から戦後教育改革まで |
| 3 | 教育の制度① | 憲法と教育基本法 |
| 4 | 教育の制度② | 教育を受ける権利と学校 |
| 5 | 諸外国の教育思想① | コメニウス、ルソー、ペスタロッチ |
| 6 | 諸外国の教育思想② | フレーベルからデューイまで |
| 7 | 子どもの権利と育ち① | 子どもの権利条約の成り立ちと概要 |
| 8 | 子どもの権利と育ち② | 子どもの権利擁護と主体的な権利行使 |
| 9 | 子どもの権利と家庭 | 保護者の権利と責任～基本的な考え方と現実の問題 |
| 10 | 子どもの発達と教育① | 発達の概念と教育 |
| 11 | 子どもの発達と教育② | 発達障害/「気になる子」の教育 |
| 12 | 教育の実践 | 近年の実践記録を読む |
| 13 | 制度から見る保育所・幼稚園 | 保育所と幼稚園の相違 |
| 14 | まとめ① | 教育についての認識の変化をまとめる |
| 15 | まとめ② | 科目まとめ 解説 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 教育原理 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 林 若子 | | | |
| 実務経験 | 短期大学において、専任教員および非常勤講師として保育者養成にあたった。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 「教育」は、身近なものだけに、むしろ授業内容が理解しにくいこともあるようです。子どもは学校に行く義務があるのか、「教育」とは、おとなが「教える」ことなのか…そんなところから固定概念を砕きつつ、「教育」の意味と保育士の役割を明らかにしていきます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①子どもの権利と教育の関係を理解する。 ②日本における公教育の歴史を理解する。 ③教育の制度の概要を理解する。 ④教員の役割を理解する。 ⑤さまざまな教育実践があることを知る。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・教育に関するさまざまな報道に関心をもち、その内容を正確に読み取る。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・『保育小六法・資料集 2025』ミネルヴァ書房 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省編 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|--------------|-------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方・学び方 「釜石の奇跡」にみる教育と学び |
| 2 | 子どもの権利と教育 | 「子どもの権利条約」の意味 教育の目的・教育へのアクセス |
| 3 | 教育の制度・行政 | 現在の日本の教育制度を憲法・教育基本法等から概観する |
| 4 | 家庭と教育 | 様々な言説を交えながら保護者の権利と責任を正確に把握する |
| 5 | 日本における公教育の歴史 | 学制発布にはじまる公教育の歴史を概観する |
| 6 | 日本における保育のあゆみ | 明治期から現在にいたる保育施設のあゆみを概観する |
| 7 | 教育の思想 | コメニウス、ルソー、ペスタロッチ等の教育思想を概観する |
| 8 | 生涯学習社会と教育 | リカレント教育の本来の意味 生涯教育としての「子育て支援」 |
| 9 | 教員の役割 | 保育士の職務と倫理 |
| 10 | 教育の方法 | 目標の設定、教材の選択、指導方法 |
| 11 | 特別支援教育 | 特別支援教育の対象と実践 |
| 12 | さまざまな教育実践① | 実践記録を読み取る |
| 13 | さまざまな教育実践② | 実践記録を読み取る |
| 14 | まとめ① | 復習 |
| 15 | まとめ② | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---------------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | こども家庭福祉 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして社会的養護の対象児童をの支援経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 現代社会の子育て環境の現状と課題について理解を深める。また子どもだけではなく保護者、家庭も対象という認識を持つことも目標としている。子ども家庭福祉の成立ち、背景や歴史から、現在社会が抱える子育ての課題、家族の変化、子育て支援について学習をする。教育的視点取り入れながら子どもに関わる福祉について学ぶ。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| こども家庭福祉の理念、歴史、課題、支援の在り方、今後の展望について知識を深める。子ども家庭福祉とは対象が子どもだけではなく、その保護者、家庭を含むことを理解する。また、自身の考えや意見をまとめ伝えることも授業の中に盛り込み、保育者として子どもとその家庭を支援する一人であるという意識変革をもたらす。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 配布プリントを復習する。子どもに関するニュースなどに目を通しておく。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『こども家庭福祉』 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科> | | |
|-----------------------|---------------------------------|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 講師自己紹介、子ども家庭福祉の授業について概要を説明する。 |
| 2 | こども家庭福祉の理念と歴史 | 昔の日本の子どもの捉え方と戦後、アメリカにより日本の子育てや教育がどのように変わってきたかを学ぶ。 |
| 3 | 現代社会の子どもと家庭に関する課題 | 子どもと家庭にはどのような社会問題があるかを考える。少子高齢化の原因と今後に与える影響とはなにか。 |
| 4 | 子どもの権利条約について | 子どもの権利条約の成り立ちや理念について学ぶ。また、海外と日本の子どもの人権擁護の考え方の違いについて学ぶ。 |
| 5 | 子ども家庭福祉の制度と実施体形 | こども家庭福祉に関する法律法律の内容について触れ、法律によってどのようなことから守られているか人権擁護の観点からも考察する。 |
| 6 | こども家庭福祉の実施体系、専門職について | 専門機関及び行政がどのような働きをしているか学習する。また専門職については子ども家庭福祉だけではなく、教育分野にも視野を広げる。 |
| 7 | こども家庭福祉の現状と課題 | ニュースなどで取り上げられているような時事問題を提示し、今まで学習したことから解決の糸口を考察する。 |
| 8 | 母子保健と子どもの健全育成 | 妊娠・出産から行政や自治体、その他の支援団体などが母子と関わりながら子育て支援を行っていることについて学ぶ。 |
| 9 | 多様な子育て支援 | 子育て支援充実のため、現状の課題を見つめ今度どのような展望が望ましいかを考える。また学びから将来保育者としてのイメージを広げる。 |
| 10 | 児童虐待 | 児童虐待が起こる背景や現状、私たちができることについて学ぶ。子どもだけではなく親の心の状態や虐待家庭への支援についても学習する。 |
| 11 | 障がい児への支援 | 障がい種別の他、支援については福祉、教育両面から学ぶ。また、合理的配慮という面から公平性についても学習する。 |
| 12 | 非行、貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子ども、ヤングケアラー① | 現状と今後の課題としてさらに日本が取り組まなくてはいけない子ども家庭福祉について学ぶ。 |
| 13 | 非行、貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子ども、ヤングケアラー② | 現状と今後の課題としてさらに日本が取り組まなくてはいけない子ども家庭福祉について学ぶ。 |
| 14 | こども家庭福祉の動向と今後の展望 | 子ども家庭福祉で学んだことから、現状の課題と将来自身が保育者として子どもと家庭を支援するために必要な知識、技能とはなにか考える。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | こども家庭福祉 | | | |
|---------|---------------------------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして社会的養護の対象児童をの支援経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

現代社会の子育て環境の現状と課題について理解を深める。また子どもだけではなく保護者、家庭も対象という認識を持つことも目標としている。子ども家庭福祉の成立ち、背景や歴史から、現在社会が抱える子育ての課題、家族の変化、子育て支援について学習をする。教育的視点取り入れながら子どもに関わる福祉について学ぶ。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

こども家庭福祉の理念、歴史、課題、支援の在り方、今後の展望について知識を深める。子ども家庭福祉とは対象が子どもだけではなく、その保護者、家庭を含むことを理解する。また、自身の考えや意見をまとめ伝えることも授業の中に盛り込み、保育者として子どもとその家庭を支援する一人であるという意識変革をもたらす。

準備學習

配布プリントを復習する。子どもに関するニュースなどに目を通しておく。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|------------------|
| 使用テキスト | 『こども家庭福祉』 豊岡短期大学 |
|--------|------------------|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| 授業計画 | | |
|------|---------------------------------|--|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 講師自己紹介、子ども家庭福祉の授業について概要を説明する。 |
| 2 | こども家庭福祉の理念と歴史 | 昔の日本の子どもの捉え方と戦後、アメリカにより日本の子育てや教育がどのように変わってきたかを学ぶ。 |
| 3 | 現代社会の子どもと家庭に関する課題 | 子どもと家庭にはどのような社会問題があるかを考える。少子高齢化の原因と今後に与える影響とはなにか。 |
| 4 | 子どもの権利条約について | 子どもの権利条約の成り立ちや理念について学ぶ。また、海外と日本の子どもの人権擁護の考え方の違いについて学ぶ。 |
| 5 | 子ども家庭福祉の制度と実施体形 | こども家庭福祉に関する法律法律の内容について触れ、法律によってどのようなことから守られているか人権擁護の観点からも考察する。 |
| 6 | こども家庭福祉の実施体系、専門職について | 専門機関及び行政がどのような働きをしているか学習する。また専門職については子ども家庭福祉だけではなく、教育分野にも視野を広げる。 |
| 7 | こども家庭福祉の現状と課題 | ニュースなどで取り上げられているような時事問題を提示し、今まで学習したことから解決の糸口を考察する。 |
| 8 | 母子保健と子どもの健全育成 | 妊娠・出産から行政や自治体、その他の支援団体などが母子と関わりながら子育て支援を行っていることについて学ぶ。 |
| 9 | 多様な子育て支援 | 子育て支援充実のため、現状の課題を見つめ今度どのような展望が望ましいかを考える。また学びから将来保育者としてのイメージを広げる。 |
| 10 | 児童虐待 | 児童虐待が起こる背景や現状、私たちができることについて学ぶ。子どもだけではなく親の心の状態や虐待家庭への支援についても学習する。 |
| 11 | 障がい児への支援 | 障がい種別の他、支援については福祉、教育両面から学ぶ。また、合理的配慮という面から公平性についても学習する。 |
| 12 | 非行、貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子ども、ヤングケアラー① | 現状と今後の課題としてさらに日本が取り組まなくてはならない子ども家庭福祉について学ぶ。 |
| 13 | 非行、貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子ども、ヤングケアラー② | 現状と今後の課題としてさらに日本が取り組まなくてはならない子ども家庭福祉について学ぶ。 |
| 14 | こども家庭福祉の動向と今後の展望 | 子ども家庭福祉で学んだことから、現状の課題と将来自身が保育者として子どもと家庭を支援するために必要な知識、技能とはなにか考える。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

[illegible][illegible]

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------|-------------------------|------|-----|------|------------------------|----------------------------|---------------------------------------|
| 科目名 | 社会福祉論 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 | 1 | オリエンテーション | 福祉領域で働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する） |
| 担当教員 | 山本 忠篤 | | | | 2 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について① | 社会福祉の理念と概念 |
| 実務経験 | 東京都特別区自治体で福祉職の実務経験を有する。 | | | | 3 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について② | 社会福祉の歴史的変遷 |
| | | | | | 4 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について③ | 子ども家庭支援と社会福祉 |
| | | | | | 5 | 社会福祉の制度と実施体系について① | 社会福祉の制度と法体系 |
| | | | | | 6 | 社会福祉の制度と実施体系について② | 社会福祉行財政と実施機関 |
| | | | | | 7 | 社会福祉の制度と実施体系について③ | 社会福祉施設 |
| | | | | | 8 | 社会福祉の制度と実施体系について④ | 社会福祉の専門職 |
| | | | | | 9 | 社会福祉の制度と実施体系について⑤ | 社会保障及び関連制度の概要 |
| | | | | | 10 | 社会福祉における相談援助について | 相談援助の仕組み |
| | | | | | 11 | 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて① | 情報提供と第三者評価 |
| | | | | | 12 | 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて② | 利用者の権利擁護と苦情解決 |
| | | | | | 13 | 社会福祉の動向と課題について① | 少子高齢化社会における子育て支援や共生社会の実現と障害者施策 |
| | | | | | 14 | 社会福祉の動向と課題について② | 在宅福祉・地域福祉の推進や諸外国の動向 |
| | | | | | 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------|-------------------------|------|-----|------|----------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|
| 科目名 | 社会福祉論 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 | 1 | オリエンテーション | 福祉領域で働く意味について考える（仕事や働き方を選ぶ基準について理解する） |
| 担当教員 | 山本 忠篤 | | | | 2 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について① | 社会福祉の理念と概念 |
| 実務経験 | 東京都特別区自治体で福祉職の実務経験を有する。 | | | | 3 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について② | 社会福祉の歴史的変遷 |
| | | | | | 4 | 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について③ | 子ども家庭支援と社会福祉 |
| | | | | | 5 | 社会福祉の制度と実施体系について① | 社会福祉の制度と法体系 |
| | | | | | 6 | 社会福祉の制度と実施体系について② | 社会福祉行財政と実施機関 |
| | | | | | 7 | 社会福祉の制度と実施体系について③ | 社会福祉施設 |
| | | | | | 8 | 社会福祉の制度と実施体系について④ | 社会福祉の専門職 |
| | | | | | 9 | 社会福祉の制度と実施体系について⑤ | 社会保障及び関連制度の概要 |
| | | | | | 10 | 社会福祉における相談援助について | 相談援助の仕組み |
| | | | | | 11 | 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて① | 情報提供と第三者評価 |
| | | | | 12 | 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて② | 利用者の権利擁護と苦情解決 | |
| | | | | 13 | 社会福祉の動向と課題について① | 少子高齢化社会における子育て支援や共生社会の実現と障害者施策 | |
| | | | | 14 | 社会福祉の動向と課題について② | 在宅福祉・地域福祉の推進や諸外国の動向 | |
| | | | | 15 | まとめ | 科目まとめ | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|---|-------------------------------|------|-----|------|------------------------|-------------|--------------------|
| 科目名 | こども家庭支援論 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 | 1 | オリエンテーション | 子ども家庭支援の意義と必要性について |
| 担当教員 | 山本 忠篤 | | | | 2 | 子ども家庭支援の基本① | 目標と機能について |
| 実務経験 | 東京都特別区自治体で福祉職の実務経験を有する。 | | | | 3 | 子ども家庭支援の基礎② | 保育士等の役割について |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 保育士による子育て家庭支援に必要な知識として、幅広い知識と、専門性が求められている。そのために「家庭」という基礎的な部分を理解する必要がある。そのために家庭支援の意義や、目的・機能について学ぶと共に、現在の問題点、支援方法、今後についても学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| ①子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解できる。 ②保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解できる。 ③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できる。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| A組は子育て支援に関してどのような課題を有しているのか文献、調査等で事前に学ぶ。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 新基本保育シリーズ 5「子ども家庭支援論」(中央法規出版) | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | </ |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|---|-------------------------------|------|-----|------|------------------------|-------------|--------------------|
| 科目名 | こども家庭支援論 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 | 1 | オリエンテーション | 子ども家庭支援の意義と必要性について |
| 担当教員 | 山本 忠篤 | | | | 2 | 子ども家庭支援の基本① | 目標と機能について |
| 実務経験 | 東京都特別区自治体で福祉職の実務経験を有する。 | | | | 3 | 子ども家庭支援の基礎② | 保育士等の役割について |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 保育士による子育て家庭支援に必要な知識として、幅広い知識と、専門性が求められている。そのために「家庭」という基礎的な部分を理解する必要がある。そのために家庭支援の意義や、目的・機能について学ぶと共に、現在の問題点、支援方法、今後についても学ぶ。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| ①子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解できる。 ②保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解できる。 ③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できる。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| B組は子育て支援に関しての体験を生かし共有すること。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 新基本保育シリーズ 5「子ども家庭支援論」(中央法規出版) | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---------------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 社会的養護 I | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼教コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして社会的養護の対象児童をの支援経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 社会的養護の成り立ちや必要とする子どもたちの背景、現状について学び、歴史的に子どもたちがどのように社会で保護されてきたか、現在の社会的養護の理念について知識を深める。保育士として社会的養護が必要な子どもたちと関わる際に必要な専門的知識や技術を習得し、自身の考えや意見を表出していく。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 社会的養護を必要とする子どもの現状と社会的背景を知る。社会的養護の種類（施設養護と家庭養護）とその役割を理解する。社会的養護の現状と課題について知る。保育士として社会的養護を必要とする子どもたちと関わる際に必要な知識や技術を習得し、倫理と責務について考察をする。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・配布プリントを見返して復習をする。 ・ニュース記事などを読んでおく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『社会的養護 I 』石田易司編 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 講師自己紹介、授業の目的、概要、進め方について説明。 |
| 2 | 社会的養護の意義 | 社会的養護の必要性、理念と現代の子育て家庭が抱 |
| 3 | 社会的養護の歴史的変換 | 日本で社会的養護が必要とされる子どもたちがどのように保護されてきたのかを知り、現在の形態と概念を学ぶ |
| 4 | 子どもの人権擁護と社会的養護 | 子どもの権利を守る社会的養護とは何か、人権は守られているか、守るために専門職としてできることを考える |
| 5 | 社会的養護の対象① | 施設養護について学び、児童福祉施設の種類と内容、それぞれの特性について学ぶ。 |
| 6 | 社会的養護の対象② | 里親制度、特別養子縁組など家庭的養護について学ぶ |
| 7 | 社会的養護の制度と実施体系① | 社会的養護に関する法体系、関係する法律について学ぶ |
| 8 | 社会的養護の制度と実施体系① | 社会的養護の仕組みや実施体系について学ぶ |
| 9 | 社会的養護に関わる専門職について① | 様々な専門職が子どもに関わり、支援していることを学ぶ |
| 10 | 社会的養護に関わる専門職について② | 社会的養護に関わる保育士の業務について事例を通して学ぶ |
| 11 | 社会的養護と地域福祉① | 子どもと家庭支援の在り方や地域と施設等の関係性について考察する |
| 12 | 社会的養護と地域福祉② | 地域と連携して行う支援の必要性について学ぶ |
| 13 | 子どもと家族への支援 | 親子関係の再構築や児童相談所との連携などを行う際に、専門職として担うべき役割について学ぶ |
| 14 | 振り返り | 学んだことから疑問点などを抽出し、テストに向け、また保育士として働くために必要な知識や技術を学ぶことができたかを考察する。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|----------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅰ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 社会的養護の成り立ちや必要とする子どもたちの背景、現状について学び、歴史的に子どもたちがどのように社会で保護されてきたか、現在の社会的養護の理念について知識を深める。保育士として社会的養護が必要な子どもたちと関わる際に必要な専門的知識や技術を習得し、自身の考えや意見を表出していく。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 社会的養護を必要とする子どもの現状と社会的背景を知る。社会的養護の種類（施設養護と家庭養護）とその役割を理解する。社会的養護の現状と課題について知る。保育士として社会的養護を必要とする子どもたちと関わる際に必要な知識や技術を習得し、倫理と責務について考察をする。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・配布プリントを見返して復習をする。 ・ニュース記事などを読んでおく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『社会的養護Ⅰ』石田易司編 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 講師自己紹介、授業の目的、概要、進め方について説明。 |
| 2 | 社会的養護の意義 | 社会的養護の必要性、理念と現代の子育て家庭が抱 |
| 3 | 社会的養護の歴史的変換 | 日本で社会的養護が必要とされる子どもたちがどのように保護されてきたのかを知り、現在の形態と概念を学ぶ |
| 4 | 子どもの人権擁護と社会的養護 | 子どもの権利を守る社会的養護とは何か、人権は守られているか、守るために専門職としてできることを考える |
| 5 | 社会的養護の対象① | 施設養護について学び、児童福祉施設の種類と内容、それぞれの特性について学ぶ。 |
| 6 | 社会的養護の対象② | 里親制度、特別養子縁組など家庭的養護について学ぶ |
| 7 | 社会的養護の制度と実施体系① | 社会的養護に関する法体系、関係する法律について学ぶ |
| 8 | 社会的養護の制度と実施体系① | 社会的養護の仕組みや実施体系について学ぶ |
| 9 | 社会的養護に関わる専門職について① | 様々な専門職が子どもに関わり、支援していることを学ぶ |
| 10 | 社会的養護に関わる専門職について② | 社会的養護に関わる保育士の業務について事例を通して学ぶ |
| 11 | 社会的養護と地域福祉① | 子どもと家庭支援の在り方や地域と施設等の関係性について考察する |
| 12 | 社会的養護と地域福祉② | 地域と連携して行う支援の必要性について学ぶ |
| 13 | 子どもと家族への支援 | 親子関係の再構築や児童相談所との連携などを行う際に、専門職として担うべき役割について学ぶ |
| 14 | 振り返り | 学んだことから疑問点などを抽出し、テストに向け、また保育士として働くために必要な知識や技術を学ぶことができたかを考察する。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 教職論（保育者論） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 伊藤 萌 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園及び保育園において、保育者としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 専門職としての教職（保育者）の役割や倫理について学ぶとともに、その専門性について考察をします。また、自分自身の人間性が保育の専門性に直結する仕事であることを踏まえ“自分と向き合う”ということを軸にしながら、教職（保育者）に対する理解を深めていきます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①教職（保育者）の役割と倫理について理解する。 ②教職（保育者）に求められる専門性について理解する。 ③自己理解を深め、自分が目指す保育者像を具体的にイメージができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・授業内で扱った内容やキーワードとなる部分をまとめ、自分なりの考えを整理する。 ・自分の長所短所について、日常の中で折に触れて考える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『教職論』（豊岡短期大学） 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド社） 『保育所保育指針解説』（フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|------------------------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 科目概要の説明/教職（保育者）とは何か考える |
| 2 | 保育者に求められる資質・能力 | 現代の保育を取り巻く様々な問題に目を向け、専門性について考える |
| 3 | 指導計画 | 保育のねらいと内容について理解する |
| 4 | 保育における子どもとの関わり | 主体的・対話的で深い学びの視点から保育を理解する |
| 5 | 教育（保育）現場における家庭との連携・支援① | 保育と家庭のつながりについて考える |
| 6 | 教育（保育）現場における家庭との連携・支援② | 保護者との関係性構築について考える |
| 7 | 保育者養成の歴史 | 倉橋惣三の保育観を知る |
| 8 | 保育者の資質と役割 | 自己分析を通して保育の仕事をつめる |
| 9 | 保育者の職場環境① | 保育者の仕事の実際に触れる |
| 10 | 保育者の職場環境② | 保育者の労働環境について考える |
| 11 | 保育者の職場環境③ | もしも園を創るなら？ |
| 12 | 他機関との連携 | 小1プロブレムについて考える |
| 13 | 今日的な教育課題に対応するために | ロールプレイングを通して課題と向き合う。 |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 教職論（保育者論） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 伊藤 萌 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園及び保育園において、保育者としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 専門職としての保育者の役割や倫理について学ぶとともに、その専門性について考察をします。また、自分自身の人間性が保育の専門性に直結する仕事であることを踏まえ“自分と向き合う”ということを軸にしながら保育者に対する理解を深めていきます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育者に求められる専門性について理解する。 ③自己理解を深め、自分が目指す保育者像を具体的にイメージができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・授業内で扱った内容やキーワードとなる部分をまとめ、自分なりの考えを整理する。 ・自分の長所短所について、日常の中で折に触れて考える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（チャイルド社） 『保育所保育指針解説』（フレーベル館） | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要について/マインドマップを作成し保育をイメージする |
| 2 | 保育者に求められる資質・能力 | 現代の保育を取り巻く様々な問題に目を向け、専門性について考える |
| 3 | 保育と子どもの権利① | 子どもの権利条約について知る |
| 4 | 保育と子どもの権利② | 日本の保育における子どもの権利のあり方について考える |
| 5 | 保育者の職場環境① | 保育者の労働環境について考える |
| 6 | 保育者の職場環境② | グループワーク もしも園を創るなら？ |
| 7 | 保育者の職場環境③ | グループワーク 発表 |
| 8 | 育みたい資質・能力 3つの柱 | 子どもたちに育みたい資質・能力について資料を読み解き理解をする |
| 9 | 指導計画の作成① | 保育を計画することの必要性を理解する |
| 10 | 指導計画の作成② | 保育の計画と実践のつながりについて考える |
| 11 | 指導案の作成① | 実際に指導案を作成する |
| 12 | 指導案の作成② | 実際に指導案を作成する |
| 13 | 他機関との連携 | 小1プロブレムについて考ええる |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|----------|------|-----|------|
| 科目名 | 発達心理学 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 発達とは一般的に誕生してから死に至るまでの心身の変化の過程と定義されている。この授業では、発達心理学における基本的な知識の修得に加え、保育の現場に出た際に子どもや保護者への支援に活かすことを目的とする。また、この授業を通じて個々の発達の多様性への理解も深めてもらいたい。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①発達心理学の理論や概念、実験方法、考え方など基本的な知識を修得する。 ②修得した知識をいかに実際の現場に応用していくか、実践していくことができるかを自分自身で考えることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回の授業に関する資料を精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|---------------|----------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業の内容と進め方の説明、発達心理学とは |
| 2 | 発達心理学とは① | 理論的な理解を通して発達心理学の全体像をとらえる（フロイト） |
| 3 | 発達心理学とは② | 理論的な理解を通して発達心理学の全体像をとらえる（ピアジェ） |
| 4 | 発達心理学とは③ | 理論的な理解を通して発達心理学の全体像をとらえる（エリクソン他） |
| 5 | 発達段階の特徴とその理解① | 胎児期・新生児期 |
| 6 | 発達段階の特徴とその理解② | 乳児期① |
| 7 | 発達段階の特徴とその理解③ | 乳児期② |
| 8 | 発達段階の特徴とその理解④ | 幼児期① |
| 9 | 発達段階の特徴とその理解⑤ | 幼児期② |
| 10 | 発達段階の特徴とその理解⑥ | 児童期 |
| 11 | 発達段階の特徴とその理解⑦ | 青年期 |
| 12 | 発達段階の特徴とその理解⑧ | 成人期① |
| 13 | 発達段階の特徴とその理解⑨ | 成人期② |
| 14 | 科目まとめ | 定期試験 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 発達心理学 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 弓田千春 | | | |
| 実務経験 | 臨床心理士、公認心理師としてカウンセリングを行う。高校、専門学校、大学（医療、看護、保育、心理、教職資格過程など）で、講師を務めている。臨床心理士養成の大学院における実習施設指導員を務めた。現在は、クリニックや大学学生相談室にてカウンセリングを行っている。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 発達心理学の講義では、人の発達の過程とその中で起こる心理的身体的な変化や課題に関する概要を示していく。乳児期から青年期までのことだけではなく、親となり子を育て年を重ねていくといった、自分も未体験な段階についても起こる変化を想像しながら講義に臨んでもらいたい。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 発達心理学の基礎的な理論から、保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学び、子どもの理解を深め、子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを理解する。また、発達は生涯を通じて起こるものであるという生涯発達についての知識を得ることを目標とする。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業前は資料や教科書で予習する。授業中はノートテイクに集中し、わからないことはなるべく授業中に質問すること。授業後の復習が重要であるため、作成したノートをもとに理解を深めること。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | | | | |
| 指定教科書を使用。その他は、資料等はデータ配布する。 | | | | |

| 授業計画 | | |
|------|---------------------|-----------------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | ガイダンス、発達心理学の定義、自分史作成 |
| 2 | 発達心理学とは何か① | 発達心理学の諸理論① |
| 3 | 発達心理学とは何か② | 発達心理学の諸理論② |
| 4 | 乳児期の発達 | 胎児期、乳児期における様々な心身の発達について |
| 5 | 幼児期前期の発達 | 幼児期前期における様々な心身と関係の発達について |
| 6 | 幼児期後期の発達 | 幼児期後期における様々な心身と関係の発達について |
| 7 | 児童期の発達 | 児童期における様々な心身と関係の発達について |
| 8 | 思春期の発達 | 思春期における様々な心身と関係の発達について |
| 9 | 青年期の発達 | 青年期における様々な心身と関係の発達について |
| 10 | 青年期とアイデンティティの確立について | ここまでの発達の理解の振り返りと、現在の自分自身の発達を振り返る |
| 11 | 成人前期の発達 | 成人前期における様々な心身と関係の発達について |
| 12 | 成人中期の発達 | 成人中期における様々な心身と関係の発達について |
| 13 | 成人後期の発達 | 成人後期における様々な心身と関係の発達について |
| 14 | 老年期の発達 | 老年期における様々な心身と関係の発達について、発達の視点の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-------------|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの発達と家庭支援 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| こどもの発達およびそれに応じた家庭支援に関する基本的な知識の修得と現場への応用を念頭に、講義形式を基盤にしつつ、最終的にはグループでのプレゼンテーションを実施する。家族についての理解を深めてもらうためにも詳しい解説を行う。リアクションペーパーの記入を通じて自分自身への気づきにもつなげてもらいたい。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①「こどもの発達と家庭支援」に関する理論や知識、考え方、および家族についての理解、知識を身につける。 ②知識を実際の現場にいかに応用できるかを学生自身が考えられる。 ③支援者としての自分自身の自己理解を深める。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回の授業に関する資料等を事前に精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方と内容を解説、こどもの発達と家庭支援とは |
| 2 | 家族について① | こどもの家庭支援の意義と役割 |
| 3 | 家族について② | 家族とは何かを考える |
| 4 | 家族について③ | 現代社会における家族の変化（機能や形態） |
| 5 | 家族について④ | 現代社会における家族の変化（近代家族） |
| 6 | 家族について⑤ | 家族をシステムとしてとらえる（家族療法） |
| 7 | 家族について⑥ | 家族を取り巻く社会の変化 |
| 8 | 家庭支援について① | 保育士に求められる基本的態度・調べ学習 |
| 9 | 家庭支援について② | 保護者との信頼関係を築くかわり方・調べ学習 |
| 10 | 家庭支援について③ | 子ども家庭支援の内容と対象・調べ学習 |
| 11 | 家庭支援について④ | 保育所等と利用する子どもの家庭、地域の子育て家庭、要保護児童およびその家庭への支援・調べ学習 |
| 12 | 発表① | こどもの発達と家庭支援に関する発表① |
| 13 | 発表② | こどもの発達と家庭支援に関する発表② |
| 14 | まとめ | 科目まとめ |
| 15 | 全体のまとめ | こどもの発達と家庭支援に関する課題と展望 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-------------|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの発達と家庭支援 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| こどもの発達およびそれに応じた家庭支援に関する基本的な知識の修得と現場への応用を念頭に、講義形式を基盤にしつつ、最終的にはグループでのプレゼンテーションを実施する。家族についての理解を深めてもらうためにも詳しい解説を行う。リアクションペーパーの記入を通じて自分自身への気づきにもつなげてもらいたい。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①「こどもの発達と家庭支援」に関する理論や知識、考え方、および家族についての理解、知識を身につける。 ②知識を実際の現場にいかに応用できるかを学生自身が考えられる。 ③支援者としての自分自身の自己理解を深める。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回の授業に関する資料等を事前に精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|-----------|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方と内容を解説、こどもの発達と家庭支援とは |
| 2 | 家族について① | こどもの家庭支援の意義と役割 |
| 3 | 家族について② | 家族とは何かを考える |
| 4 | 家族について③ | 現代社会における家族の変化（機能や形態） |
| 5 | 家族について④ | 現代社会における家族の変化（近代家族） |
| 6 | 家族について⑤ | 家族をシステムとしてとらえる（家族療法） |
| 7 | 家族について⑥ | 家族を取り巻く社会の変化 |
| 8 | 家庭支援について① | 保育士に求められる基本的態度・調べ学習 |
| 9 | 家庭支援について② | 保護者との信頼関係を築くかわり方・調べ学習 |
| 10 | 家庭支援について③ | 子ども家庭支援の内容と対象・調べ学習 |
| 11 | 家庭支援について④ | 保育所等と利用する子どもの家庭、地域の子育て家庭、要保護児童およびその家庭への支援・調べ学習 |
| 12 | 発表① | こどもの発達と家庭支援に関する発表① |
| 13 | 発表② | こどもの発達と家庭支援に関する発表② |
| 14 | まとめ | 科目まとめ |
| 15 | 全体のまとめ | こどもの発達と家庭支援に関する課題と展望 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科＞ | | |
|---|--|------|-----|------|-----------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | こどもの理解と援助 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| くども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 | 1 | ガイダンス | こどもの理解と援助についての概要の説明 |
| 担当教員 | 小谷 博子 | | | | 2 | 発達を学ぶ 1 | 発達をどうとらえるか？ |
| 実務経験 | 足立区地域保健福祉推進協議会子ども支援部会特別部会員として行政の子育て政策に関わり、大学教員として子育て支援の研究を行っている。 | | | | 3 | 発達を学ぶ 2 | 発達を学んだら、保育はどう変わるの？ |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 本講義では、発達の視点と保育の手立てをむすび、保育と発達について取り上げます。乳幼児に育ってほしい「力」とは何か？ それは、どんな保育の中で育まれていくのか？ 子ども主体の新しい発達論・保育実践論を支えに、年齢別の事例分析を通して具体的な手立てをさまざまな事例を通して学びます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 1, 乳幼児の発達過程と各段階の特徴を理解する。 2, いわゆる「気になる子」をどう捉えるか考える。 3, それらを踏まえた援助のあり方を理解する。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 事前学習：次回授業で扱う範囲について教科書をあらかじめ読み、必要に応じて関連事項について調べておく。 事後学習：授業内容を振り返り、ノートにまとめる。レポート課題を課す場合はレポートを作成する。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『どの子にもあ～楽しかった！の毎日を』赤木和重、岡村由紀子ほか ひとなる書房 | | | | | | |

| | | |
|--|--|-------------------------------------|
| | | ※授業の進行や社会情勢によっては、授業内容と計画を変更する場合がある。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科> | | |
|---|---|------|-----|------|-----------------------|---------|---------------------|
| 科目名 | こどもの理解と援助 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 | 1 | ガイダンス | こどもの理解と援助についての概要の説明 |
| 担当教員 | 小谷 博子 | | | | 2 | 発達を学ぶ 1 | 発達をどうとらえるか？ |
| 実務経験 | 足立区地域保健福祉推進協議会子ども支援部会特別部会員として行政の子育て政策に関わり、大学教員として子育て支援の研究を行っている。□ | | | | 3 | 発達を学ぶ 2 | 発達を学んだら、保育はどう変わるの？ |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 本講義では、発達の視点と保育の手立てをむすび、保育と発達について取り上げます。乳幼児に育ってほしい「力」とは何か？ それは、どんな保育の中で育まれていくのか？ 子ども主体の新しい発達論・保育実践論を支えに、年齢別の事例分析を通して具体的な手立てをさまざまな事例を通して学びます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 1, 乳幼児の発達過程と各段階の特徴を理解する。 2, いわゆる「気になる子」をどう捉えるか考える。 3, それらを踏まえた援助のあり方を理解する。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 事前学習：次回授業で扱う範囲について教科書をあらかじめ読み、必要に応じて関連事項について調べておく。 事後学習：授業内容を振り返り、ノートにまとめる。レポート課題を課す場合はレポートを作成する。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『どの子にもあ～楽しかった！の毎日を』赤木和重、岡村由紀子ほか ひとなる書房 | | | | | | |

| | | |
|--|--|-------------------------------------|
| | | ※授業の進行や社会情勢によっては、授業内容と計画を変更する場合がある。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの保健 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 三浦 由美 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的・精神的機能について学ぶ ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学ぶ、健康状態の把握の方法、関係機関との連携のあり方を理解する | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①子どもの身体的発育を理解し、保育実践に活かすことができる 子どもを取り巻く多様な環境を理解し、保育を行うことができる | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業後、各自「振り返り」を行ってください | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | こどもの保健（豊岡短期大学）、レジュメ適宜添付 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス、健康について | 子どもの健康の概念を理解する |
| 2 | 健康指標について | 子どもの健康指標および現代の子どもの健康に関する課題を理解する |
| 3 | 発育・発達について | 子どもの身体的発育・発達と保健について学ぶ |
| 4 | 胎児期・乳児期の栄養について | 生活習慣病胎児発症説について学ぶ |
| 5 | 虐待について | 虐待について学ぶ |
| 6 | 心身の健康状態について | 健康状態の観察・心身の不調について学ぶ |
| 7 | 障害があるこどもへの対応 | 慢性疾患の理解と対応について学ぶ |
| 8 | 地域における保健活動について | 地域における保健活動について学ぶ |
| 9 | 子どもの疾病の予防と対応① | 主な疾病のに特徴について学ぶ |
| 10 | 子どもの疾病の予防と対応② | 疾病の予防と対応について学ぶ |
| 11 | 感染症について① | 感染症（食中毒も含む）の理解とその対策について学ぶ |
| 12 | 感染症について② | 感染症法・学校感染症・予防接種法について学ぶ |
| 13 | 事故防止・安全対策につい | 園における事故の実態と対策について学ぶ |
| 14 | 安全管理と災害対策について | 危機管理・安全管理・災害対応について学ぶ |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| | | | | |
|---------|----------|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの保健 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 三浦 由美 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的・精神的機能について学ぶ
②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学ぶ、健康状態の把握の方法、関係機関との連携のあり方を理解する

到達目標

| | |
|-------------------------------|---|
| ①子どもの身体的発育を理解し、保育実践に活かすことができる | ② |
| 子どもを取り巻く多様な環境を理解し、保育を行うことができる | |

準備學習

授業後、各自「振り返り」を行ってください

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|----------------|
| 使用テキスト | こどもの保健（豊岡短期大学） |
|--------|----------------|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

授業計画

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|----------------|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス、健康について | 子どもの健康の概念を理解する |
| 2 | 健康指標について | 子どもの健康指標および現代の子どもの健康に関する課題を理解する |
| 3 | 発育・発達について | 子どもの身体的発育・発達と保健について学ぶ |
| 4 | 胎児期・乳児期の栄養について | 生活習慣病胎児発症説について学ぶ |
| 5 | 虐待について | 虐待について学ぶ |
| 6 | 心身の健康状態について | 健康状態の観察・心身の不調について学ぶ |
| 7 | 障害がある子どもへの対応 | 慢性疾患の理解と対応について学ぶ |
| 8 | 地域における保健活動について | 地域における保健活動について学ぶ |
| 9 | 子どもの疾病の予防と対応① | 主な疾病のに特徴について学ぶ |
| 10 | 子どもの疾病の予防と対応② | 疾病の予防と対応について学ぶ |
| 11 | 感染症について① | 感染症（食中毒も含む）の理解とその対策について学ぶ |
| 12 | 感染症について② | 感染症法・学校感染症・予防接種法について学ぶ |
| 13 | 事故防止・安全対策について | 園における事故の実態と対策について学ぶ |
| 14 | 安全管理と災害対策について | 危機管理・安全管理・災害対応について学ぶ |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの食と栄養 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 山口恭子 | | | |
| 実務経験 | 管理栄養士として、病院における臨床栄養指導、自治体における母子保健指導、大学・専門学校における栄養教育の実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 食・栄養の基本、ライフステージごとの食のあり方を学び、人間が心身ともに健康的な生活を送るためには何をどのように食べたらよいかを理解する。講義、小テスト、定期試験を通して知識の確実な習得を図るとともに、実習・演習の主体的な学びを通して、こどもや保護者へ知識を伝えるための実践力を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①健康的な生活の基本である食の意義や栄養の知識を学び、食生活で実践する力を身につける。 ②こどもの発育・発達に合わせた食生活の意義と基本的知識を理解する。 ③食育の意義を理解し、実践方法を具体的に考えることができる。 ④特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解し、適切に対応できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：テキストを読み、講義内容を把握しておく。 事後学習：ノートで講義内容を復習するとともに、次回的小テストに備える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『イラスト子どもの食と栄養』 森脇千夏ら著、東京教学社、ISBN：978-4-8082-6060-6 『子どもの食と栄養』 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|---------------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 子どもの心身の健康と食生活 | 子どもの心身の健康と食生活の意義、現状と課題 |
| 2 | 子どもの発育・発達と食生活 | 子どもの発育・発達の基本的知識、食べる機能の発達、栄養状態の評価 |
| 3 | 栄養に関する基本的知識① | エネルギー、栄養素、代謝に関する基本的知識 |
| 4 | 栄養に関する基本的知識② | 日本人の食事摂取基準、食事構成 |
| 5 | 乳児期の栄養と食生活① | 乳児期の身体的・生理的特徴 |
| 6 | 乳児期の栄養と食生活② | 離乳期の栄養 |
| 7 | 幼児期の栄養と食生活① | 食機能の発達と成長、食事・間食の意義とその実践 |
| 8 | 幼児期の栄養と食生活② | 幼児期の食行動の問題と対応 |
| 9 | 妊娠期、学童・思春期、成人期、高齢期の栄養と食生活 | 各ライフステージの身体的・生理的特徴と食生活 |
| 10 | 実習・演習① | 調乳・離乳食実習（前半班）／食育課題演習（後半班） |
| 11 | 実習・演習② | 調乳・離乳食実習（後半班）／食育課題演習（前半班） |
| 12 | 食育の基本と内容 | 食育基本法、食育の必要性と食育の実際 家庭や児童福祉施設における食事と栄養、食育 |
| 13 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① | こどもの疾病、体調不良の基本的知識と食対応 |
| 14 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② | 食物アレルギーの基本的知識と食対応 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの食と栄養 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 山口恭子 | | | |
| 実務経験 | 管理栄養士として、病院における臨床栄養指導、自治体における母子保健指導、大学・専門学校における栄養教育の実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 食・栄養の基本、ライフステージごとの食のあり方を学び、人間が心身ともに健康的な生活を送るためには何をどのように食べたらよいかを理解する。講義、小テスト、定期試験を通して知識の確実な習得を図るとともに、実習・演習の主体的な学びを通して、こどもや保護者へ知識を伝えるための実践力を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①健康的な生活の基本である食の意義や栄養の知識を学び、食生活で実践する力を身につける。 ②こどもの発育・発達に合わせた食生活の意義と基本的知識を理解する。 ③食育の意義を理解し、実践方法を具体的に考えることができる。 ④特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解し、適切に対応できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：テキストを読み、講義内容を把握しておく。 事後学習：ノートで講義内容を復習するとともに、次回的小テストに備える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『イラスト子どもの食と栄養』 森脇千夏ら著、東京教学社、ISBN：978-4-8082-6060-6 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|---------------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 子どもの心身の健康と食生活 | 子どもの心身の健康と食生活の意義、現状と課題 |
| 2 | 子どもの発育・発達と食生活 | 子どもの発育・発達の基本的知識、食べる機能の発達、栄養状態の評価 |
| 3 | 栄養に関する基本的知識① | エネルギー、栄養素、代謝に関する基本的知識 |
| 4 | 栄養に関する基本的知識② | 日本人の食事摂取基準、食事構成 |
| 5 | 乳児期の栄養と食生活① | 乳児期の身体的・生理的特徴 |
| 6 | 乳児期の栄養と食生活② | 離乳期の栄養 |
| 7 | 幼児期の栄養と食生活① | 食機能の発達と成長、食事・間食の意義とその実践 |
| 8 | 幼児期の栄養と食生活② | 幼児期の食行動の問題と対応 |
| 9 | 妊娠期、学童・思春期、成人期、高齢期の栄養と食生活 | 各ライフステージの身体的・生理的特徴と食生活 |
| 10 | 実習・演習① | 調乳・離乳食実習（前半班）／食育課題演習（後半班） |
| 11 | 実習・演習② | 調乳・離乳食実習（後半班）／食育課題演習（前半班） |
| 12 | 食育の基本と内容 | 食育基本法、食育の必要性と食育の実際 家庭や児童福祉施設における食事と栄養、食育 |
| 13 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① | こどもの疾病、体調不良の基本的知識と食対応 |
| 14 | 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② | 食物アレルギーの基本的知識と食対応 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 教育課程論（保育の計画と評価） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 伊藤 萌 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園及び保育園において、保育者としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育の実践を俯瞰しながら、保育・教育の意味と意義について問い直す授業です。また、現在の保育・教育をめぐる課題も踏まえ、子どもの姿と保育の目的を適切に捉えた豊かな保育カリキュラムを自分たちで設計できるように、保育の計画と評価について学びます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①世界の様々な保育思想にも目を向けながら、日本の保育・教育観の変遷の歴史を辿り、自分自身の保育観を深める。 ②保育・教育をめぐる現在の様々な課題を見つめ、これからの時代に求められる保育・教育について自分なりの考えを持つ。 ③保育計画（実習指導案を含める）の作成手順を理解する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業内で扱った内容やキーワードについて、要約したり自分なりの考えをまとめたりする。添削を受けた指導案を加筆修正する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『教育課程論』 豊岡短期大学 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要について/教育課程と全体的な計画の位置づけ |
| 2 | 教育課程の編成 | 教育課程編成時の留意事項と評価・改善について |
| 3 | 小学校との連携① | 幼児教育と小学校教育の特性と段差について |
| 4 | 小学校との連携② | スタートカリキュラムについて |
| 5 | 振り返り① | レポート作成に向けて授業内容の振り返り |
| 6 | 課題作成 | これまでの学びの観点をまとめる |
| 7 | 世界の幼児教育思想 | ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリ、シュタイナー |
| 8 | 保育の計画① | 指導計画の作成 意義を知る |
| 9 | 保育の計画② | 指導計画の作成 作成手順を知る |
| 10 | 保育の計画③ | 子どもの実態からねらいと内容を立てる |
| 11 | 保育の計画④ | 実際に指導案を作成する |
| 12 | 保育の計画⑤ | 作成した指導案を振り返る |
| 13 | 学びをつなぐ | 幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿 |
| 14 | 振り返り② | 試験に向けて授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 教育課程論（保育の計画と評価） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 林 若子 | | | |
| 実務経験 | 短期大学にて、専任および非常勤の教員として保育者養成にあたった。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 計画にはじまり、実践、振り返り、改善というサイクル全体が保育の営みである。計画とはなにか、どう作成するのか、評価とはなにか、どのように実施するのか等基本的な考え方を押さえた上で、乳幼児の発達に即した保育を事例や実践記録をもとに概観する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育の計画と評価についての基本的な考え方を理解する。 ②乳幼児期の子どもの発達の順序性や各時期の特徴を踏まえて保育をつくるための基本を理解する。 ③小学校との連携・接続の考え方と実際を知る。 ④職員間の連携・協働のあり方を理解する。 ⑤保護者や地域との連携、保護者支援の基本と事例を知る。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 配信した資料に目を通す。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『保育所保育指針解説』厚生労働省編 『どの子にもあ～楽しかった！の毎日を 発達の視点と保育の手立てをむすぶ』 赤木和重 岡村由紀子ほか ひとなる書房 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------------|------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 保育計画の種類とつくり方 「評価」とはなにか |
| 2 | 0歳児クラスの生活とあそび | 事例・実践 |
| 3 | 1歳児クラスの生活とあそび | 事例・実践 |
| 4 | 2歳児クラスの生活とあそび | 事例・実践 |
| 5 | 3歳児クラスの生活とあそび | 事例・実践 |
| 6 | 4歳児クラスの生活とあそび | 事例・実践 |
| 7 | 5歳児クラスの生活とあそび | 事例・実践 |
| 8 | 異年齢保育 | 概説 実践 |
| 9 | 小学校との連携・接続 | 保育所児童保育要録ほか考え方と方法 |
| 10 | 職員間の連携・協働 | 実践記録を通して |
| 11 | 保育時間と保育内容 | 延長保育、夜間保育 |
| 12 | 保護者との連携・保護者支援① | 基本的な考え方と事例・実践 |
| 13 | 保護者との連携・保護者支援② | 基本的な考え方と事例・実践 |
| 14 | 地域との連携 | 「まち保育」の考え方と事例 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育内容総論 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

保育内容総論では、領域別の授業で学ぶ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。

準備學習

テキストにより講義内容を理解し復習する。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|---|
| 使用テキスト | 「保育内容総論」テキスト（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（最新版） 「保育所保育指針解説」（最新版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版） |
|--------|---|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|--------------------|-------------------------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 保育の全体的構造① | 保育内容総論を考える。領域の考え方と乳児保育の領域。 |
| 3 | 保育の全体的構造② | 育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿 |
| 4 | 保育内容の歴史の変遷① | 変遷にみる特徴 |
| 5 | 保育内容の歴史の変遷② | 変遷にみる課題 |
| 6 | 養護と教育の一体的展開 | 養護的なかかわりと教育的なかかわり |
| 7 | 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容① | 乳幼児にとっての園行事の意味と在り方 |
| 8 | 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容② | 保幼小の円滑な連携 |
| 9 | 環境を通して行う保育 | 生きる力の基礎をはぐむ保育内容の展開 |
| 10 | 遊びによる総合的な保育 | 生きる力の基礎をはぐむ保育内容の展開 |
| 11 | 指導計画の作成手順と配慮 | 全体的な計画の作成と指導計画の作成 |
| 12 | 保育の評価と保育の記録① | 幼児理解に基づく評価 |
| 13 | 保育の評価と保育の記録② | 観察記録を書く意味と幼児理解 |
| 14 | 保育内容の現代的課題について | 子育て支援、・多文化共生保育 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|----------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 保育内容総論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 石原 成 | | | |
| 実務経験 | 私立幼稚園にて、幼稚園教諭としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 「保育とは」「保育内容とは」、また、保育現場で必要とされる基礎的知識を学ぶ。 領域に対応した保育内容についての理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育内容について基礎的知識や実践内容を理解し、説明することができる。 保育におけるねらいや内容と5領域や10の姿関係性が理解できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習・保育所保育指針の内容を熟読する 事後学習・講義内容を復習する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 豊岡短期大学「保育内容総論」 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------|-------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業のルール・評価・「保育」の基本を学ぶ |
| 2 | 保育内容とは | 「保育内容」を5領域や養護のねらいから違いを比較していく |
| 3 | 保育の環境とは | 保育所の環境について実際の写真から学ぶ。 |
| 4 | 保育の現場の一日 | 保育所の一日についての保育内容を学ぶ。～登園から降園まで |
| 5 | 保育の現場の一年 | 保育所の一年について学ぶ。～季節の行事と由来 |
| 6 | 保育形態 | 様々な保育形態や内容を学ぶ |
| 7 | 子どもの発達と保育内容 | 子どもの発達の基礎を学び、それに応じた保育内容の特徴を学ぶ |
| 8 | 遊びを通しての指導 | 3歳未満児の保育内容と手作り教材 |
| 9 | 遊びを通しての指導 | 3歳以上児の保育内容と手作り教材 |
| 10 | 保育における計画 | 保育のカリキュラムマネジメントの面から計画の必要性を学ぶ |
| 11 | 保育における記録 | 保育のカリキュラムマネジメントの面から記録の必要性を学ぶ |
| 12 | 多様性への対応 | 保育における現代的な課題を理解する |
| 13 | 保育における安全対策 | 保育における現代的な課題を理解する |
| 14 | 子どもの権利について | 保育における現代的な課題を理解する |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-------------|------|-----|------|
| 科目名 | 保育内容（健康Ⅰ） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 門倉洋輔 | | | |
| 実務経験 | 学童保育指導員（6年） | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 子どもの健康を支援する保育者に必要な理論について、「保育所保育指針」の「健康領域」に関するねらいや内容の解説から学び、子どもの健康を意識した指導技術を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・保育における健康のねらい及び内容を理解する。 ・幼児期の心身の発達の理解、子どもを取り巻く環境の理解を深める。 ・子どもの健康に関する知識、指導技術を獲得し、保育の場で応用することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------|---------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | イントロダクション | 子どもの生命を預かるということ |
| 2 | 生活リズム | 子どもの生活リズムの変化 |
| 3 | 発育発達 | 子どもの発育・発達 |
| 4 | 生理的機能 | 身体の発育と生理的機能の発達 |
| 5 | アレルギー | アレルギー 緊急時対応 |
| 6 | 原始反射・睡眠 | 原始反射と子どもの睡眠の仕組み |
| 7 | 怪我・事故 | 子どもの怪我・事故の実態 |
| 8 | 事故の予防 | 子どもの事故の予防 |
| 9 | 障害と気になる子 | 障害と気になる子、保育の現代的課題 |
| 10 | 基本的生活習慣 | 基本的生活習慣の獲得 |
| 11 | 運動 | 幼児期の運動に関する指導法 |
| 12 | 外あそび | 外あそびと自然体験 |
| 13 | 動機付け | 外発的動機付けと内発的動機付け、アンダーマイニング |
| 14 | 振り返り | 振り返り・試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-------------|------|-----|------|
| 科目名 | 保育内容（健康Ⅰ） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 門倉洋輔 | | | |
| 実務経験 | 学童保育指導員（6年） | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 子どもの健康を支援する保育者に必要な理論について、「保育所保育指針」の「健康領域」に関するねらいや内容の解説から学び、子どもの健康を意識した指導技術を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・保育における健康のねらい及び内容を理解する。 ・幼児期の心身の発達の理解、子どもを取り巻く環境の理解を深める。 ・子どもの健康に関する知識、指導技術を獲得し、保育の場で応用することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------|---------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | イントロダクション | 子どもの生命を預かるということ |
| 2 | 生活リズム | 子どもの生活リズムの変化 |
| 3 | 発育発達 | 子どもの発育・発達 |
| 4 | 生理的機能 | 身体の発育と生理的機能の発達 |
| 5 | アレルギー | アレルギー 緊急時対応 |
| 6 | 原始反射・睡眠 | 原始反射と子どもの睡眠の仕組み |
| 7 | 怪我・事故 | 子どもの怪我・事故の実態 |
| 8 | 事故の予防 | 子どもの事故の予防 |
| 9 | 障害と気になる子 | 障害と気になる子、保育の現代的課題 |
| 10 | 基本的生活習慣 | 基本的生活習慣の獲得 |
| 11 | 運動 | 幼児期の運動に関する指導法 |
| 12 | 外あそび | 外あそびと自然体験 |
| 13 | 動機付け | 外発的動機付けと内発的動機付け、アンダーマイニング |
| 14 | 振り返り | 振り返り・試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-------------|------|-----|------|
| 科目名 | 保育内容（人間関係Ⅰ） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 門倉洋輔 | | | |
| 実務経験 | 学童保育指導員（6年） | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 領域「人間関係」を理解するための知識を身につけることを重視し、社会学、発達心理学などの理論をベースに授業を展開するとともに、実際の保育者のエピソードや連絡ノート、レクリエーション等を用いて考察を行う。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・領域「人間関係」の意義、ねらい、内容を理解する。 ・保育者の援助について理解する。 ・子どもの人間関係に関する知識、指導技術を獲得し、保育の場で応用することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション：人間関係の基本概念 | 授業の概要説明と、人間関係が乳幼児期に果たす役割の基礎を学ぶ。 |
| 2 | 自己理解とアイデンティティの形成 | 自己概念の発達プロセスと、アイデンティティの確立について考える。 |
| 3 | 子どもを取り巻く環境：社会・文化の影響 | 家庭・地域・文化が子どもの人間関係の形成に与える影響を探る。 |
| 4 | 領域「人間関係」の目指すもの | 幼児教育における「人間関係」の意義と目標を深く理解する。 |
| 5 | 発達心理学に基づく人間関係の基礎 | 発達心理学を通して、幼児期の対人関係の発達段階を学ぶ。 |
| 6 | 0～2歳児の対人関係：愛着と安心感 | 保育の現場における乳児期の人との関わりの重要性を理解する。 |
| 7 | 3歳児の社会的適応：安心できる居場所づくり | 3歳児が安心して関わる環境作りと、保育者の役割を考察する。 |
| 8 | 4歳児の対人関係：自己主張と共感のバランス | 4歳児の発達特性をもとに、自己表現と協調性の育成方法を学ぶ。 |
| 9 | 5歳児の人間関係：協働と社会性の発展 | 5歳児の社会的スキルの向上と、充実した園生活を支える要素を考える。 |
| 10 | 一人ひとりの個性を尊重する関わり方 | 多様な子どもの特性を理解し、それぞれの存在を尊重する方法を学ぶ。 |
| 11 | 保護者との信頼関係を築くコミュニケーション | 保護者との円滑な関係構築のためのポイントを探る。 |
| 12 | 保育者同士の連携とチームワークの重要性 | 保育者間の協力関係が子どもに与える影響と、効果的な連携を学ぶ。 |
| 13 | 人間関係の育ちを観察し、記録する方法 | ソシオグラムや保育記録を活用した関係性の評価方法を実践的に学ぶ。 |
| 14 | 振り返り | 振り返り・試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-------------|------|-----|------|
| 科目名 | 保育内容（人間関係Ⅰ） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 門倉洋輔 | | | |
| 実務経験 | 学童保育指導員（6年） | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 領域「人間関係」を理解するための知識を身につけることを重視し、社会学、発達心理学などの理論をベースに授業を展開するとともに、実際の保育者のエピソードや連絡ノート、レクリエーション等を用いて考察を行う。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・領域「人間関係」の意義、ねらい、内容を理解する。 ・保育者の援助について理解する。 ・子どもの人間関係に関する知識、指導技術を獲得し、保育の場で応用することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 学習内容を復習し、自分の考えをまとめる。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | なし | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション：人間関係の基本概念 | 授業の概要説明と、人間関係が乳幼児期に果たす役割の基礎を学ぶ。 |
| 2 | 自己理解とアイデンティティの形成 | 自己概念の発達プロセスと、アイデンティティの確立について考える。 |
| 3 | 子どもを取り巻く環境：社会・文化の影響 | 家庭・地域・文化が子どもの人間関係の形成に与える影響を探る。 |
| 4 | 領域「人間関係」の目指すもの | 幼児教育における「人間関係」の意義と目標を深く理解する。 |
| 5 | 発達心理学に基づく人間関係の基礎 | 発達心理学を通して、幼児期の対人関係の発達段階を学ぶ。 |
| 6 | 0～2歳児の対人関係：愛着と安心感 | 保育の現場における乳児期の人との関わりの重要性を理解する。 |
| 7 | 3歳児の社会的適応：安心できる居場所づくり | 3歳児が安心して関わる環境作りと、保育者の役割を考察する。 |
| 8 | 4歳児の対人関係：自己主張と共感のバランス | 4歳児の発達特性をもとに、自己表現と協調性の育成方法を学ぶ。 |
| 9 | 5歳児の人間関係：協働と社会性の発展 | 5歳児の社会的スキルの向上と、充実した園生活を支える要素を考える。 |
| 10 | 一人ひとりの個性を尊重する関わり方 | 多様な子どもの特性を理解し、それぞれの存在を尊重する方法を学ぶ。 |
| 11 | 保護者との信頼関係を築くコミュニケーション | 保護者との円滑な関係構築のためのポイントを探る。 |
| 12 | 保育者同士の連携とチームワークの重要性 | 保育者間の協力関係が子どもに与える影響と、効果的な連携を学ぶ。 |
| 13 | 人間関係の育ちを観察し、記録する方法 | ソシオグラムや保育記録を活用した関係性の評価方法を実践的に学ぶ。 |
| 14 | 振り返り | 振り返り・試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育内容（環境Ⅰ） | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼児コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

- ・「環境を通して行う教育・保育」という内容を理解する。
- ・演習を通して、色々な素材を教材研究し環境を通して行う教育・保育を考え実践力を身につける。

到達目標

- ・「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示されている環境を通して行う教育・保育の基本と領域「環境」の内容を理解し、遊びや活動の指導をするために必要なことを学ぶ。
- ・保育者に必要とされる基本的な知識と指導法を身につける。

準備學習

「保育内容（環境Ⅰ）」（資料）を熟読し、講義内容を復習する。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

| | |
|--------|---|
| 使用テキスト | 参考資料は授業時に 配付 「幼稚園教育要領解説」（最新版） 「保育所保育指針解説」（最新版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版） |
|--------|---|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|--------------------|-------------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 幼児教育の目的と領域 | 幼児期にふさわしい保育とは |
| 3 | 幼児教育の基本 | びを通しての総合的な指導 |
| 4 | 領域「環境」 | 他領域との関係 ねらいと内容 |
| 5 | 環境を通しての教育 | 場・もの・ひと |
| 6 | 保育者のさまざまな役割 | 用意、見守り、支える |
| 7 | 子どもの育ちと領域「環境」 | 自然に親しみ植物や生き物に触れる（演習含む） |
| 8 | 子どもの育ちと領域「環境」 | 自然の美しさ大きさ不思議さに触れる（演習含む） |
| 9 | 子どもの育ちと領域「環境」 | ものや道具にかかわって遊ぶ（演習含む） |
| 10 | 子どもの育ちと領域「環境」 | 身近なものを使い、工夫する（演習含む） |
| 11 | 子どもの育ちと領域「環境」 | 文字や標識、数量や図形に関心をもち、親しむ。 |
| 12 | 子どもと環境のかかわりをとらえる視点 | 感じる、表現する、発見する、探求する |
| 13 | 幼児教育の現代的課題と領域「環境」 | 子どもの育ちと学びを理解する |
| 14 | 保育者の役割 | 生活と学びの連続性 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|---|--|------|-----|------|------------------------|---------------|-------------------|
| 科目名 | 保育内容（環境Ⅰ） | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 | 1 | 環境とは | オリエンテーション、科目概要の説明 |
| 担当教員 | 朝倉久実 | | | | 2 | 幼児教育・保育の基本 | 生きる力の基礎 |
| 実務経験 | 幼稚園にて幼稚園教諭として、保育所等にて保育士として、児童福祉施設にて心理相談支援業務の実務経験を有する。 | | | | 3 | 環境を通して行う教育・保育 | 人的環境と物的環境 |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 環境を通して行う教育・保育の意味を知る。領域「環境」のねらいと内容を理解し、保育者に必要とされる基本的な知識と指導法を学ぶ。また、保育者として周囲の環境に関わる力をもつために必要である身近な自然や社会の事象を知り、演習を通して保育現場で役立つ実践力を身につける。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| ①環境を通して行う教育・保育の基本を理解する。 ②領域「環境」のねらいと内容の意味を知り、そのために必要な保育内容を考える力を養う。 ③事例等から子どもを取り巻く様々な環境（人、物、場所、自然、社会、文化等）について理解を深める。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 事前学習：『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <原本>』を熟読する。 事後学習：講義内容を復習する。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | ・毎回、レジュメ・資料を配布する。 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館（最新版） ・『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 <原本>』チャイルド本社（最新版） | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育内容（言葉） | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

- ・「ことば」の発達における集団生活の意義や保育者の役割について、領域「言葉」のねらい及び内容をもとに、幼児の言葉の特徴や発達について理解を深める。
- ・言葉の習得と児童文化財（言語教材としての）との関わりを理解するとともに演習を通して実践的な指導力を身につけていく。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ・言葉が育つ過程について学ぶ
- ・「子どもの言葉をより豊かにするための具体的な活動」に必要な教材や指導技術を理解する。
 - ・指導法について演習し、実践的な指導力を身につける。

準備學習

講義内容をふまえて、演習に向けての準備をする。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|---|
| 使用テキスト | 参考資料は授業時に 配付 「幼稚園教育要領解説」（最新版） 「保育所保育指針解説」（最新版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版） |
|--------|---|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|---------------|-----------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 言葉とは何か | 言葉が果たす役割 |
| 3 | 子どもの発達と言葉の発達 | 誕生から6歳迄の発達 |
| 4 | 言葉の発達と環境 | かかわり・生活・遊び |
| 5 | 領域「言葉」のねらいと内容 | 幼稚園教育要領（保育指針等）の理解 |
| 6 | 領域「言葉」の具体的な内容 | 聞く力を育てる。言葉による表現を豊かにする |
| 7 | 児童文化財とは① | 文化財の内容について理解と演習準備 |
| 8 | 児童文化財とは② | 演習（製作） |
| 9 | 演習準備 | 絵本とは・紙芝居とは・発達、特徴、留意点 |
| 10 | 実践演習① | 演習（絵本読み聞かせ） |
| 11 | 実践演習② | 演習（絵本読み聞かせ） |
| 12 | 演習の振り返り | 演習の成果と反省 |
| 13 | 言語発達をとらえる視点 | 自己表現としての言葉の育ち |
| 14 | 集団生活の中での言語活動 | 保育者の援助と役割 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育内容（言葉） | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

- ・「ことば」の発達における集団生活の意義や保育者の役割について、領域「言葉」のねらい及び内容をもとに、幼児の言葉の特徴や発達について理解を深める。
- ・言葉の習得と児童文化財（言語教材としての）との関わりを理解するとともに演習を通して実践的な指導力を身につけていく。

到達目標

- ・言葉が育つ過程について学ぶ。
- ・「子どもの言葉をより豊かにするための具体的な活動」に必要な教材や指導技術を理解する。
- ・指導法について演習し、実践的な指導力を身につける。

準備學習

講義内容をふまえて、演習に向けての準備をする。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 参考資料は授業時に配付 「幼稚園教育要領解説」(最新版) 「保育所保育指針解説」(最新版) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版) |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|---------------|-----------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 言葉とは何か | 言葉が果たす役割 |
| 3 | 子どもの発達と言葉の発達 | 誕生から6歳迄の発達 |
| 4 | 言葉の発達と環境 | かかわり・生活・遊び |
| 5 | 領域「言葉」のねらいと内容 | 幼稚園教育要領（保育指針等）の理解 |
| 6 | 領域「言葉」の具体的な内容 | 聞く力を育てる。言葉による表現を豊かにする |
| 7 | 児童文化財とは① | 文化財の内容について理解と演習準備 |
| 8 | 児童文化財とは② | 演習（製作） |
| 9 | 演習準備 | 絵本とは・紙芝居とは・発達、特徴、留意点 |
| 10 | 実践演習① | 演習（絵本読み聞かせ） |
| 11 | 実践演習② | 演習（絵本読み聞かせ） |
| 12 | 演習の振り返り | 演習の成果と反省 |
| 13 | 言語発達をとらえる視点 | 自己表現としての言葉の育ち |
| 14 | 集団生活の中での言語活動 | 保育者の援助と役割 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科 | | |
|--|--|------|-----|------|----------------------|--------------------|-------------------------|
| 科目名 | 保育の表現技術（身体） | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| くども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 | 1 | ガイダンス／遊びとねらいの理解① | 授業概要の伝達／サーキット遊びの理解と計画立案 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | | 2 | 遊びとねらいの理解②／幼児期運動指針 | 実技予定：運動遊び：「サーキット」 |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | | 3 | 運動遊びの計画立案① | 演習：指導案：「サーキット」 |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 授業前半は多様な動きを引き出すサーキット遊び・身体表現を取り上げる。後半では、乳幼児の運動発達、特に乳児から幼児期への移行期間における運動発達を細かな段階に分け、グループ別に研究した成果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行う。 ※授業の進捗状況により、内容を変更する場合があります | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 1. サーキット遊びの特性を理解する 2. 身体表現を実践し、表現遊びに親しみを持つ 3. 運動発達について研究し、パワーポイント資料を作成する 4. 他者と協力し合い、お互いが自らの役割を担い、準備からプレゼンテーションまでを実行する | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 実技とグループ演習を中心に構成されているため、欠席状況及び演習への参加状況により、単位習得が難しくなる場合があります。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜配布 | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科 | | |
|--|--|------|-----|------|----------------------|------|------------|
| 科目名 | 保育の表現技術（身体） | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| くども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 | 1 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表④ |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | | 2 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表⑤ |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | | 3 | まとめ | 実技発表の振り返り |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 授業前半は実習に向けた運動遊びの個別発表を行う。実習後は、主に多様な動きを引き出すサーキット遊び、身体表現を取り上げる。後半では、特に乳児から幼児期への移行期間における運動発達を細かな段階に分け、グループ別に研究した成果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行う。※状況により、授業内容を変更する場合有 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 1.個別発表を行う 2.サーキット遊びの特性を理解する 3.身体表現を実践し、表現遊びに親しみを持つ 4.運動発達について研究し、パワーポイント資料を作成する 5.他者と協力し合い、お互いが自らの役割を担い、準備からプレゼンテーションまでを実行する | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 実技とグループ演習を中心に構成されているため、欠席状況及び演習への参加状況により、単位習得が難しくなる場合があります。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜配布 | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | 保育の表現技術（造形） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育者に必要な造形の基礎知識・技術を学びます。平面造形の原理や材料、表現手法を習得し、感性や創造性、手指の巧緻性を育てます。上手さではなく、感じたことを表現することが重要です。家庭で実践し、親子で制作を楽しむことも良い経験になります。苦手意識を持たず、楽しみながら取り組みましょう。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育者に必要な基礎的な造形知識・技術を習得する。平面造形の原理（形態・色彩・テクスチャー・構成の原理・配色と調和）、平面造形の材料と用具（描画材料）、表現手法（各種の表現手法について）について学習し、保育現場で実践・応用できる力を身に付ける。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 多様なメディアを通じて良質なビジュアル表現に触れ、幼児教育との関わりや課題を考えてみましょう。世の中には優れた表現もそうでないものもあります。保育者として情報を選別し、子どもたちに良質な表現を伝えられる力を養うことが大切です。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 配布プリント、造形に必要な用具類 ※保育者に必要な最低限の用具を用意してもらいます。生涯にわたり必要な要な用具となりますので、手元に無いものは購入して頂く場合がありますのでご了承ください。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------|----------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 造形の基礎知識① | 保育者に必要な道具の説明 |
| 2 | 造形の基礎知識② | 造形体験を振り返ってみよう |
| 3 | 造形の基礎知識③ | 幼児向けの折り紙を作ろう |
| 4 | 造形の基礎知識④ | 室内装飾を作ってみよう |
| 5 | 造形の基礎知識⑤ | 色彩理論（色の三原色、色の三属性） |
| 6 | 造形の基礎知識⑥ | 水彩の技法（ドリップング、吹き流し） |
| 7 | 造形の基礎知識⑦ | 水彩の技法（デカルコマニー） |
| 8 | 造形の基礎知識⑧ | 水彩で抽象画を描こう（テーマ：春夏秋冬） |
| 9 | 造形の基礎知識⑨ | 作品講評 作品の見方、ほめるポイント |
| 10 | 造形の基礎知識⑩ | 色彩構成（折り紙を使った色彩構成） |
| 11 | 造形の基礎知識⑪ | 素材研究① フェルトペンで描こう |
| 12 | 造形の基礎知識⑫ | 素材研究② クレヨンで描こう |
| 13 | 造形の基礎知識⑬ | 素材研究③ 鉛筆で描こう |
| 14 | 造形の基礎知識⑭ | 素材研究④ 色鉛筆で描こう |
| 15 | 造形の基礎知識⑮ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | 保育の表現技術（造形） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育者に必要な造形の基礎知識・技術を学びます。平面造形の原理や材料、表現手法を習得し、感性や創造性、手指の巧緻性を育てます。上手さではなく、感じたことを表現することが重要です。家庭で実践し、親子で制作を楽しむことも良い経験になります。苦手意識を持たず、楽しみながら取り組みましょう。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育者に必要な基礎的な造形知識・技術を習得する。平面造形の原理（形態・色彩・テクスチャー・構成の原理・配色と調和）、平面造形の材料と用具（描画材料）、表現手法（各種の表現手法について）について学習し、保育現場で実践・応用できる力を身に付ける。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 多様なメディアを通じて良質なビジュアル表現に触れ、幼児教育との関わりや課題を考えてみましょう。世の中には優れた表現もそうでないものもあります。保育者として情報を選別し、子どもたちに良質な表現を伝えられる力を養うことが大切です。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 配布プリント、造形に必要な用具類 ※保育者に必要な最低限の用具を用意してもらいます。生涯にわたり必要な要な用具となりますので、手元に無いものは購入して頂く場合がありますのでご了承ください。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------|----------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 造形の基礎知識① | 保育者に必要な道具の説明 |
| 2 | 造形の基礎知識② | 造形体験を振り返ってみよう |
| 3 | 造形の基礎知識③ | 幼児向けの折り紙を作ろう |
| 4 | 造形の基礎知識④ | 室内装飾を作ってみよう |
| 5 | 造形の基礎知識⑤ | 色彩理論（色の三原色、色の三属性） |
| 6 | 造形の基礎知識⑥ | 水彩の技法（ドリップング、吹き流し） |
| 7 | 造形の基礎知識⑦ | 水彩の技法（デカルコマニー） |
| 8 | 造形の基礎知識⑧ | 水彩で抽象画を描こう（テーマ：春夏秋冬） |
| 9 | 造形の基礎知識⑨ | 作品講評 作品の見方、ほめるポイント |
| 10 | 造形の基礎知識⑩ | 色彩構成（折り紙を使った色彩構成） |
| 11 | 造形の基礎知識⑪ | 素材研究① フェルトペンで描こう |
| 12 | 造形の基礎知識⑫ | 素材研究② クレヨンで描こう |
| 13 | 造形の基礎知識⑬ | 素材研究③ 鉛筆で描こう |
| 14 | 造形の基礎知識⑭ | 素材研究④ 色鉛筆で描こう |
| 15 | 造形の基礎知識⑮ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| | | | | |
|---------|--------------|------|-----|------|
| 科目名 | 保育の表現技術（ピアノ） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 北川 聖子、吉田 裕佳子 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

この授業では、保育士や幼稚園教諭に必要な「音楽表現（ピアノ）」に関する基本的な知識や技術を修得するために、現場で使用される楽曲を取り上げながら実践していく。具体的には、「季節・生活・行事のうた」を中心とする。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

ト音記号とヘ音記号を区別して理解し、正しく読譜した上で、右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音や分散の形式で伴奏を弾くことができるようになる。また、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、活き活きと楽しく演奏ができるようになることを目標としている。

準備學習

- ・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。
 - ・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、再度練習すること。
- ※毎日30分～1時間程度の練習をすること。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含まない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

| | |
|--------|---|
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和５年） ・配布プリント |
|--------|---|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------|-----------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、ピアノ室の使い方など |
| 2 | 春のうた① | 「ちょうちょう」 |
| 3 | 春のうた② | 「ぶんぶんぶん」 |
| 4 | 生活のうた① | 「おかたづけ」 |
| 5 | 小テスト | 第2回～第4回までの中で学習した曲から実施 |
| 6 | 初夏のうた① | 「かえるのがっしょう」 |
| 7 | 初夏のうた② | 「こいのぼり」 |
| 8 | 初夏のうた③ | 「かたつむり」 |
| 9 | 生活のうた② | 「おはようのうた」 |
| 10 | 小テスト | 第6回～第9回までの中で学習した曲から実施 |
| 11 | 晩夏のうた① | 「きらきら星」 |
| 12 | 晩夏のうた② | 「たなばたさま」 |
| 13 | 行事のうた① | 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 |
| 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|---|---|------|-----|------|------------------------|------------------|------------------------------------|
| 科目名 | 保育の表現技術（ピアノ） | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 | 1 | オリエンテーション、ピアノ基礎① | 授業概要の説明、ピアノ室の使い方、楽典、5本ゆびのポジション（6曲） |
| 担当教員 | 中野由紀子、小林美智子 | | | | 2 | ピアノ基礎② | 5本ゆびのポジション（6曲）、コードネーム |
| 実務経験 | 幼稚園にて幼稚園教諭、保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（中野）。保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（小林）。 | | | | 3 | 春のうた① | ちょうちょう、ぶんぶんぶん |
| 授業概要 | | | | | 4 | 春のうた② | かたつむり、チューリップ |
| 保育士として必要なピアノ伴奏や弾き歌いの技術、表現力を習得するために、楽典の基礎及びコードネーム、伴奏アレンジなどを学ぶ。講義やグループワークに加えて、学生個々のレベルに応じた個別指導により、こどもの歌のレパートリーを拡げていく。 | | | | | 5 | 小テスト | 第4回までに学習した曲から実施 |
| 到達目標 | | | | | 6 | 生活のうた① | おはようのうた、おかたづけ |
| ①保育士として必要とされる音楽の基礎について理解する。 ②それぞれのレベルに応じたこどもの歌のピアノ伴奏や弾き歌いの応用力を習得する。 保育士として自信をもって演奏できる。 | | | | | 7 | 生活のうた② | おててをあらいましょう、おべんとう |
| ③ | | | | | 8 | 夏のうた① | うみ |
| 準備学習 | | | | | 9 | 夏のうた② | シャボン玉 |
| 受講時に学んだ音楽の知識を復習し、それぞれに与えられた課題曲の練習を行う。配布プリントはスクラップブックにまとめる。 | | | | | 10 | 小テスト | 第5回～第9回までに学習した曲から実施 |
| 成績評価 | | | | | 11 | 生活のうた③ | はをみがきましょう、おかえりのうた |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | 12 | 行事のうた① | たなばたさま |
| 使用テキスト | こどもの指導法「音楽表現」 母とおさなごの歌 配布プリント | | | | 13 | 行事のうた② | ハッピー・バースデー・トゥー・ユー |
| | | | | | 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| | | | | | 15 | 科目のまとめ | 期末試験と科目のまとめ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育の表現技術（声楽） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 間正子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育の表現活動に必要な、声楽について理解し、身体の使い方や発声法について学ぶ。 保育現場に必要な音楽や歌について、活動内容を考察する。 こどもの歌、季節、行事の歌、童謡、唱歌、わらべうたを数多く覚えて、曲の「表現」についても学ぶ。 こどもの表現力を伸ばす活動を考える。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 乳幼児期における音楽の大切さと必要性を、歌を通して具体的に学び、表現することができる。 声楽の発声や呼吸法、歌い方について知り、表現しながら歌うことができる。 曲の表現や、内容を伝えられるよう、歌うことについて知識を深める。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・音楽に親しむ。 ・手遊び歌を練習して覚える。 ・曲の内容表現について考える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「音楽表現論」、こどもの指導法「音楽表現」 豊岡短期大学 「母とおさなごの歌」 全音楽譜出版社 「音楽通論」 教育芸術社 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|----------------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 科目概要の説明 こどもの生活と音楽について 秋の歌 |
| 2 | 保育現場の音楽 | 生活の歌、手遊び歌を用いた音楽活動 |
| 3 | 声楽の呼吸法と発声 | 呼吸体操、発声練習 声楽についての考察 |
| 4 | 音楽を活かした保育活動 | 現場での音楽活動を、具体的に立案する |
| 5 | 音楽の基礎練習 | リズム、階名読み 音程を正しく取ること こどもの歌 |
| 6 | こどもの歌 | こどもの歌の種類や歴史について |
| 7 | リズム遊びと合奏 | 打楽器を用いて合奏、歌を楽しむ |
| 8 | 季節の歌 | 冬の歌を用いた、音楽活動 |
| 9 | 行事や四季で綴るこどもの歌 | 保育現場の行事を知り、四季を通した歌を歌う |
| 10 | 歌の表現技術 | 歌に合わせて動きを考える 手遊び歌（グループ活動） |
| 11 | 音楽を用いた活動プログラム① | こどもが楽しめる音楽プログラムを考え、練習する（グループ活動） |
| 12 | 音楽を用いた活動プログラム② | 音楽プログラムの発表（グループ発表） |
| 13 | こどもの歌① | 生活の歌、こどもの歌についてレパートリーを広げる |
| 14 | こどもの歌② | 生活の歌、こどもの歌についてのまとめ |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育の表現技術（声楽） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 間正子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育の表現活動に必要な、声楽について理解し、身体の使い方や発声法について学ぶ。 保育現場に必要な音楽や歌について、活動内容を考察する。 こどもの歌、季節、行事の歌、童謡、唱歌、わらべうたを数多く覚えて、曲の「表現」についても学ぶ。 こどもの表現力を伸ばす活動を考える。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 乳幼児期における音楽の大切さと必要性を、歌を通して具体的に学び、表現することができる。 声楽の発声や呼吸法、歌い方について知り、表現しながら歌うことができる。 曲の表現や、内容を伝えられるよう、歌うことについて知識を深める。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・音楽に親しむ。 ・手遊び歌を練習して覚える。 ・曲の内容表現について考える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「音楽表現論」、こどもの指導法「音楽表現」 豊岡短期大学 「母とおさなごの歌」 全音楽譜出版社 「音楽通論」 教育芸術社 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|----------------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 科目概要の説明 こどもの生活と音楽について 秋の歌 |
| 2 | 保育現場の音楽 | 生活の歌、手遊び歌を用いた音楽活動 |
| 3 | 声楽の呼吸法と発声 | 呼吸体操、発声練習 声楽についての考察 |
| 4 | 音楽を活かした保育活動 | 現場での音楽活動を、具体的に立案する |
| 5 | 音楽の基礎練習 | リズム 階名読み 音程を正しく取ること こどもの歌 |
| 6 | こどもの歌の歴史 | こどもの歌の種類や歴史について |
| 7 | リズム遊びと合奏 | 打楽器を用いて合奏、歌を楽しむ |
| 8 | 季節の歌 | 冬の歌を用いた、音楽活動 |
| 9 | 行事や四季で綴るこどもの歌 | 保育現場の行事を知り、四季を通した歌を歌う |
| 10 | 歌の表現技術 | 歌に合わせて動きを考える 手遊び歌（グループ活動） |
| 11 | 音楽を用いた活動プログラム① | こどもが楽しめる音楽プログラムを考え、練習する（グループ活動） |
| 12 | 音楽を用いた活動プログラム② | 音楽プログラムの発表（グループ発表） |
| 13 | こどもの歌① | 生活の歌、こどもの歌について、レポトリーを広げる |
| 14 | こどもの歌② | 生活の歌、こどもの歌についてのまとめ |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | こどもと造形 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 乳幼児の表現活動の重要性や発達過程、造形的特徴を学びます。材料・用具・手法を基に「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材や環境構成、援助のあり方を理解し、製作体験と結びつけます。保育実習Ⅱでは造形指導案を作成し、課題設定や指導計画を学び、実践と振り返りを通して理解を深めます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育の内容を理解し、乳幼児の発達や教材の知識を学びます。材料・用具の操作体験を通じて実践的に学習し、造形の指導援助者としての力を養います。保育指導法「表現」の基本を理解し、表現活動の展開や援助の方法を習得し、保育者としての知識と技術を身につけます。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 保育学科 2 学年の主たる学習は幼稚園教育実習や保育実習Ⅱでの実践です。実習での部分・責任実習は非常に重要ですので、日頃からインターネットや書籍等を活用して造形指導案に関する情報収集や事前準備を心がけて下さい。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 配布資料、造形に必要な用具類 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------------|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 造形指導案の作成① | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 2 | 造形指導案の作成② | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 3 | 造形指導案の作成③ | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 4 | 造形指導案の作成④ | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 5 | 造形指導案の作成⑤ | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 6 | 造形指導案の作成⑥ | 責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 7 | 振り返り① | 造形指導及び援助の振り返り① |
| 8 | 振り返り② | 造形指導及び援助の振り返り② |
| 9 | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成① | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成①責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 10 | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成② | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成②責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 11 | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成③ | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成③責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 12 | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成④ | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成④責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 13 | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成① | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成⑤責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 14 | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成① | 保育実習Ⅱ 造形指導案の作成⑥責任実習・部分実習における造形指導及び援助について |
| 15 | こどもと造形 | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|---|------|-----|------|------------------------|--------------|--------------------|
| 科目名 | こどもと造形 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 | 1 | 幼児の造形教育について① | 造形指導について 指導案作成の注意点 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | | 2 | 幼児の造形教育について① | 造形指導案の案出し |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | | 3 | 幼児の造形教育について① | 造形指導案の作成グループワーク① |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 乳幼児の表現活動の重要性や発達過程、造形的特徴を学びます。材料・用具・手法を基に「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材や環境構成、援助のあり方を理解し、製作体験と結びつけます。保育実習Ⅱでは造形指導案を作成し、課題設定や指導計画を学び、実践と振り返りを通して理解を深めます。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 保育の内容を理解し、乳幼児の発達や教材の知識を学びます。材料・用具の操作体験を通じて実践的に学習し、造形の指導援助者としての力を養います。保育指導法「表現」の基本を理解し、表現活動の展開や援助の方法を習得し、保育者としての知識と技術を身につけます。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 保育学科 2 学年の主たる学習は保育実習Ⅱでの実践です。実習での部分・責任実習は非常に重要ですので、日頃からインターネットや書籍等を活用して造形指導案に関する情報収集や事前準備を心がけて下さい。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | | | | |
| 使用テキスト | 配布資料、造形に必要な用具類 | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 表現とこどもの運動 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 子どもの運動や表現について、テキストを中心に学ぶ。 ・身体表現運動とは ・身体表現運動の指導、留意点、環境、安全面の指導 等 （※授業計画は、豊岡短期大学の課題内容に基づき変更されます。 こちらのシラバスはあくまでも参考内容として理解してください。） | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・上記の内容について理解する ・指定設題によるレポートを作成する ・幼児と行うことができる運動や身体表現への理解を深める | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 適度な運動習慣を持つこと | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |
| 豊岡短期大学『表現とこどもの運動』 | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-------------|-------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の伝達 |
| 2 | 運動実技 | 集団で行う運動遊び |
| 3 | 表現と感性のはたらき | テキストp.1-2より |
| 4 | 発育発達の基礎 | 成長・発達の一般原則 |
| 5 | レポートに関わる指導① | ※以下5-7についてはレポート設題が公開され次第、扱う内容を共有します |
| 6 | レポートに関わる指導② | |
| 7 | レポートに関わる指導③ | |
| 8 | 運動実技 | 集団で行う運動遊びや身体表現 |
| 9 | 子どもの運動発達 | 乳児の運動発達 |
| 10 | 試験に関わる指導① | ※以下10-13は試験設題が公開されし次第、扱う内容を共有します |
| 11 | 試験に関わる指導② | |
| 12 | 試験に関わる指導③ | |
| 13 | 試験に関わる指導④ | |
| 14 | 授業内容の振り返り | 振り返りと確認 |
| 15 | まとめ | 定期試験 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--------------|------|-----|------|
| 科目名 | 表現とこどもの運動 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 五味葉子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 学生自身が身体を動かす楽しさを体感し、表現することや身体を使って遊ぶ中で運動あそび、身体表現の教育的意義を認識する。そこから子どもを対象とした指導内容・方法を知り、援助・指導に必要な知識や技能を習得する。基本は、運動ができる服装（ジャージや上履き着用、スカートやシャツ等の私服は不可）で参加すること。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ・子どもの発達と運動機能や身体表現に関する知識と技術を習得し、適切な援助・指導ができるようになる。 ・自分自身が身体表現や運動あそびを楽しむ。相手の表す表現を受け止め、読み取ることができるようになる。 ・グループワークの中で意見を出し合い、他者を理解し協力することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・保育実習Ⅱの主活動で取り組む内容を整理、まとめておきましょう。 ・子どもの健康、発育・発達の理論について復習をお勧めします。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 特に無し。適宜配布する。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 運動あそびの模擬発表① | ガイダンスおよび保育実習に向けた模擬保育の発表を行う。 |
| 2 | 運動あそびの模擬発表② | 保育実習に向けた模擬保育の発表を行う。 |
| 3 | 幼児期の運動 | 幼児にとっての運動の役割と効果について理解する。 |
| 4 | 幼児期の運動あそび① | からだを使った運動あそびについて学ぶ。 |
| 5 | 幼児期の運動あそび② | 身近な素材を使った運動あそびについて学ぶ。 |
| 6 | 幼児期の運動あそび③ | 道具を使った運動あそびについて学ぶ。 |
| 7 | 幼児期の運動あそび④ | 運動あそびや身体表現活動の環境構成について学ぶ。 |
| 8 | 表現あそび① | 幼児の表現あそびについて学ぶ。 |
| 9 | 表現あそび② | 幼児の表現あそびについて学ぶ。 |
| 10 | 表現あそび③ | 幼児の表現あそびについて学ぶ。 |
| 11 | 表現あそび④ | 幼児の表現あそびについて学ぶ。 |
| 12 | 表現あそび⑤ | グループでの表現あそびの創作について考える。 |
| 13 | 表現あそびの創作① | （科目まとめ）グループで創作した表現あそびを発表し、楽しむ。 |
| 14 | 表現あそびの創作② | （科目まとめ）グループで創作した表現あそびを発表し、楽しむ。 |
| 15 | 表現あそびの創作③ | （科目まとめ）グループで創作した表現あそびを発表し、楽しむ。 15回のまとめを行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの指導法（言語表現） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 榎本トミ | | | |
| 実務経験 | 幼稚園にて、幼稚園教諭・園長としての実務経験を有する。保育園にて、保育園園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・における言葉と表現を基にわらべうたあそびや絵本、ことばあそびの楽しさを知ると共に日本語のおもしろさや不思議さを体験し、こどもたちに伝えていこうとする意志を培う。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 子どもの成長過程と発達課題を理解し、人間関係を築いていくうえで、大人の根拠のない溢れるほどの愛情がなぜ、子どもたちの成長過程に大切なのかを理解していく。子どもたちが自分らしさを表現できる子どもにする為に、一人ひとりの子どもに目を向け、信頼関係を築いていこうとする目標を持つ。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：内容についての把握しておく。 事後学習：授業の復習 ※乳幼児期の子どもに与えたい「絵本」「日本の昔ばなし」「世界の昔ばなし」に触れておく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・伝え合いの音楽教育（いかだ社） ・人を育てる唄（エイデル研究所） ・わらべうたによる音楽教育（自由現代社） ・わらべうた（集英社文庫） ・わらべうたで子育て（福音館書店） ・えほんのせかいこどものせかい（文春文庫） | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|--|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | ・どうして保育士、幼稚園教諭をめざそうとしたのか？わらべうたで遊ぶ「でんでん虫」（フランスのわらべうた）・ことばあそびうた「よいさっさ」 |
| 2 | 保育園とはどのようなところか | ・保育園にはどのような専門家がいらっしゃる？みんなで考え挙げてみる。わらべうたで遊ぶ「でんでん虫」・ことばあそびうた「よいさっさ」「かつぱ」他 |
| 3 | エリクソンのライフサイクルモデル | ・エリクソンの発達課題で乳幼児期に大切なことは何か。わらべうた（にぎにぎ、てんこてんこ）ことばあそび（はなののののはな） |
| 4 | エリクソンの発達課題で重要なこと | ・こどもの望みに応えることで何が生まれるのか？また子どもに笑いかけることの意味とは？わらべうた（はたるこい、顔遊び）ことば（いものにしたの）他 |
| 5 | 季節のわらべうたと手あそびであそぶ | ・はたるこい・あなのなかのかわいいうさぎ、くまさん他、子どものわらべうたあそびの体験をし楽しさを味わう。ことば（ミルクとのむと）手遊び他 |
| 6 | こどもを「叱ること」と「怒ること」のちがいを理解する。 | ・こどもを「叱ること」と「怒ること」の違いはどこにあるのか？自分の体験を通して理解していく。＊オムツ替えの時に楽しくわらべうた（いちりにり） |
| 7 | 紙に印刷された「風船」の色めりをする。ポケットから取り出せる不思議なおもちゃ | 紙に印刷された「風船」に自分の好きな色を塗り、折り畳み子どもに見せるようにだんだん大きくしパチン！と割る。わらべうた（じーじーば、馬はとしとし） |
| 8 | えほんのせかいこどものせかい | 「絵本」をどのように与えたらよいのだろう。自分の好きな絵本を紹介する。なぜ好きなのか？わらべうた（かわのきわの、くまさん他） |
| 9 | わらべうたの不思議 保育での事例を基に考える | 音楽は気持ちと結びついているーわらべうたは「遊び」と一体である。 事例を基に、自分ならばどのような言葉かけをするかを考え発表する。 |
| 10 | わらべうたと育児の学校ー遠野ー | わらべうたは「昔の教育のやり方だった」明治以前、学校教育が始まる以前の、文字をもたなかった人々の、体験と耳からの教育方法であったと阿部やエさん。 |
| 11 | 根拠のない自信を育てる | 根拠のない自信を育てることで子どもになにが育つのか？ことばあそび（いもくって、これはジャックのつくったうち）わらべうた（おうごんのはしのうえ） |
| 12 | 根拠のない自信を育てる（2） | 第11回の授業の続き。わらべうた（おちゃをのみに、あめかあられか、他） |
| 13 | 子どもの権利と権利条約について | どうして子どもに権利が必要なのか…子どもも大人も同じ人間 ことばあそび（これはジャックのつくったうち）他 |
| 14 | 子どもには生まれた時から「意見を表明する権利」がある | 保育園ではどのような受け止めが大切なのか？いままでの復習 |
| 15 | 科目まとめとわらべうたあそび | 今までの授業のふりかえり、科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの指導法（言語表現） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 榎本トミ | | | |
| 実務経験 | 幼稚園にて、幼稚園教諭・園長としての実務経験を有する。保育園にて、保育園園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・における言葉と表現を基にわらべうたあそびや絵本、ことばあそびの楽しさを知ると共に日本語のおもしろさや不思議さを体験し、こどもたちに伝えていこうとする意志を培う。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 子どもの成長過程と発達課題を理解し、人間関係を築いていくうえで、大人の根拠のない溢れるほどの愛情がなぜ、子どもたちの成長過程に大切なのかを理解していく。子どもたちが自分らしさを表現できる子どもにする為に、一人ひとりの子どもに目を向け、信頼関係を築いていこうとする目標を持つ。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：内容についての把握しておく。 事後学習：授業の復習 ※乳幼児期の子どもに与えたい「絵本」「日本の昔ばなし」「世界の昔ばなし」に触れておく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・伝え合いの音楽教育（いかだ社） ・人を育てる唄（エイデル研究所） ・わらべうたによる音楽教育（自由現代社） ・わらべうた（集英社文庫） ・わらべうたで子育て（福音館書店） ・えほんのせかいこどものせかい（文春文庫） | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|--|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | ・どうして保育士、幼稚園教諭をめざそうとしたのか？わらべうたで遊ぶ「でんでん虫」（フランスのわらべうた）・ことばあそびうた「よいさっさ」 |
| 2 | 保育園とはどのようなところか | ・保育園にはどのような専門家がいるだろう？みんなで考え挙げてみる。わらべうたで遊ぶ「でんでん虫」・ことばあそびうた「よいさっさ」「かつぱ」他 |
| 3 | エリクソンのライフサイクルモデル | ・エリクソンの発達課題で乳幼児期に大切なことは何か。わらべうた（にぎにぎ、てんこてんこ）ことばあそび（はなののののはな） |
| 4 | エリクソンの発達課題で重要なこと | ・こどもの望みに応えることで何が生まれるのか？また子どもに笑いかけることの意味とは？わらべうた（はたるこい、顔遊び）ことば（いものにたの）他 |
| 5 | 季節のわらべうたと手あそびであそぶ | ・はたるこい・あなのなかのかわいいうさぎ、くまさん他、子どものわらべうたあそびの体験をし楽しさを味わう。ことば（ミルクとのむと）手遊び他 |
| 6 | こどもを「叱ること」と「怒ること」のちがいを理解する。 | ・こどもを「叱ること」と「怒ること」の違いはどこにあるのか？自分の体験を通して理解していく。＊オムツ替えの時に楽しくわらべうた（いちりにり） |
| 7 | 紙に印刷された「風船」の色めりをする。ポケットから取り出せる不思議なおもちゃ | 紙に印刷された「風船」に自分の好きな色を塗り、折り畳み子どもに見せるようにだんだん大きくしパチン！と割る。わらべうた（じーじーば、馬はとしとし） |
| 8 | えほんのせかいこどものせかい | 「絵本」をどのように与えたらよいのだろう。自分の好きな絵本を紹介する。なぜ好きなのか？わらべうた（かわのきわの、くまさん他） |
| 9 | わらべうたの不思議 保育での事例を基に考える | 音楽は気持ちと結びついているーわらべうたは「遊び」と一体である。 事例を基に、自分ならばどのような言葉かけをするかを考え発表する。 |
| 10 | わらべうたと育児の学校ー遠野ー | わらべうたは「昔の教育のやり方だった」明治以前、学校教育が始まる以前の、文字をもたなかった人々の、体験と耳からの教育方法であったと阿部やエさん。 |
| 11 | 根拠のない自信を育てる | 根拠のない自信を育てることで子どもになにが育つのか？ことばあそび（いもくつて、これはジャックのつくったうち）わらべうた（おうごんのはしのうえ） |
| 12 | 根拠のない自信を育てる（2） | 第11回の授業の続き。わらべうた（おちゃをのみに、あめかあられか、他） |
| 13 | 子どもの権利と権利条約について | どうして子どもに権利が必要なのか…子どもも大人も同じ人間 ことばあそび（これはジャックのつくったうち）他 |
| 14 | 子どもには生まれた時から「意見を表明する権利」がある | 保育園ではどのような受け止めが大切なのか？いままでの復習 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 乳幼児保育Ⅰ | | | |
|---------|-----------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 新海 智子 | | | |
| 実務経験 | 保育所にて保育士としての実務経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

乳幼児保育の意義・目的と歴史の変遷を踏まえ、保育所、乳児院などにおける乳幼児保育の現状を伝える。また、乳幼児の発育・発達のプロセスや特性を学ぶことで乳幼児保育の基礎となる考え方について理解が深まるようはかる。乳幼児保育の連携と協働について理解し、誰もが大切に育まれる保育を探究する保育者の基盤づくりも扱う。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ①乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。
②保育所、乳児院等多様な保育の場における現状と課題を理解する。

準備學習

- ・毎回予習復習をし、理解できなかったことは質問や自分で調べる等して理解を深める。

| 成績評価 | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|
| | | | | | |

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

| | |
|--------|---|
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保育（豊岡短期大学） ・保育所保育指針（厚生労働省） ・保育所保育指針解説（フレール） ・適宜資料を配布 |
|--------|---|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------------|--|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション・乳幼児保育の意義と目的と歴史の変遷 | 乳幼児保育の意義と目的、歴史の変遷について知る |
| 2 | 乳幼児保育の役割と機能 | 乳幼児保育が果たす役割の機能について理解する。 |
| 3 | 乳幼児保育における養護と教育 | 乳幼児保育における養護と教育について、保育の現状と今後の展望について考える。 |
| 4 | 乳幼児に関わる制度と法律 | 乳幼児保育に関わる制度や法律を知る。 |
| 5 | 乳幼児保育における連携と協働 | 職員間、関係機関等の連携・協働について学ぶ。 |
| 6 | 保育所以外の福祉施設（乳児院等）における乳幼児保育 | 保育所以外の児童福祉施設について学び、そこでの生活と保育について知る。 |
| 7 | 保育所保育指針①乳児保育 | 保育所保育指針の乳児保育 3 つの視点を事例や実践例から理解する。 |
| 8 | 保育所保育指針②1歳以上3歳未満児の保育の「ねらい及び内容」 | 保育所保育指針における 1 歳以上 3 歳未満児の保育について事例や実践例から理解する。 |
| 9 | 保育所保育指針③3歳児に移行する時期の保育 | 保育所保育指針を3歳児に移行する時期の保育を映像と事例や実践例から理解する。 |
| 10 | 家庭的保育における乳幼児保育 | 家庭的保育を知り、現状と課題について学ぶ。 |
| 11 | 3歳未満児の生活と環境 | 発達と養護の観点から3歳未満児の生活と環境について学ぶ。 |
| 12 | 3歳未満児の遊びと環境 | 発達の観点から3歳未満児の遊びと環境について学ぶ。 |
| 13 | 乳幼児保育における計画・記録・評価 | 計画・記録・評価のあり方を学ぶ。 |
| 14 | 3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 | 3歳未満児とその家庭に対する支援についての理解を深める。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 乳幼児保育Ⅰ | | | |
|---------|-----------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 新海 智子 | | | |
| 実務経験 | 保育所にて保育士としての実務経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

乳幼児保育の意義・目的と歴史の変遷を踏まえ、保育所、乳児院などにおける乳幼児保育の現状を伝える。また、乳幼児の発育・発達のプロセスや特性を学ぶことで乳幼児保育の基礎となる考え方について理解が深まるようはかる。乳幼児保育の連携と協働について理解し、誰もが大切に育まれる保育を探究する保育者の基盤づくりも扱う。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ①乳幼児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。
②保育所、乳児院等多様な保育の場における現状と課題を理解する。

準備學習

- ・毎回予習復習をし、理解できなかったことは質問や自分で調べる等して理解を深める。

| 成績評価 | |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 授業中の発言や質問の積極性 | 2. 授業後のレポートや課題の提出状況 |
| 3. 授業中の態度や振る舞い | 4. 授業後のレポートや課題の質 |
| 5. 授業中の参加度 | 6. 授業後のレポートや課題の量 |
| 7. 授業中の発言の正確性 | 8. 授業後のレポートや課題の完成度 |
| 9. 授業中の発言の論理性 | 10. 授業後のレポートや課題のオリジナリティ |
| 11. 授業中の発言の創造性 | 12. 授業後のレポートや課題の表現力 |
| 13. 授業中の発言の論旨の明確さ | 14. 授業後のレポートや課題の構成力 |
| 15. 授業中の発言の論拠の豊富さ | 16. 授業後のレポートや課題の結論の明確さ |
| 17. 授業中の発言の論理の整合性 | 18. 授業後のレポートや課題の全体の印象 |
| 19. 授業中の発言の論理の深さ | 20. 授業後のレポートや課題の全体の評価 |

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

| | |
|--------|---|
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保育（豊岡短期大学） ・保育所保育指針（厚生労働省） ・保育所保育指針解説（フレール） ・適宜資料を配布 |
|--------|---|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| 授業計画 | | |
|------|--------------------------------|--|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション・乳幼児保育の意義と目的と歴史の変遷 | 乳幼児保育の意義と目的、歴史の変遷について知る |
| 2 | 乳幼児保育の役割と機能 | 乳幼児保育が果たす役割の機能について理解する。 |
| 3 | 乳幼児保育における養護と教育 | 乳幼児保育における養護と教育について、保育の現状と今後の展望について考える。 |
| 4 | 乳幼児に関わる制度と法律 | 乳幼児保育に関わる制度や法律を知る。 |
| 5 | 乳幼児保育における連携と協働 | 職員間、関係機関等の連携・協働について学ぶ。 |
| 6 | 保育所以外の福祉施設（乳児院等）における乳幼児保育 | 保育所以外の児童福祉施設について学び、そこでの生活と保育について知る。 |
| 7 | 保育所保育指針①乳児保育 | 保育所保育指針の乳児保育 3 つの視点を事例や実践例から理解する。 |
| 8 | 保育所保育指針②1歳以上3歳未満児の保育の「ねらい及び内容」 | 保育所保育指針における 1 歳以上 3 歳未満児の保育について事例や実践例から理解する。 |
| 9 | 保育所保育指針③3歳児に移行する時期の保育 | 保育所保育指針を3歳児に移行する時期の保育を映像と事例や実践例から理解する。 |
| 10 | 家庭的保育における乳幼児保育 | 家庭的保育を知り、現状と課題について学ぶ。 |
| 11 | 3歳未満児の生活と環境 | 発達と養護の観点から3歳未満児の生活と環境について学ぶ。 |
| 12 | 3歳未満児の遊びと環境 | 発達の観点から3歳未満児の遊びと環境について学ぶ。 |
| 13 | 乳幼児保育における計画・記録・評価 | 計画・記録・評価のあり方を学ぶ。 |
| 14 | 3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 | 3歳未満児とその家庭に対する支援についての理解を深める。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 乳幼児保育Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 倉島多摩代 | | | |
| 実務経験 | 保育所等にて、保育士・園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本科目では、乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、乳幼児との関わりの具体的な方法や、子どもの成長発達を促すあそびの実践・保育教材の作成等、保育の場を想定したより実践的な学びを深めます。また、乳幼児保育における具体的な援助や配慮・計画の方法を学び、理解することを目的とします。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助の関わりの基本的な考え方について理解する。 | | | | |
| ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活やあそびと保育の方法及び環境について理解する。 | | | | |
| ③乳幼児保育における配慮の実際について理解する。 | | | | |
| ④乳幼児保育における計画の作成について理解する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：教科書、配布資料等により講義内容を理解する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、受講内容を理解する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「乳幼児保育Ⅰ」豊岡短期大学 「保育所保育指針解説」厚生労働省 他、配布資料等 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|--------------------|-----------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス 乳幼児保育の基本① | 子どもと保育士等の関係の重要性 |
| 2 | 乳幼児保育の基本② | 子どもの主体性の尊重と自己の育ち |
| 3 | 乳幼児保育の基本③ | 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり |
| 4 | 乳幼児保育の基本④ | 子どもの体験と学びの芽生え |
| 5 | 乳児保育における生活と遊びの実際① | 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 |
| 6 | 乳児保育における生活と遊びの実際② | 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 |
| 7 | 乳児保育における生活と遊びの実際③ | 0歳児の発育・発達を踏まえたあそびと援助の実際 |
| 8 | 乳児保育における生活と遊びの実際④ | 1歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 |
| 9 | 乳児保育における生活と遊びの実際⑤ | 1歳児の発育・発達を踏まえたあそびと援助の実際 |
| 10 | 乳児保育における生活と遊びの実際⑥ | 2歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 |
| 11 | 乳児保育における生活と遊びの実際⑦ | 2歳児の発育・発達を踏まえたあそびと援助の実際 |
| 12 | 乳幼児保育における計画の実際① | 全体的な計画と指導計画①「長期的な計画と短期的な計画」 |
| 13 | 乳幼児保育における計画の実際② | 全体的な計画と指導計画②「長期的な計画と短期的な計画」 |
| 14 | 乳児保育における配慮の実際① | 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|----------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 乳幼児保育Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 倉島多摩代 | | | |
| 実務経験 | 保育所等にて、保育士・園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本科目では、乳幼児保育Ⅰで学習した基礎的知識を踏まえながら、乳幼児との関わりの具体的な方法や、子どもの成長発達を促すあそびの実践・保育教材の作成等、保育の場を想定したより実践的な学びを深めます。また、乳幼児保育における具体的な援助や配慮・計画の方法を学び、理解することを目的とします。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助の関わりの基本的な考え方について理解する。 | | | | |
| ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活やあそびと保育の方法及び環境について理解する。 | | | | |
| ③乳幼児保育における配慮の実際について理解する。 | | | | |
| ④乳幼児保育における計画の作成について理解する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：教科書、配布資料等により講義内容を理解する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、受講内容を理解する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「乳幼児保育Ⅰ」 豊岡短期大学 | | | |
| | 「保育所保育指針解説」 厚生労働省 | | | |
| | 「わかる・書ける・使える保育の基本用語」 わかば社 | | | |
| | 他、配布資料等 | | | |
| | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------------|-----------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス 保育教材作成 | 保育の場で実践できる保育教材作成 |
| 2 | 保育教材作成・発表 | 保育の場で実践できる保育教材作成 / 発表 |
| 3 | 乳幼児保育の基本① | 子どもと保育士等の関係の重要性 |
| 4 | 乳幼児保育の基本② | 子どもの主体性の尊重と自己の育ち |
| 5 | 乳幼児保育の基本③ | 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり |
| 6 | 乳幼児保育の基本④ | 子どもの体験と学びの芽生え |
| 7 | 乳児保育における生活と遊びの実際① | 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 |
| 8 | 乳児保育における生活と遊びの実際② | 0歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 |
| 9 | 乳児保育における生活と遊びの実際③ | 0歳児の発育・発達を踏まえたあそびと援助の実際 |
| 10 | 乳児保育における生活と遊びの実際④ | 1、2歳児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 |
| 11 | 乳児保育における生活と遊びの実際⑤ | 1、2歳児の発育・発達を踏まえたあそびと援助の実際 |
| 12 | 乳幼児保育における計画の実際① | 全体的な計画と指導計画①「長期的な計画と短期的な計画」 |
| 13 | 乳幼児保育における計画の実際② | 全体的な計画と指導計画②「長期的な計画と短期的な計画」 |
| 14 | 乳児保育における配慮の実際① | 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの健康と安全 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 三浦 由美 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ①保育現場において保健活動の知識を育てる授業 ②子どもの健康教育が適切に実践できる授業 ③子どもの病気・ケガの対応ができる授業 ④子どもの救命手技が身につく授業 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 「こどもの保健」で学んだ知識をもとに、保育者として子どもの健康に必要な技術を習得する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業後、各自で「振り返り」を行ってください | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 知のゆりかごシリーズ「子どもの保健」（株）みらい | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 子どもの身体計測について | 母子手帳を用いて身体計測を把握する |
| 2 | 子どもの発育評価について | 発育評価について理解する |
| 3 | 衛生管理・スタンダードプレコーション | 手洗いうき、手袋の外し方を学ぶ |
| 4 | 子どもの主な症状の対応について | 発熱。けいれい発作、咳嗽対応について学ぶ |
| 5 | 意識の急変への対応について学ぶ | アナフィラキシー、喘息、糖尿病対応について学ぶ |
| 6 | BLS：第一次救命処置① | 乳児・小児におけるCPR（AEDを含めた対応） |
| 7 | BLS：第一次救命処置② | 成人におけるCPR |
| 8 | BLS：第一次救命処置③ | 乳児・小児における異物除去法手技について学ぶ |
| 9 | 保育所におけるアレルギーガイドラインについて | アレルギー疾患の理解とその対応について学ぶ |
| 10 | 食物アレルギー対応について | EpiPen手技について学ぶ |
| 11 | 応急処置法について | 外相の手当（包帯法・三角巾固定法）について学ぶ |
| 12 | 保育所における事故防止および事故発生後の対応のためのガイドラインについて | 危機管理について学ぶ |
| 13 | 救命かるた作成① | 今まで学んだ知識からかるたを作成する |
| 14 | 救命かるた作成② | 今まで学んだ知識からかるたを作成する |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|---|--------------------------|------|-----|------|-----------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| 科目名 | こどもの健康と安全 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 | 1 | 子どもの身体計測について | 母子手帳を用いて身体計測を把握する |
| 担当教員 | 三浦由美 | | | | 2 | 子どもの発育評価について | 発育評価について理解する |
| 実務経験 | | | | | 3 | 衛生管理・スタンダードプレコーション | 手洗いうき、手袋の外し方を学ぶ |
| 授業概要 | | | | | 4 | 子どもの主な症状の対応について | 発熱。けいれい発作、咳嗽対応について学ぶ |
| ①保育現場において保健活動の知識を育てる授業 | | | | | 5 | 意識の急変への対応について学ぶ | アナフィラキシー、喘息、糖尿病対応について学ぶ |
| ②子どもの健康教育が適切に実践できる授業 | | | | | 6 | BLS：第一次救命処置① | 乳児・小児におけるCPR（AEDを含めた対応） |
| ③子どもの病気・ケガの対応ができる授業 | | | | | 7 | BLS：第一次救命処置② | 成人におけるCPR |
| ④子どもの救命手技が身につく授業 | | | | | 8 | BLS：第一次救命処置③ | 乳児・小児における異物除去法手技について学ぶ |
| 到達目標 | | | | | 9 | 保育所におけるアレルギーガイドラインについて | アレルギー疾患の理解とその対応について学ぶ |
| 「こどもの保健」で学んだ知識をもとに、保育者として子どもの健康に必要な技術を習得する | | | | | 10 | 食物アレルギー対応について | EpiPen手技について学ぶ |
| 準備学習 | | | | | 11 | 応急処置法について | 外相の手当（包帯法・三角巾固定法）について学ぶ |
| 授業後、各自で「振り返り」を行ってください | | | | | 12 | 保育所における事故防止および事故発生後の対応のためのガイドラインについて | 危機管理について学ぶ |
| 成績評価 | | | | | 13 | 救命かるた作成① | 今まで学んだ知識からかるたを作成する |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 | | | | | 14 | 救命かるた作成② | 今まで学んだ知識からかるたを作成する |
| 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | 15 | まとめ | 科目まとめ |
| 使用テキスト | 知のゆりかごシリーズ「子どもの保健」（株）みらい | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------|-----------------------|------|-----|------|------------------------|---------------------|-------------------|
| 科目名 | 障害児保育 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 | 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 担当教員 | 大部さつき | | | | 2 | 障害児保育のあゆみ | 障害児保育の歴史 |
| 実務経験 | 保育園にて、保育士として実務経験を有する。 | | | | 3 | 障害理解① | ASDについて |
| | | | | | 4 | 障害理解② | ダウン症の理解 |
| | | | | | 5 | 障害理解③ | 障害受容について |
| | | | | | 6 | 家庭との連携 | 子どもの発達の気がかりを伝える |
| | | | | | 7 | 地域における障がい者支援 | 障害者週間など行政の取組 |
| | | | | | 8 | 障害当事者からの声から学ぶ（１） | 自閉症の人が見ている世界～子ども～ |
| | | | | | 9 | 障害当事者からの声から学ぶ（２） | 自閉症の人が見ている世界～大人～ |
| | | | | | 10 | 教育現場の理解（１） | 特別支援学校の教育現場～学校～ |
| | | | | | 11 | 教育現場の理解（２） | インクルーシブ教育について・ |
| | | | | | 12 | 障害のある人に関わる現場の現状と課題 | 虐待について～福祉現場からの学び～ |
| | | | | | 13 | 家庭及び自治体・関係機関との連携（１） | 保護者・家庭に対する理解と支援 |
| | | | | | 14 | 家庭及び自治体・関係機関との連携（２） | 関係機関との連携・協働 |
| | | | | | 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|---|------|-----|------|------------------------|-----------|---------------------|
| 科目名 | 障害児保育 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 | 1 | ガイダンス | 課目概要の説明 「障害」についての理解 |
| 担当教員 | 大部 さつき | | | | 2 | 障害児保育のあゆみ | 障害児保育の歴史 |
| 実務経験 | 保育士としての実務経験を有する。ソーシャルワーカーとして、障害児者の相談などを受けている。 | | | | 3 | 障害理解① | ASDについて |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 保育及び教育現場では個別的なニーズを有する幼児への適切な支援や配慮が欠かせないものとなっている。障害児保育の基本的な考え方について理解するとともに、障害種別の特性や支援方法について基礎的な知識の習得をめざす。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| ①特別な支援を必要とする幼児の障害の特性および心身の発達について理解する。②特別な支援を必要とする幼児に対する支援や関係機関との連携について理解する。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|---|--|------|-----|------|-----------------------|-------------------------------|--|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 | 1 | 授業ガイダンス | 社会的養護の概要説明 社会的養護Ⅰを振り返る。社会的養護を必要とする子 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | | 2 | 社会的養護の支援を必要とする子どもの ケアについて① | 虐待された子どもやその家庭への支援を行う際に必要な専門的なケアや技術 などについて学ぶ |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして社会的養護の対象児童をの支援経験を有す る。 | | | | 3 | 社会的養護の支援を必要とする子どもの ケアについて② | 談援助の方法について事例検討を行いながらその知識と技術を深める |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 近年、社会的養護のもとで生活する子どもの多くが虐待等の不適切な養育経験をしており、その対応に は高い専門性が求められるようになってきている。本講義では前期の社会的養護Ⅰを踏まえ、社会的 養護の現場で必要な知識や技術について演習を通して学んでいく。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 社会的養護Ⅰでの学びを踏まえて、施設における現状や実践、求められる専門性について理解を深め る。事例検討を通じ、実践に必要な知識や技能を習得することを目標とする。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| ・配布プリントを見返して復習をする。 ・ニュース記事などを読んでおく | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『児童の福祉を支える＜演習＞社会的養護Ⅱ』吉田眞理・高橋一弘・村田紋 子編著 萌文書林 | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 社会的養護Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 宮坂幸香 | | | |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして社会的養護の対象児童をの支援経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 近年、社会的養護のもとで生活する子どもの多くが虐待等の不適切な養育経験をしており、その対応には高い専門性が求められるようになってきている。本講義では前期の社会的養護Ⅰを踏まえ、社会的養護の現場に必要な知識や技術について演習を通して学んでいく。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 社会的養護Ⅰでの学びを踏まえて、施設における現状や実践、求められる専門性について理解を深める。事例検討を通じ、実践に必要な知識や技能を習得することを目標とする。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・配布プリントを見返して復習をする。 ・ニュース記事などを読んでおく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『児童の福祉を支える〈演習〉社会的養護Ⅱ』吉田眞理・高橋一弘・村田紋子編著 萌文書林 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校〈こども保育学科〉 | | |
|-----------------------|---------------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 社会的養護の概要説明。社会的養護Ⅰを振り返る。社会的養護を必要とする子どもの理解と支援の在り方を学ぶ。 |
| 2 | 社会的養護の支援を必要とする子どものケアについて① | 虐待された子どもやその家庭への支援を行う際に必要な専門的なケアや技術などについて学ぶ |
| 3 | 社会的養護の支援を必要とする子どものケアについて② | 談援助の方法について事例検討を行いながらその知識と技術を深める |
| 4 | 専門的支援による施設養護の実際① | 施設養護の課題について事例を検討し、考察する |
| 5 | 専門的支援による施設養護の実際② | 障がいのあるこどもへの社会的養護について |
| 6 | 家庭支援と家庭養護の実際① | 家族再統合や自立支援の事例を通して、家庭支援の重要性を考察する |
| 7 | 家庭支援と家庭養護の実際② | 赤ちゃんポストなどの事例から里親や特別養子縁組で育った子どもについて映像を見て学習し、子どもの成育歴が多様である可能性を学ぶ。 |
| 8 | 社会的養護の現状と課題① | 社会的養護に関する社会的状況を社会、地域、家族関係など様々な変化から考察する |
| 9 | 社会的養護の現状と課題② | 虐待を受けた子どもとの関わり方や被措置児童等の虐待防止について |
| 10 | 社会的養護における自立支援の必要性① | 自立支援とは具体的にどのような内容か考え、自立支援計画の作成について学ぶ |
| 11 | 社会的養護における自立支援の必要性② | 施設を退所した後を見据えた自立支援についてする。 |
| 12 | 社会的養護の今後の展望① | 現在の日本社会の社会的養護の問題点を考える。 |
| 13 | 社会的養護の今後の展望② | 施設退所後の子どもたちが自立する際の困難や支援の在り方を学ぶ |
| 14 | 振り返り | 学んだことから疑問点などを抽出し、テストに向け、また保育士として働くために必要な知識や技術を学ぶことができたかを考察する。 |
| 15 | 科目まとめ | 前半は各自で講義を振り返る。また後半は科目のまとめをする。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------|---------|------|-----|------|------------------------|-----------|----------------------|
| 科目名 | 子育て支援 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 | 1 | ガイダンス | 授業の進め方や内容の説明・子育て支援とは |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | | 2 | 子育て支援の理論① | 子育て支援の意義 |
| 実務経験 | | | | | 3 | 子育て支援の理論② | 子育て支援の基本的価値・倫理 |
| | | | | | 4 | 子育て支援の理論③ | 子育て支援の基本的姿勢 |
| | | | | | 5 | 子育て支援の理論④ | 子育て支援の基本的技術 |
| | | | | | 6 | 子育て支援の基本⑤ | 園内・園外との連携と社会資源 |
| | | | | | 7 | 子育て支援の基本⑥ | 記録・評価・研修 |
| | | | | | 8 | 子育て支援の実践① | 日常会話を活用した子育て支援 |
| | | | | | 9 | 子育て支援の実践② | 文章を活用した子育て支援 |
| | | | | | 10 | 子育て支援の実践③ | 行事などを活用した子育て支援 |
| | | | | | 11 | 子育て支援の実践④ | 環境を活用した子育て支援 |
| | | | | | 12 | 子育て支援の実践⑤ | 地域子育て支援拠点における支援 |
| | | | | | 13 | 子育て支援の実践⑥ | 入所施設における子育て支援 |
| | | | | | 14 | 子育て支援の実践⑦ | 通所施設における子育て支援 |
| | | | | | 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | </ | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---------------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 子育て支援 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、保育所・認定こども園などにおいて保育者が行う子育て支援の理論や方法についての学びを深めることを目的とする。そのため、子育て支援に必要な基本的な知識の修得に加え、様々な事例をもとに個人ワークやグループワークを通して「子育て支援」についての理解を深めていく。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①子育て支援に関する基本的な知識を修得し、様々な事例を通して保育士に求められる支援の内容や方法を具体的に理解する。 ②子育て支援を取り巻く社会の流れや変化に関心を持ち、自分は支援者として「子育て支援」をどのように感じ、どのような支援者像を持っているかといった自身の気づきや理解も深める。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次の回のテキストを精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関連のある社会での出来事に関心を持つこと。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『子育て支援 1 5 のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林（2018） | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------|----------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方や内容の説明・子育て支援とは |
| 2 | 子育て支援の理論① | 子育て支援の意義 |
| 3 | 子育て支援の理論② | 子育て支援の基本的価値・倫理 |
| 4 | 子育て支援の理論③ | 子育て支援の基本的姿勢 |
| 5 | 子育て支援の理論④ | 子育て支援の基本的技術 |
| 6 | 子育て支援の基本⑤ | 園内・園外との連携と社会資源 |
| 7 | 子育て支援の基本⑥ | 記録・評価・研修 |
| 8 | 子育て支援の実践① | 日常会話を活用した子育て支援 |
| 9 | 子育て支援の実践② | 文章を活用した子育て支援 |
| 10 | 子育て支援の実践③ | 行事などを活用した子育て支援 |
| 11 | 子育て支援の実践④ | 環境を活用した子育て支援 |
| 12 | 子育て支援の実践⑤ | 地域子育て支援拠点における支援 |
| 13 | 子育て支援の実践⑥ | 入所施設における子育て支援 |
| 14 | 子育て支援の実践⑦ | 通所施設における子育て支援 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育実習Ⅰ | | | |
|---------|-------------------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 4 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

保育所や施設における実習（各12日間/90時間以上）

観察実習：生活の様子や環境構成、職員の職務について観察を通して理解を深める。

参加実習：子どもや利用者と生活をともにしながら学びを深める。

部分実習：短時間の指導計画を立案し実践する。（保育所では必須）

到達目標

- ① 保育所・児童福祉施設・障害者施設等の役割や機能についての知識を得る。
- ② 子どもや利用者理解を深める。
- ③ 保育・活動計画の立案や実践、振り返りを通して保育士としての基本的技術を習得する。
- ④ 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。

準備學習

天百開始前には、天百元園・施設と事前オリエンテーションを実施する。

実習簿の準備をする。

実習先園・施設の特徴や子どもの発達段階および利用者の特性について理解を深める。

手遊びや絵本、季節の歌、あそびなどの引き出しを増やしておく。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。

実習園（施設）の評価と当校の実習担当教員の評価および実習報告会への参加を併せて総合的に成績評価を行う。

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

[illegible]

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|---|--|------|-----|------|------------------------|-------|---|
| 科目名 | 保育実習 I | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 4 | 実習 | 1 | 観察・参加 | 保育所や施設の1日の生活の流れを理解する |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子、新海智子 | | | | 2 | 観察・参加 | 保育所保育指針の理解と保育の基本の確認と結合/施設の目的理解と生活の実際を確認する |
| 実務経験 | | | | | 3 | 観察・参加 | 保育所や施設の社会的役割と背景について理解する |
| 授業概要 | | | | | 4 | 観察・参加 | 保育所や施設の役割と機能を理解する |
| 保育所や施設における実習（各12日間/90時間以上） | | | | | 5 | 観察・参加 | 子どもの年齢による発達過程の理解/利用者の様子を捉える① |
| 観察実習：生活の様子や環境構成、職員の職務について観察を通して理解を深める。 | | | | | 6 | 観察・参加 | 子どもの年齢による発達過程の理解/利用者の様子を捉える② |
| 参加実習：子どもや利用者と生活をともにしながら学びを深める。 | | | | | 7 | 参加・部分 | 発達過程に応じた保育や利用者の様子に沿った活動内容を学ぶ① |
| 部分実習：短時間の指導計画を立案し実践する。（保育所では必須） | | | | | 8 | 参加・部分 | 発達過程に応じた保育や利用者の様子に沿った活動内容を学ぶ② |
| 到達目標 | | | | | 9 | 参加・部分 | 子どもや利用者のあそびや活動の中での健康と安全について理解を深める |
| ①保育所・児童福祉施設・障害者施設等の役割や機能についての知識を得る。 | | | | | 10 | 参加・部分 | 保育士の業務内容と職員間の連携について理解する |
| ②子どもや利用者理解を深める。 | | | | | 11 | 参加・部分 | 保育士の社会的役割と職業倫理について学ぶ |
| ③保育・活動計画の立案や実践、振り返りを通して保育士としての基本的技術を習得する。 | | | | | 12 | 参加・部分 | 子どもや利用者の観察と記録による理解を深める |
| ④保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 | | | | | 13 | 実習報告会 | 12日間の実習を振り返りに基づいた報告書を作成し、発表をする。 |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 実習開始前には、実習先園・施設と事前オリエンテーションを実施する。 | | | | | | | |
| 実習簿の準備をする。 | | | | | | | |
| 実習先園・施設の特徴や子どもの発達段階および利用者の特性について理解を深める。 | | | | | | | |
| 手遊びや絵本、季節の歌、あそびなどの引き出しを増やしておく。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。 | | | | | | | |
| 実習園（施設）の評価と当校の実習担当教員の評価および実習報告会への参加を併せて総合的に成績評価を行う。 | | | | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅰ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼教コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園、保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業は、子どもたちの生活やあそびの世界に入り込み、実際に体験を重ねながら保育への理解を深めていきます。そして、それぞれの感じたことや学びを他者と共有し合ったり記録をすることで「見る目」を育み、実習に向かっていきます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅰの意義・の句敵を確認し学びを深める。 ②保育所実習Ⅰに向けて、自らの課題を明確にする。 ③実習に必要な基礎的な知識を習得し、保育現場で活かせるようにする。 ④実習の計画・実践・省察・記録の方法や内容について具体的に理解し、実際に作成する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常の中で、子どもたちの姿に関心を持つ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|---------|----------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要の説明/なぜ保育実習をするのか/実習先希望調査 |
| 2 | 実習理解 | グループワーク なぜ保育実習をするのか |
| 3 | 子ども理解① | せりがや冒険あそび場へ出かけ、子どものあそびの世界を知る |
| 4 | 子ども理解② | せりがや冒険あそび場へ出かけ、子どものあそびの世界を知る |
| 5 | 子ども理解③ | グループワーク 観察に基づいて話し合う |
| 6 | 保育者理解① | 保育者と子どもの関わりの観察/グループワーク（絵本の読み聞かせ） |
| 7 | 保育者理解② | 保育者と子どもの関わりの観察/グループワーク（絵本の読み聞かせ） |
| 8 | 保育者理解③ | グループワーク 観察に基づいて話し合う |
| 9 | 実習に向けて① | グループワーク 実習で学びたいことを話し合いプレゼンする |
| 10 | 実習に向けて② | 保育実習Ⅰの目的と内容/実習に向けた健康調査について |
| 11 | 保育と記録① | 子どもの姿を観察して記録し伝え合う。 |
| 12 | 保育と記録② | 実習日誌の作成方法について知る。 |
| 13 | 保育と記録③ | 実習日誌を作成する。 |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅰ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園、保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業は、子どもたちの生活やあそびの世界に入り込み、実際に体験を重ねながら保育への理解を深めていきます。そして、それぞれの感じたことや学びを他者と共有し合ったり記録をすることで「見る目」を育み、実習に向かっていきます。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅰの意義・の句敵を確認し学びを深める。 ②保育所実習Ⅰに向けて、自らの課題を明確にする。 ③実習に必要な基礎的な知識を習得し、保育現場で活かせるようにする。 ④実習の計画・実践・省察・記録の方法や内容について具体的に理解し、実際に作成する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常の中で、子どもたちの姿に関心を持つ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|---------|----------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 授業概要の説明/なぜ保育実習をするのか/実習先希望調査 |
| 2 | 実習理解 | グループワーク なぜ保育実習をするのか |
| 3 | 子ども理解① | せりがや冒険あそび場へ出かけ、子どものあそびの世界を知る |
| 4 | 子ども理解② | せりがや冒険あそび場へ出かけ、子どものあそびの世界を知る |
| 5 | 子ども理解③ | グループワーク 観察に基づいて話し合う |
| 6 | 保育者理解① | 保育者と子どもの関わりの観察/グループワーク（絵本の読み聞かせ） |
| 7 | 保育者理解② | 保育者と子どもの関わりの観察/グループワーク（絵本の読み聞かせ） |
| 8 | 保育者理解③ | グループワーク 観察に基づいて話し合う |
| 9 | 実習に向けて① | グループワーク 実習で学びたいことを話し合いプレゼンする |
| 10 | 実習に向けて② | 保育実習Ⅰの目的と内容/実習に向けた健康調査について |
| 11 | 保育と記録① | 子どもの姿を観察して記録し伝え合う。 |
| 12 | 保育と記録② | 実習日誌の作成方法について知る。 |
| 13 | 保育と記録③ | 実習日誌を作成する。 |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 教職実践演習（幼・小） | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己課題の自覚と克服に努める。

教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメント や保育カンファレンス及び保育実技を通して、実践的指導力を身に付ける。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ・保育における集団の編成について学び、幼稚園教育の理解へと発展させる。
- ・幼稚園教育において特に重要な学習知を確認して、より実践的な教育の養成を図る。
- ・授業における学習知を基に、実践知を統合して確かな実践的指導力を身に付け、教職への意欲を醸成する。

準備學習

テキストの内容を熟読するとともに、講義・演習の内容を復習する。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 「保育・教職実践演習」配本テキスト 「幼稚園教育要領解説」（最新版） 「保育所保育指針解説」（最新版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版） |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|------------------|-----------------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 教師という職業① | 教職の意義 |
| 3 | 教師という職業② | 教師に求められる資質と能力、 研究・研修の必要性 |
| 4 | 学級経営① | 学級とは 学級経営とは |
| 5 | 学級経営② | 学級経営の位置づけ |
| 6 | 学級経営③ | 学級担任の役割、 学級経営案の作り方 |
| 7 | 子どもの理解① | 幼児教育の基本的な視点 |
| 8 | 子どもの理解② | 集団とともに成長する個を育てる |
| 9 | 子どもの理解③ | 基盤となる「温かい関係」と愛される経験から愛することへ |
| 10 | 子どもの理解④ | 子どもを保育実践の中で理解する |
| 11 | 特別支援教育 | 障害のある子どもの教育支援の基本的な考え方 |
| 12 | 小学校教育との接続① | 小学校教育との接続と連携の背景 |
| 13 | 小学校教育との接続② | 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために |
| 14 | 安全で安心な保育実践をするために | 命を預かる保育者と危機管理 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 教職実践演習（幼・小） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| これまでの学習や実習で培ってきた保育者としての資質能力を確認し、現場実践に近い形でのグループワークや演習を通して、その力量をさらに高める。本授業では、特に移行期（就学前後）の子どもの生活や保育の展開に焦点をあて「経験と学びをつなぐ」意識と専門性を形成する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①移行期の子どもの心身の発達段階について理解する。 ②保育と小学校教育の特性を踏まえ、子どもの姿を適切に捉えることができる。 ③一人ひとりの子どもの特性を的確に捉え、経験と学びをつなぐための支援を考える。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 現代の子どもたちを取り巻く社会の状況について、保育者および教育者としての視点で自分なりに受け止め考える姿勢をもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本） チャイルド本社 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------------|-------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要説明/グループワーク 保育と小学校教育について考える |
| 2 | 子どもの発達 | 移行期の子どもの発達段階を理解する |
| 3 | 保幼小連携① | なぜ、連携が必要なのか 保育者・教員へのアンケート調査から考える |
| 4 | 保幼小連携② | 連携に向けた様々な取り組みを知る |
| 5 | 移行期の子ども理解① | グループワーク 移行期の子どもの姿を捉える |
| 6 | 移行期の子ども理解② | グループワーク 移行期の子どもの姿を分析する |
| 7 | 移行期の子ども理解③ | 発表 グループごとに事例分析した結果をプレゼン・リフレクションする |
| 8 | 配慮を要する子どもへの関わり① | 個別支援計画について理解する |
| 9 | 配慮を要する子どもへの関わり② | グループワーク 個別支援計画を作成する |
| 10 | 配慮を要する子どもへの関わり③ | 発表 グループごとに作成した個別支援計画をプレゼン・リフレクションする |
| 11 | 経験と学びをつなぐ① | 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を振り返る |
| 12 | 経験と学びをつなぐ② | 保育所児童保育要録について理解する |
| 13 | 経験と学びをつなぐ③ | 保育所児童保育要録の観点で子どもの姿を分析する |
| 14 | 振り返り | 授業内容を振り返る |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 教育心理学 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 弓田千春 | | | |
| 実務経験 | 臨床心理士、公認心理師としてカウンセリングを行う。高校、専門学校、大学（医療、看護、保育、心理、教職資格過程など）で、講師を務めている。臨床心理士養成の大学院における実習施設指導員を務めた。現在は、クリニックや大学学生相談室にてカウンセリングを行っている。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 教育心理学における、発達理論、学習理論、人格（パーソナリティ）理論、教育評価、教育方法といった主な領域についての基礎的な知識と理解を深める。さらに、学校教育だけでなく、家庭やグループ内での学習と教育にも十分注目し、人と人との関係とその影響を考えながら講義を進める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 教育活動に必須である、子どもの発達と学習、パーソナリティへの理解、教育評価に対する知識と理解を深め、心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業前は資料や教科書で予習する。授業中はノートテイクに集中し、わからないことはなるべく授業中に質問すること。授業後の復習が重要であるため、作成したノートをもとに理解を深めること。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 指定教科書を使用。その他は、資料等はデータ配布する。 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|------------------|---------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | ガイダンス、心理学とは何か |
| 2 | 心理学とパーソナリティ 1 | フロイトの理論について |
| 3 | 心理学とパーソナリティ 2 | ユングやその他の理論について |
| 4 | 心理学とパーソナリティ 3 | パーソナリティに関する諸理論について |
| 5 | 学習理論 1 | 学習理論の心理学史 |
| 6 | 学習理論 2 | 条件付けについて |
| 7 | 学習理論 3 | 内的動機づけと外的動機づけ |
| 8 | 学習理論 4 | 知覚と認知、記憶について |
| 9 | 学習指導形態、教育評価 | 具体的な学習指導方法と評価方法について |
| 10 | 子どもの発達と発達の視点 | 胎児～幼児期の子どもの発達について |
| 11 | 生涯発達と発達課題 | 各段階の発達課題について |
| 12 | 心理検査のいろいろ | 様々な心理検査に触れる。投影法や質問紙法、観察法について |
| 13 | カウンセリングマインドと傾聴技法 | 傾聴とは何か、カウンセリングマインドをもとに「聴く」ことについて考える |
| 14 | パーソナリティとは何か | これまで学んだことをもとに、自分の考える「パーソナリティ」とは何かを考える |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 教育心理学 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 弓田千春 | | | |
| 実務経験 | 臨床心理士、公認心理師としてカウンセリングを行う。高校、専門学校、大学（医療、看護、保育、心理、教職資格過程など）で、講師を務めている。臨床心理士養成の大学院における実習施設指導員を務めた。現在は、クリニックや大学学生相談室にてカウンセリングを行っている。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 教育心理学における、発達理論、学習理論、人格（パーソナリティ）理論、教育評価、教育方法といった主な領域についての基礎的な知識と理解を深める。さらに、学校教育だけでなく、家庭やグループ内での学習と教育にも十分注目し、人と人との関係とその影響を考えながら講義を進める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 教育活動に必須である、子どもの発達と学習、パーソナリティへの理解、教育評価に対する知識と理解を深め、心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業前は資料や教科書で予習する。授業中はノートテイクに集中し、わからないことはなるべく授業中に質問すること。授業後の復習が重要であるため、作成したノートをもとに理解を深めること。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 指定教科書を使用。その他は、資料等はデータ配布する。 | | | |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|---------------------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | ガイダンス、心理学とは何か |
| 2 | 心理学とパーソナリティ1 | フロイトの理論について |
| 3 | 心理学とパーソナリティ2 | ユングやその他の理論について |
| 4 | 心理学とパーソナリティ3 | パーソナリティに関する諸理論について |
| 5 | 学習理論 1 | 学習理論の心理学史 |
| 6 | 学習理論 2 | 条件付けについて |
| 7 | 学習理論 3 | 内的動機づけと外的動機づけ |
| 8 | 学習理論 4 | 知覚と認知、記憶について |
| 9 | 学習指導形態、教育評価 | 具体的な学習指導方法と評価方法について |
| 10 | 子どもの発達と発達の視点 | 胎児～幼児期の子どもの発達について |
| 11 | 生涯発達と発達課題 | 各段階の発達課題について |
| 12 | 心理検査のいろいろ | 様々な心理検査に触れる。投影法や質問紙法、観察法について |
| 13 | カウンセリングマインドと傾聴技法 | 傾聴とは何か、カウンセリングマインドをもとに「聴く」ことについて考える |
| 14 | パーソナリティとは何か | これまで学んだことをもとに、自分の考える「パーソナリティ」とは何かを考える |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 言葉とこどもの文化 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 倉島多摩代 | | | |
| 実務経験 | 保育所等にて、保育士・園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本科目では、幼児期の言葉の特徴について理解し、絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究を通して、その利用の仕方について理解する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①幼児期の言葉の特徴について理解する。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解する。 ③保育の現場で使用される児童文化財（絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等）を具体的に活用できるようになる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：教科書、配布資料等により、講義内容を理解する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、受講内容を理解する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「言葉とこどもの文化」 豊岡短期大学 「保育所保育指針解説」 厚生労働省編 フレーベル館 「幼稚園教育要領解説」 文部科学省編 フレーベル館 他、配布資料等 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------------|------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス 児童文化財とは① | 児童文化財について（児童文化財を用いてあそぶ） |
| 2 | 言葉について① | 言葉の機能と言葉の発達①② |
| 3 | 言葉について② | 領域「言葉」のねらい及び内容 |
| 4 | 言葉を育てる児童文化財① | 絵本、紙芝居について |
| 5 | 言葉を育てる児童文化財② | おはなし、ペープサートについて |
| 6 | 言葉を育てる児童文化財③ | シアター（パネルシアター、エプロンシアター、手袋シアター等）について |
| 7 | 言葉を育てる児童文化財④ | わらべうたあそび、ことばあそびについて |
| 8 | 言葉を育む教材① | 舞台を用いて紙芝居を演じる演習① |
| 9 | 言葉を育む教材② | 舞台を用いて紙芝居を演じる演習① |
| 10 | 言葉を育てる児童文化財の研究① | ペープサート作成①（作成の基本） |
| 11 | 言葉を育てる児童文化財の研究② | ペープサート作成② |
| 12 | 言葉を育てる児童文化財の研究③ | ペープサート作成③、ペープサート発表の計画 |
| 13 | 言葉を育てる児童文化財の研究④ | ペープサート作成④、ペープサート発表 |
| 14 | 言葉を育てる児童文化財の研究⑤ | ペープサート作成⑤、ペープサート発表 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|-------------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 言葉とこどもの文化 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 倉島多摩代 | | | |
| 実務経験 | 保育所等にて、保育士・園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本科目では、幼児期の言葉の特徴について理解し、絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究を通して、その利用の仕方について理解する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①幼児期の言葉の特徴について理解する。 ②保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解する。 ③保育の現場で使用される児童文化財（絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等）を具体的に活用できるようになる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：教科書、配布資料等により、講義内容を理解する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、受講内容を理解する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 他、配布資料等 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-------------------|------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス 児童文化財とは① | 児童文化財について（児童文化財を用いてあそぶ） |
| 2 | 児童文化財とは② | 児童文化財について（紙芝居等の実践） |
| 3 | 言葉について① | 言葉の機能と言葉の発達① |
| 4 | 言葉について② | 言葉の機能と言葉の発達② |
| 5 | 言葉について③ | 領域「言葉」のねらい及び内容 |
| 6 | 言葉を育てる児童文化財① | 絵本、紙芝居について |
| 7 | 言葉を育てる児童文化財② | おはなし、ペープサートについて |
| 8 | 言葉を育てる児童文化財③ | シアター（パネルシアター、エプロンシアター、手袋シアター等）について |
| 9 | 言葉を育てる児童文化財④ | わらべうたあそび、ことばあそびについて |
| 10 | 言葉を育てる児童文化財の研究① | ペープサート作成①（作成の基本） |
| 11 | 言葉を育てる児童文化財の研究② | ペープサート作成② |
| 12 | 言葉を育てる児童文化財の研究③ | ペープサート作成③ |
| 13 | 言葉を育てる児童文化財の研究④ | ペープサート作成④、ペープサート発表練習 |
| 14 | まとめ① | 科目まとめ（ペープサート発表）① |
| 15 | まとめ② | 科目まとめ（ペープサート発表）② |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科＞ | | |
|---|---|------|-----|------|-----------------------|-------------------|---------------------------------------|
| 科目名 | 特別支援教育 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| くども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 講義 | 1 | ガイダンス | 特別支援教育の概要と授業方針についての説明 |
| 担当教員 | 小谷 博子 | | | | 2 | 特別支援教育の歴史と教育機関 | 障害者差別解消法と教育 |
| 実務経験 | 足立区自立支援協議会くども部会長として行政の子育て政策に関わり、また大学教員として子育て支援の研究を行っている。□ | | | | 3 | 身体障害、知的障害および精神障害① | 「視覚障害」への理解 |
| 授業概要 | | | | | 4 | 身体障害、知的障害および精神障害② | 「聴覚・平衡機能障害」への理解 |
| | | | | | 5 | 身体障害、知的障害および精神障害③ | 「肢体不自由」 への理解 |
| | | | | | 6 | 身体障害、知的障害および精神障害③ | 「知的障害」「精神障害」への理解 |
| | | | | | 7 | 神経発達症・発達障害 | 神経発達症・発達障害への理解 |
| | | | | | 8 | 重症心身障害児 | 重症心身障害児とは何か |
| 到達目標 | | | | | 9 | 医療的ケア児 | 医療的ケア児の増加している背景 |
| | | | | | 10 | インクルーシブ教育 | インクルーシブ教育への理解 |
| | | | | | 11 | 特別支援教育の課題 | 特別支援教育の課題について考えます |
| | | | | | 12 | きょうだい児 | 兄弟に障害児をもつ「きょうだい児」への支援 |
| | | | | | 13 | 障害受容 | 出生前診断・障害児を出産した母親への支援 |
| 準備学習 | | | | | 14 | 地域の理解 | 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 |
| | | | | | 15 | まとめ | まとめ |
| | | | | | | | ※授業の進行や社会情勢によっては、授業内容と計画を変更する場合があります。 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 使用テキスト | 「特別支援教育」 著者 野口和也 渡辺隼人他 豊岡短期大学通信教育部発行 平成31年3月31日発行 | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | 特別支援教育 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 小谷 博子 | | | |
| 実務経験 | 足立区自立支援協議会こども部会長として行政の子育て政策に関わり、また大学教員として子育て支援の研究を行っている。□ | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 様々な障がいのある子どもへ臨床心理学的援助を提供するに当たって必要な基本的知識ついて学ぶ。さまざまな障がいについて理解するために、まず障がいの概念（状態像）や教育的視点からみた障がいのもつ意味について説明し、障がいのある子どもや家族への心理学的援助のあり方について考察する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1,障害児教育の歴史を理解できる。 2,特別支援教育における指導のあり方を考える事がことができる。 3,各障害の特徴を理解できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回授業で扱う範囲について教科書をあらかじめ読み、必要に応じて関連事項について調べておく。 事後学習：授業内容を振り返り、ノートにまとめる。レポート課題を課す場合はレポートを作成する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「特別支援教育」 著者 野口和也 渡辺隼人他 豊岡短期大学通信教育部発行 平成31年3月31日発行 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-------------------|---------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 特別支援教育の概要と授業方針についての説明 |
| 2 | 特別支援教育の歴史と教育機関 | 障害者差別解消法と教育 |
| 3 | 身体障害、知的障害および精神障害① | 「視覚障害」への理解 |
| 4 | 身体障害、知的障害および精神障害② | 「聴覚・平衡機能障害」への理解 |
| 5 | 身体障害、知的障害および精神障害③ | 「肢体不自由」 への理解 |
| 6 | 身体障害、知的障害および精神障害③ | 「知的障害」「精神障害」への理解 |
| 7 | 神経発達症・発達障害 | 神経発達症・発達障害への理解 |
| 8 | 重症心身障害児 | 重症心身障害児とは何か |
| 9 | 医療的ケア児 | 医療的ケア児の増加している背景 |
| 10 | インクルーシブ教育 | インクルーシブ教育への理解 |
| 11 | 特別支援教育の課題 | 特別支援教育の課題について考えます |
| 12 | きょうだい児 | 兄弟に障害児をもつ「きょうだい児」への支援 |
| 13 | 障害受容 | 出生前診断・障害児を出産した母親への支援 |
| 14 | 地域の理解 | 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援 |
| 15 | まとめ | まとめ |
| | | ※授業の進行や社会情勢によっては、授業内容と計画を変更する場合があります。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 幼児造形 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 乳幼児の表現活動の重要性や発達過程、造形的特徴を理解し、材料・用具・手法を基に「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材や援助のあり方を学ぶ。さらに、保育実習Ⅱに向け造形指導案を作成し、課題設定や指導援助計画を学習。前半では造形指導援助を実践し、振り返りを通じて理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育の内容を理解し、乳幼児の発達や教材に必要な知識を学ぶ。材料・用具の操作を体験し、実践を通して技術を習得する。学習成果として、①保育指導法「表現」の基本を理解する、②乳幼児の表現活動の重要性と発達に応じた造形表現を理解する、③表現活動の展開と援助の方法を学び、保育者としての知識と技術を身につける。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 造形表現論（豊岡短期大学）、配布資料 | | | |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|-----------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 保育実習Ⅱ（造形） | 造形指導案の作成（指導案、サンプル）① |
| 2 | 保育実習Ⅱ（造形） | 造形指導案の作成（指導案、サンプル）② |
| 3 | 保育実習Ⅱ（造形） | 造形指導案の作成（指導案、サンプル）③ |
| 4 | 保育実習Ⅱ（造形） | 振り返り① |
| 5 | 保育実習Ⅱ（造形） | 振り返り② |
| 6 | 幼児のイベント企画運営について① | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて① |
| 7 | 幼児のイベント企画運営について② | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて② |
| 8 | 幼児のイベント企画運営について③ | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて③ |
| 9 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導① |
| 10 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導② |
| 11 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導③ |
| 12 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導④ |
| 13 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導⑤ |
| 14 | 幼児造形及び指導・援助のまとめ | 幼児造形及び指導・援助のまとめ |
| 15 | 2年間の振り返り | 振り返り |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 幼児造形 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 乳幼児の表現活動の重要性や発達過程、造形的特徴を理解し、材料・用具・手法を基に「えがく」「つくる」「造形あそび」の題材や援助のあり方を学ぶ。さらに、保育実習Ⅱに向け造形指導案を作成し、課題設定や指導援助計画を学習。前半では造形指導援助を実践し、振り返りを通じて理解を深める。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育の内容を理解し、乳幼児の発達や教材に必要な知識を学ぶ。材料・用具の操作を体験し、実践を通して技術を習得する。学習成果として、①保育指導法「表現」の基本を理解する、②乳幼児の表現活動の重要性と発達に応じた造形表現を理解する、③表現活動の展開と援助の方法を学び、保育者としての知識と技術を身につける。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 造形表現論（豊岡短期大学）、配布資料 | | | |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|-----------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 保育実習Ⅱ（造形） | 造形指導案の作成（指導案、サンプル）① |
| 2 | 保育実習Ⅱ（造形） | 造形指導案の作成（指導案、サンプル）② |
| 3 | 保育実習Ⅱ（造形） | 造形指導案の作成（指導案、サンプル）③ |
| 4 | 保育実習Ⅱ（造形） | 振り返り① |
| 5 | 保育実習Ⅱ（造形） | 振り返り② |
| 6 | 幼児のイベント企画運営について① | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて① |
| 7 | 幼児のイベント企画運営について② | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて② |
| 8 | 幼児のイベント企画運営について③ | 幼児教育におけるお遊戯会等の小道具・衣装作りについて③ |
| 9 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導① |
| 10 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導② |
| 11 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導③ |
| 12 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導④ |
| 13 | 立体造形 | 油粘土を使用した幼児造形指導⑤ |
| 14 | 幼児造形及び指導・援助のまとめ | 幼児造形及び指導・援助のまとめ |
| 15 | 2年間の振り返り | 振り返り |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|----------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | こどもと文化 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 倉島多摩代 | | | |
| 実務経験 | 保育所等にて、保育士・園長としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 日本に受け継がれている児童文化、児童文化財について理解を深め、絵本、紙芝居、ペープサート、シアター等様々な種類の児童文化財を用いて、子どもの発達や興味・関心に沿った演じ方を習得する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①児童文化財の持つ意味を知り、保育の現場に生かせる知識を持つ。 ②児童文化財の理解を深め、演習を通して子どもと適切に接することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：配布資料等により講義、演習内容を把握する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、受講内容を理解する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス 保育教材作成 | 保育の場で実践できる保育教材作成 |
| 2 | 保育教材作成・発表 | 保育の場で実践できる保育教材作成 / 発表 |
| 3 | こどもと文化とは | こどもと文化について |
| 4 | 絵本について | 絵本の読み聞かせの基本 |
| 5 | 絵本について | 絵本の読み聞かせ・演習① |
| 6 | 絵本について | 絵本の読み聞かせ・演習② |
| 7 | 紙芝居・手あそびについて | 紙芝居の演じ方 / 手遊び、紙芝居の演習① |
| 8 | 紙芝居・手あそびについて | 手遊び、紙芝居の演習② |
| 9 | 児童文化財研究① | 児童文化財を使った演習 / 児童文化財（手袋シアター）作成準備 |
| 10 | 児童文化財研究② | 児童文化財（手袋シアター）作成① |
| 11 | 児童文化財研究③ | 児童文化財（手袋シアター）作成② |
| 12 | 児童文化財研究④ | 児童文化財（手袋シアター）作成③ |
| 13 | 児童文化財研究⑤ | 児童文化財（手袋シアター）作成④ / 発表練習 |
| 14 | 児童文化財研究⑥ | 児童文化財（手袋シアター）作成⑤ / 発表練習 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ（手袋シアター発表） |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | こどもと文化 | | | |
|---------|--|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。□ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

乳幼児期の発達における児童文化の意義について理解するとともに、子どもの遊び、子どもの表現、児童文化財などに関する知識と技術を習得し、子ども文化の充実を図る能力と実践的な態度について学ぶ。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

演習を通して、乳幼児が児童文化に親しむことができる環境を構成する力、遊びを展開するための技術等を習得し、実践力を身に付ける。

| |
|------|
| 準備學習 |
|------|

・乳幼児のための絵本。紙芝居。わらべ歌などに親しんでおく。

授業内で学んだことを自分なりに応用、工夫して教材作成を行う。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|------------|
| 使用テキスト | 資料（授業時に配布） |
|--------|------------|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|---------------|-------------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 子どもと文化とは | 子どもと文化の意義を理解 |
| 3 | 児童文化財 | 児童文化財の魅力 |
| 4 | 年齢発達について | 0歳児から6歳児まで |
| 5 | 子どもの遊びと文化の伝承① | 子どものあそびの種類 |
| 6 | 子どもの遊びと文化の伝承② | 遊びと演習 |
| 7 | 子どもの遊びと文化の伝承③ | 製作と演習 |
| 8 | 子どもの遊びと文化の伝承④ | 遊びと演習 |
| 9 | 子どもと絵本① | 絵本の読み聞かせ基本 |
| 10 | 子どもと絵本② | 演習（絵本の読み聞かせ） |
| 11 | 子どもの遊びと文化 | 遊び・製作・演習の振り返り |
| 12 | 教材研究① | パネルシアター又はペープサート製作 |
| 13 | 教材研究② | パネルシアター又はペープサート発表 |
| 14 | 保育者の役割 | 子どもの遊びを豊かにするための役割 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-----------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 健康論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 三浦 由美 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ①健康の意味、健康にかかわる子どもの生活実態および心身の健康を理解する 危機管理・防災を学ぶことで安全な場での保育を提供できる方法を理解する | | | | ② |
| 到達目標 | | | | |
| 危機管理学・防災を学ぶことにより、子どもたちの命を守る術を身に着け「健康」につなげることができる知識を習得する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 各自「振り返り」を行ってください | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 健康論（豊岡短期大学）、レジュメは適宜添付 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------------|--------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 子どもの健康について | 子どもにとっての健康を理解する |
| 2 | 健康へのアプローチについて | 生理的欲求、栄養、睡眠について学ぶ |
| 3 | 学校教育法について | 安全配慮義務について学ぶ |
| 4 | 保育現場における責任の所在について | 民法、刑法、国家賠償法について学ぶ |
| 5 | 園の防災について① | 災害総論（地震、豪雨など） |
| 6 | 園の防災について② | 災害事例について触れる |
| 7 | ハザードマップ作成① | 園内・園外の危険を探しマップにおこす |
| 8 | ハザードマップ作成② | 園内・園外の危険を探しマップにおこす |
| 9 | ハザードマップ作成③ | 園内・園外の危険を探しマップにおこす |
| 10 | ハザードマップ発表 | グループ発表 |
| 11 | 保健活動（衛生）①について | 教材作成（衛生）紙芝居 |
| 12 | 保健活動（衛生）②について | 教材作成（衛生）紙芝居 |
| 13 | 保健活動（栄養）①について | 教材作成（栄養）紙芝居 |
| 14 | 保健活動（栄養）②について | 教材作成（栄養）紙芝居 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-----------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 健康論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 三浦 由美 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ①健康の意味、健康にかかわる子どもの生活実態および心身の健康を理解する 危機管理・防災を学ぶことで安全な場での保育を提供できる方法を理解する | | | ② | |
| 到達目標 | | | | |
| 危機管理学・防災を学ぶことにより、子どもたちの命を守る術を身に着け「健康」につなげることができる知識を習得する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業後、各自で「振り返り」を行ってください | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 健康論（豊岡短期大学）、レジュメは適宜添付 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------------------|--------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 子どもの健康について | 子どもにとっての健康を理解する |
| 2 | 健康へのアプローチについて | 生理的欲求、栄養、睡眠について学ぶ |
| 3 | 学校教育法について | 安全配慮義務について学ぶ |
| 4 | 保育現場における責任の所在について | 民法、刑法、国家賠償法について学ぶ |
| 5 | 園の防災について① | 災害総論（地震、豪雨など） |
| 6 | 園の防災について② | 災害事例について触れる |
| 7 | ハザードマップ作成① | 園内・園外の危険を探しマップにおこす |
| 8 | ハザードマップ作成② | 園内・園外の危険を探しマップにおこす |
| 9 | ハザードマップ作成③ | 園内・園外の危険を探しマップにおこす |
| 10 | ハザードマップ発表 | グループ発表 |
| 11 | 保健活動（衛生）①について | 教材作成（衛生）紙芝居 |
| 12 | 保健活動（衛生）②について | 教材作成（衛生）紙芝居 |
| 13 | 保健活動（栄養）①について | 教材作成（栄養）紙芝居 |
| 14 | 保健活動（栄養）②について | 教材作成（栄養）紙芝居 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---------|------|-----|------|
| 科目名 | 人間関係論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、領域「人間関係」の考え方について理解をし、子どもの人間関係に影響を与える様々な社会的要因について知識を深めることを目的とする。また、人間関係をはぐくむ際の保育者の役割について理解し、事例を通して子どもとの関わりについても考えていく。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①領域「人間関係」を理解し、子どもを取り巻く社会環境の変化が子どもたちの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。 ②保育者として、子どもたちにどのような支援が必要かを考えることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 事前学習：次回の授業に関する教科書を事前に精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |
| 『人間関係論』原田敬文ら（著）、豊岡短期大学テキスト 『新版 実践から学ぶ 子どもと人間関係』浅見均（編著）、大学図書出版 | | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|-----------------|-------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方と内容を解説、領域「人間関係」とは |
| 2 | 人間関係とは | 領域「人間関係」のねらいと内容 |
| 3 | 人間関係を取り巻く社会環境① | 少子高齢化 |
| 4 | 人間関係を取り巻く社会環境② | 家族の変化 |
| 5 | 人間関係を取り巻く社会環境③ | 身近な環境の変化 |
| 6 | 人間関係を取り巻く社会環境④ | メディアの変化 |
| 7 | 人間関係をつむぐこどもの発達① | 規範意識と道徳性の芽生え |
| 8 | 人間関係をつむぐこどもの発達② | ルール、決まりごとの意味と意義 |
| 9 | 人間関係をつむぐこどもの発達③ | 自立心、協同性の芽生え |
| 10 | 人間関係をつむぐこどもの発達④ | 自己発揮と自己抑制の芽生え |
| 11 | 人間関係をつむぐこどもの発達⑤ | 人間関係とこどもの遊び |
| 12 | 人間関係をつむぐこどもの発達⑥ | 人間関係とこどもの生活 |
| 13 | 今日的な人間関係における課題 | 多様な文化のこども・気に留めたいこども |
| 14 | まとめ | 科目まとめ |
| 15 | 全体のまとめ | こどもの人間関係に関する今後の展望 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|---|----------|------|-----|------|-----------------------|---------------------|-------------------------|
| 科目名 | 人間関係論 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 講義 | 1 | ガイダンス | 授業の進め方と内容を解説、領域「人間関係」とは |
| 担当教員 | 米田 朝香 | | | | 2 | 人間関係とは① | 領域「人間関係」のねらいと内容・実習に向けて |
| 実務経験 | | | | | 3 | 人間関係とは② | 実習Ⅱ からこどもの「人間関係」を振り返る |
| 授業概要 | | | | | 4 | 人間関係を取り巻く社会環境① | 少子高齢化・家族の変化 |
| この授業では、領域「人間関係」の考え方について理解をし、子どもの人間関係に影響を与える様々な社会的要因について知識を深めることを目的とする。また、人間関係をはぐくむ際の保育者の役割について理解し、事例を通して子どもとの関わりについても考えていく。 | | | | | 5 | 人間関係を取り巻く社会環境② | 身近な環境の変化・メディアの変化 |
| 到達目標 | | | | | 6 | 人間関係をつむぐこどもの発達① | 規範意識と道徳性の芽生え |
| ①領域「人間関係」を理解し、子どもを取り巻く社会環境の変化が子どもたちの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。 | | | | | 7 | 人間関係をつむぐこどもの発達② | ルール、決まりごとの意味と意義 |
| ②保育者として、子どもたちにどのような支援が必要かを考えることができる。 | | | | | 8 | 人間関係をつむぐこどもの発達③ | 自立心、協同性の芽生え |
| 準備学習 | | | | | 9 | 人間関係をつむぐこどもの発達④ | 自己発揮と自己抑制の芽生え |
| 事前学習：次回の授業に関する教科書を事前に精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。 | | | | | 10 | 人間関係をつむぐこどもの発達⑤ | 人間関係とこどもの遊び・生活 |
| 成績評価 | | | | | 11 | 今日的な人間関係の課題と展望（発表）① | 多様な文化のこども・気に留めたいこども |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | 12 | 今日的な人間関係の課題と展望（発表）② | こどもの「人間関係」に関する発表① |
| | | | | | 13 | 今日的な人間関係の課題と展望（発表）③ | こどもの「人間関係」に関する発表② |
| | | | | | 14 | 全体のまとめ | こどもの「人間関係」の振り返り |
| | | | | | 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 環境論 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼児コース | 前期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。そのために具体的な環境例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性について学ぶ。

到達目標

- 乳幼児期の子どもの発達と環境の関係性を考える
- 環境を通して行う保育の意味を知る
- 保育環境のデザインを実践できる
- 様々な環境との出会いを理解する

準備學習

テキスト「環境論」（豊岡短期大学）を熟読し、講義内容を復習する。

成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 「環境論」テキスト（豊岡短期大学） 参考資料は授業時に配布 「幼稚園教育要領解説」（最新版） 「保育所保育指針解説」（最新版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版） |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|--------------|--------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 環境の定義① | 環境の意味を理解する |
| 3 | 環境の定義② | 子どもの発達と環境 |
| 4 | 領域「環境」の位置づけ① | 人的環境 物的環境 |
| 5 | 領域「環境」の位置づけ② | 自然環境 社会・文化環境 |
| 6 | 保育と環境① | 室内環境 |
| 7 | 保育と環境② | 屋外環境 |
| 8 | 行事① | 行事の捉え方 |
| 9 | 行事② | 季節の行事 |
| 10 | 行事③ | 伝統行事 |
| 11 | 地域探検① | 園の周辺地域の理解 |
| 12 | 地域探検② | 園の周辺地域の施設活用 |
| 13 | 保育者の専門性① | 保育者の専門性 |
| 14 | 保育者の専門性② | 保育者マインド向上 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 環境論 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 1 | 講義 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身につける必要がある。そのために具体的な環境例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性について学ぶ。

到達目標

- 乳幼児期の子どもの発達と環境の関係性を考える
 - 環境を通して行う保育の意味を知る
 - 保育環境のデザインを実践できる
 - 様々な環境との出会いを理解する

準備學習

「環境論」(資料)を熟読し、講義内容を復習する。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 「環境論」参考資料は授業時に 配付 「幼稚園教育要領解説」（最新版） 「保育所保育指針解説」（最新版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版） |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|--------------|--------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 環境の定義① | 環境の意味を理解する |
| 3 | 環境の定義② | 子どもの発達と環境 |
| 4 | 領域「環境」の位置づけ① | 人的環境 物的環境 |
| 5 | 領域「環境」の位置づけ② | 自然環境 社会・文化環境 |
| 6 | 保育と環境① | 室内環境 |
| 7 | 保育と環境② | 屋外環境 |
| 8 | 行事① | 行事の捉え方 |
| 9 | 行事② | 季節の行事 |
| 10 | 行事③ | 伝統行事 |
| 11 | 地域探検① | 園の周辺地域の理解 |
| 12 | 地域探検② | 園の周辺地域の施設活用 |
| 13 | 保育者の専門性① | 保育者の専門性 |
| 14 | 保育者の専門性② | 保育者マインド向上 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 音楽表現論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 間正子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育の五領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの遊びや生活の中で素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての豊かな感性を養う。また、子どもの、表現する力や想像力を育むための知識と具体的な活動、指導法を身に付ける。指導に必要な音楽の基礎知識を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 感性を育む領域「表現」を通して、子どもの発達と音楽表現の関係、子どもの音楽的感性や創造性を豊にする、様々な音楽表現遊びや、その環境構成などを理解する。また、音楽表現指導に関する専門知識を学び、保育の具体的な指導や援助の計画が立てられるようになる。音楽活動に必要な、子どもの歌、手遊び歌、などを覚える。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・授業の予習、復習を行う。 ・音楽に親しむ。手遊び歌を覚える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「音楽表現論」、こどもの指導法「音楽表現」 豊岡短期大学 「母とおさなごの歌」 全音楽譜出版社 「音楽通論」 教育芸術社 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|----------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 科目概要の説明 レポート、試験についての説明 五領域「表現」について 呼吸体操、発声 保育者の声の大切さ |
| 2 | 音楽がこどもに与える影響 | 五領域を元に、音楽表現について考える 呼吸体操 発声 春の歌を歌う |
| 3 | 音楽の基礎知識① | 音名、音符と休符について 楽譜の読み方とは 階名で歌ってみよう |
| 4 | 音楽活動：こどもの歌 | こどもの歌の種類、具体的な音楽活動について こどもの豊かな感性を育むためには |
| 5 | 音楽の基礎知識② | 拍子とリズム 音階について 長調と短調の理解 リズム遊び |
| 6 | 音楽活動：手遊び歌 | 手遊び歌を楽しみながら覚える |
| 7 | 音・音楽に親しむことの大切さ | 音・音楽を聴くこと 子どもへの影響について学ぶ |
| 8 | 音楽活動：リズム遊び・合奏 | 打楽器での合奏を通して、音楽活動について具体的に学ぶ |
| 9 | 音楽の基礎知識③ | 和音とコードネーム 記号と標語 |
| 10 | 生活の歌 | 生活の一日の流れを把握し、生活の歌、季節の歌を歌う。 |
| 11 | 音楽の基礎知識④ | 演奏するために必要な、楽譜の読み方 |
| 12 | 音楽活動のまとめ | 歌う活動を通した豊かな人間性の育成とは |
| 13 | こどもと音楽表現 | こどもの表現力を伸ばすためには |
| 14 | 音楽表現についてのまとめ | 音楽の基礎知識と活動の、相互的な必要性について |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 音楽表現論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 間正子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育の五領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの遊びや生活の中で素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての豊かな感性を養う。また、子どもの、表現する力や想像力を育むための知識と具体的な活動、指導法を身に付ける。指導に必要な音楽の基礎知識を理解する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 感性を育む領域「表現」を通して、子どもの発達と音楽表現の関係、子どもの音楽的感性や創造性を豊にする、様々な音楽表現遊びや、その環境構成などを理解する。また、音楽表現指導に関する専門知識を学び、保育の具体的な指導や援助の計画が立てられるようになる。音楽活動に必要な、子どもの歌、手遊び歌、などを覚える。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・授業の予習、復習を行う。 ・音楽に親しむ。手遊び歌を覚える。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 「音楽表現論」、こどもの指導法「音楽表現」 豊岡短期大学 「母とおさなごの歌」 全音楽譜出版社 「音楽通論」 教育芸術社 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 授業ガイダンス | 科目概要の説明 レポート、試験についての説明 五領域「表現」について 呼吸体操、発声 保育者の声の大切さ |
| 2 | 音楽がこどもに与える影響 | 五領域を元に音楽表現について考える 呼吸体操 発声 春の歌を歌う |
| 3 | 音楽の基礎知識① | 音名、音符と休符について 楽譜の読み方とは 階名で歌ってみよう |
| 4 | 音楽活動：こどもの歌 | こどもの歌の種類、具体的な音楽活動について こどもの豊かな感性を育むためには |
| 5 | 音楽の基礎知識② | 拍子とリズム 音階について 長調と短調の理解 リズム遊び |
| 6 | 音楽活動：手遊び歌 | 手遊び歌を楽しみながら覚える |
| 7 | 音・音楽に親しむことの大切さ | 音・音楽を聴くこと 子どもへの影響について学ぶ |
| 8 | 音楽活動：リズム遊び・合奏 | 打楽器での合奏を通して、音楽活動について具体的に学ぶ |
| 9 | 音楽の基礎知識③ | 和音とコードネーム 記号と標語 |
| 10 | 生活の歌 | 生活の一日の流れを把握し、生活の歌、季節の歌を歌う |
| 11 | 音楽の基礎知識④ | 演奏するために必要な、楽譜の読み方 |
| 12 | 音楽活動のまとめ | 歌う活動を通した豊かな人間性の育成とは |
| 13 | こどもと音楽表現 | こどもの表現力を伸ばすためには |
| 14 | まとめ | 科目まとめ |
| 15 | 音楽表現についてのまとめ | 音楽の基礎知識と活動の、相互的な必要性について |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 造形表現論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 幼児造形の指導・援助者として、形や色などの造形理論を基に、描く表現、作る表現、造形遊びの領域と技法を理解する。また、それに伴う材料や用具の特性と活用方法を学ぶ。さらに、手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解し、美術の歴史的展開や乳幼児造形教育の課題についても学習する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1.保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2.乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3.乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 造形表現論（豊岡短期大学）、配布資料 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 くこども保育学科> | | |
|------------------------|-----------------|---------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 1 学期授業の振り返り | 1 学期授業の振り返り レポート課題についての説明 |
| 2 | 描画における発達段階について① | 描画における発達段階について① |
| 3 | 描画における発達段階について② | 描画における発達段階について② |
| 4 | 描画における発達段階について③ | 描画における発達段階について③ |
| 5 | 描画における発達段階について④ | 描画における発達段階について④ |
| 6 | 描画における発達段階について⑤ | 描画における発達段階について⑤ |
| 7 | 描画における発達段階について⑥ | 描画における発達段階について⑥ |
| 8 | 保育実習Ⅰに向けて① | 自己紹介スケッチブック作成①プランニング |
| 9 | 保育実習Ⅰに向けて② | 自己紹介スケッチブック作成②制作 |
| 10 | 保育実習Ⅰに向けて③ | 自己紹介スケッチブック作成③制作 |
| 11 | 保育実習Ⅰに向けて④ | 自己紹介スケッチブック作成④制作 |
| 12 | 保育実習Ⅰに向けて⑤ | 自己紹介スケッチブック作成⑤制作・発表 |
| 13 | 保育実習Ⅰに向けて⑥ | 自己紹介スケッチブック作成発表 |
| 14 | 造形表現論まとめ | 造形表現論まとめ |
| 15 | 科目まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | 造形表現論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 瀧 将仁 | | | |
| 実務経験 | 東京藝術大学院美術研究科修了後、同大学院にて4年間研究室にて勤務。美術作家として作品制作、個展多数開催。公募展で複数の受賞歴あり。幼稚園、幼児向け造形教室、芸術・美術大学予備校等での指導歴あり。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 幼児造形の指導・援助者として、形や色などの造形理論を基に、描く表現、作る表現、造形遊びの領域と技法を理解する。また、それに伴う材料や用具の特性と活用方法を学ぶ。さらに、手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解し、美術の歴史的展開や乳幼児造形教育の課題についても学習する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1.保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2.乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3.乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 特になし | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 配布資料 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 くども保育学科> | | |
|-----------------------|-----------------|---------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 1 学期授業の振り返り | 1 学期授業の振り返り レポート課題についての説明 |
| 2 | 描画における発達段階について① | 描画における発達段階について① |
| 3 | 描画における発達段階について② | 描画における発達段階について② |
| 4 | 描画における発達段階について③ | 描画における発達段階について③ |
| 5 | 幼児の共同制作① | プランニング①個人ワーク |
| 6 | 幼児の共同制作② | プランニング①グループワーク |
| 7 | 幼児の共同制作③ | 共同制作の実践 |
| 8 | 保育実習Ⅰに向けて① | 自己紹介スケッチブック作成①プランニング |
| 9 | 保育実習Ⅰに向けて② | 自己紹介スケッチブック作成②制作 |
| 10 | 保育実習Ⅰに向けて③ | 自己紹介スケッチブック作成③制作 |
| 11 | 保育実習Ⅰに向けて④ | 自己紹介スケッチブック作成④制作 |
| 12 | 保育実習Ⅰに向けて⑤ | 自己紹介スケッチブック作成⑤制作・発表 |
| 13 | 保育実習Ⅰに向けて⑥ | 自己紹介スケッチブック作成発表 |
| 14 | 造形表現論まとめ | 造形表現論まとめ |
| 15 | 科目まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | こどもと体育 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ・幼児向けの運動遊びを様々な方面から検討する ・具体的には、指導案を作成し運動遊びの計画立案、実践、その後の振り返りを通じ、保育現場における運動遊びへの関わり方を学ぶ ・乳幼児の運動発達について理解を深める | | | | |
| ※授業の進捗状況により、内容を変更する場合があります | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. 年齢や発達段階に即した運動遊びの具体的内容を検討する 2. それぞれの運動遊びについて、ねらいを通じた実践内容を計画する 3. 必要な環境設定や安全配慮を工夫する 4. 1～3について指導案上で実施計画を組み立て、個別発表を通じその内容を実践する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・子どもの運動遊びや身体表現の様子に意識的に目を向けるようにしましょう ・見学者は要レポート提出 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 適宜配布 | | | |

| 授業計画 | | |
|------|--------------------|-----------------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス／遊びとねらいの理解① | 授業概要の伝達／遊びのねらい：映像視聴 |
| 2 | 遊びとねらいの理解②／幼児期運動指針 | 遊びのねらい：事例研究／幼児期に身につけたい36の基本動作、調整力 |
| 3 | 運動遊びの計画立案① | 部分実習指導案作成（計画、ねらいの設定） |
| 4 | 運動遊びの計画立案② | 部分実習指導案作成（仕上げ） |
| 5 | 個別発表 | 演習：個別発表 |
| 6 | 個別発表と振り返り① | 演習：個別発表 |
| 7 | 個別発表と振り返り② | 演習：個別発表 |
| 8 | 運動遊び振り返り（教育実習）① | 記録作成 |
| 9 | 運動遊び振り返り（教育実習）② | 報告 |
| 10 | 乳幼児の運動発達① | 原始反射、発達の一般原則、新生児期～定頸 |
| 11 | 乳幼児の運動発達② | 定頸～寝返り～おすわり～様々なハイハイの形 |
| 12 | 乳幼児の運動発達③ | つかまり立ち～一人歩き |
| 13 | 乳幼児の運動発達④ | 上手に歩き始めるころ、まとめ |
| 14 | 総括 | 学習内容の確認、振り返り、復習 |
| 15 | まとめ | 定期試験 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | こどもと体育 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ・幼児向けの運動遊びを様々な方面から検討し、内容や関わり方について理解する ・幼児期運動指針を通して、「多様な動き」の背景と実践について理解する ・指導案を作成する。運動遊びの計画立案、実践、その後の振り返りを通じ、保育現場における運動遊びへの関わり方を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. 保育現場で行われていた運動遊びを様々な方面から振り返り、気づきや学びを得る 2. 運動遊びの創作、計画を実践する 3. 幼児期運動指針と「多様な動き」を理解する 4. 指導案上で運動遊びの実施計画を組み立て、個別発表を通じその内容を実践する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・子どもの運動遊びや身体表現の様子に意識的に目を向けるようにしましょう ・見学者は要レポート提出 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 適宜配布 | | | |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|---|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス／運動遊び 振り返り① | 授業概要の説明／実習振り返り テーマ：運動遊び |
| 2 | 運動遊び 振り返り②：演習 | 運動遊びの際の困り感について |
| 3 | 運動遊びの創作① | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに：運動案の検討 |
| 4 | 運動遊びの創作② | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに：素材の検討 |
| 5 | 運動遊びの創作③ | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに：仕上げと発表 |
| 6 | 幼児期運動指針：演習 | 幼児期に身につけたい36の基本動作／多様な動きと調整力／年齢別のボール遊び |
| 7 | 幼児期運動指針：実技予定 | 多様な動きと年齢別のボール遊び／動きの分析 |
| 8 | 遊びとねらいの理解 | 映像視聴：遊びの設定から見るねらい |
| 9 | 指導案作成：演習① | 部分実習（運動遊び）指導案の作成（グループ） |
| 10 | 指導案作成：演習② | 部分実習（運動遊び）指導案の作成（グループ及び個別） |
| 11 | 指導案作成：演習③ | 部分実習（運動遊び）指導案の作成（個別）、仕上げ |
| 12 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表① |
| 13 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表② |
| 14 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表③ |
| 15 | まとめ | 定期試験 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育実習Ⅱ | | | |
|---------|-------------------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

保育所における実習（各12日間/90時間以上）

参加実習：子どもや利用者と生活をともにしながら学びを深める。

部分実習：短時間の指導計画を立案し実践する。

責任実習：1日全体を通した指導計画を立案し実践する。（必須）

到達目標

- ① 保育所および保育士に求められる専門性について理解を深める。
- ② 子ども一人ひとりの権利を尊重した援助のあり方について学ぶ。
- ③ 保育を計画し展開する中で、子ども主体の生活を実現する保育について自分なりに思考する。
- ④ 家庭や地域との連携の実践について学ぶ。

準備學習

実習開始前には、実習先園・施設と事前オリエンテーションを実施する。

実習簿の準備をする。

責任実習に向けて、子どもの実態に沿った指導案を作成し、準備を行う。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。

実習園（施設）の評価と当校の実習担当教員の評価および実習報告会への参加を併せて総合的に成績評価を行う。

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

[illegible]

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 保育実習Ⅱ | | | |
|---------|------------------------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子、新海智子 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

保育所における実習（各12日間/90時間以上）

参加実習：子どもや利用者と生活をともにしながら学びを深める。

部分実習：短時間の指導計画を立案し実践する。

責任実習：1日全体を通した指導計画を立案し実践する。（必須）

到達目標

- ① 保育所および保育士に求められる専門性について理解を深める。
- ② 子ども一人ひとりの権利を尊重した援助のあり方について学ぶ。
- ③ 保育を計画し展開する中で、子ども主体の生活を実現する保育について自分なりに思考する。
- ④ 家庭や地域との連携の実践について学ぶ。

準備學習

実習開始前には、実習先園・施設と事前オリエンテーションを実施する。

実習簿の準備をする。

責任実習に向けて、子どもの実態に沿った指導案を作成し、準備を行う。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。

実習園（施設）の評価と当校の実習担当教員の評価および実習報告会への参加を併せて総合的に成績評価を行う。

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

[illegible]

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園にて実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰでの個々の課題感を明確にしながら、実際の保育現場を想定した、より実践的な学びによって、記録する力と子どもの実態を捉える力を養います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅱの意義・目的を理解し学びを深める。 ②保育実習Ⅱに向けて、自らの課題を明確にする。 ③エピソード型・ドキュメンテーション型の記録を作成できる。 ④子どもの姿を多角的に捉えることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常を子どもの視点で観察・理解する姿勢をもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------|------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要説明/保育実習Ⅰの学びと課題 |
| 2 | 保育記録の作成① | エピソード記録の書き方を振り返る/エピソード記録を作成する |
| 3 | 保育記録の作成② | 作成した記録のフィードバック/ドキュメンテーションの作成方法 |
| 4 | 保育記録の作成③ | グループワーク ドキュメンテーションの作成 |
| 5 | 現場理解 | 様々な園や施設の職員からお話をうかがう |
| 6 | 保育記録の作成④ | グループワーク ドキュメンテーションのリフレクション |
| 7 | 子どものあそび① | 0歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 8 | 子どものあそび② | 1歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 9 | 子どものあそび③ | 2歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 10 | 子どものあそび④ | 3歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 11 | 子どものあそび⑤ | 4歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 12 | 子どものあそび⑥ | 5歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 13 | 保育実習Ⅱに向けて | 実習の手引きを確認する/保育実習Ⅱに向けた自己の課題を明確化する |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園にて実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰでの個々の課題感を明確にしながら、実際の保育現場を想定した、より実践的な学びによって、記録する力と子どもの実態を捉える力を養います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅱの意義・目的を理解し学びを深める。 ②保育実習Ⅱに向けて、自らの課題を明確にする。 ③エピソード型・ドキュメンテーション型の記録を作成できる。 ④子どもの姿を多角的に捉えることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常を子どもの視点で観察・理解する姿勢をもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|-----------|------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要説明/保育実習Ⅰの学びと課題 |
| 2 | 保育記録の作成① | エピソード記録の書き方を振り返る/エピソード記録を作成する |
| 3 | 保育記録の作成② | 作成した記録のフィードバック/ドキュメンテーションの作成方法 |
| 4 | 保育記録の作成③ | グループワーク ドキュメンテーションの作成 |
| 5 | 現場理解 | 様々な園や施設の職員からお話をうかがう |
| 6 | 保育記録の作成④ | グループワーク ドキュメンテーションのリフレクション |
| 7 | 子どものあそび① | 0歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 8 | 子どものあそび② | 1歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 9 | 子どものあそび③ | 2歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 10 | 子どものあそび④ | 3歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 11 | 子どものあそび⑤ | 4歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 12 | 子どものあそび⑥ | 5歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 13 | 保育実習Ⅱに向けて | 実習の手引きを確認する/保育実習Ⅱに向けた自己の課題を明確化する |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | こどもの理解と相談支援 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 弓田千春 | | | |
| 実務経験 | 臨床心理士、公認心理師としてカウンセリングを行う。高校、専門学校、大学（医療、看護、保育、心理、教職資格過程など）で、講師を務めている。臨床心理士養成の大学院における実習施設指導員を務めた。現在は、クリニックや大学学生相談室にてカウンセリングを行っている。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 教育相談では、進路相談や人間関係の相談から障害や精神疾患の対応など、非常に幅広く、様々な問題について、個人へのアプローチだけでなく、環境調整をも行う。これらを前提に、教員としての具体的な支援者像を持ち、心理学や精神医学の知見から問題に対する理解を深め、支援に対する多角的な視点を養うことを目指す。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 心理学の諸理論についての知識を獲得し、問題の見立てや対応に活用できる。 児童・生徒、保護者、校内外の関係機関など、多様な対象への適切なカウンセリングスキルの獲得。 自分自身の認知の仕方や行動傾向などを分析し、自己理解を深める。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 授業前は資料や教科書で予習する。授業中はノートテイクに集中し、わからないことはなるべく授業中に質問すること。授業後の復習が重要であるため、作成したノートをもとに理解を深めること。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | | | | |
| 指定教科書を使用。その他は、資料等はデータ配布する。 | | | | |

| 授業計画 | | |
|------|-----------------|----------------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業ガイダンス、教育相談とは何か |
| 2 | 心理学の諸理論 1 | フロイトの理論から実践へ～防衛機制、転移、逆転移、無意識について |
| 3 | 心理学の諸理論 2 | カウンセリングマインドとその他の理論について |
| 4 | コミュニケーション論 1 | 観察からわかること |
| 5 | コミュニケーション論 2 | 声掛けや応答、傾聴について |
| 6 | 校内外連携 | 学校という組織、学外の専門機関、家庭との連携と教員の役割について |
| 7 | 発達課題と発達上起こりうる問題 | 生涯発達における発達課題と各時期で起こりうる問題について |
| 8 | 学校における諸問題 1 | 発達障害について① |
| 9 | 学校における諸問題 2 | 発達障害について② |
| 10 | 学校における諸問題 3 | 不登校について |
| 11 | 学校における諸問題 4 | うつ、心身症について |
| 12 | 学校における諸問題 5 | 摂食障害、パニック障害、強迫性障害について |
| 13 | 学校における諸問題 6 | 緊急対応（危機対応）について |
| 14 | 教員のメンタルヘルス | 教員の抱えるストレスとストレス対応について |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 教育方法論 | | | |
|---------|----------------------------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 林 若子 | | | |
| 実務経験 | 短期大学にて、専任および非常勤の教員として保育者養成にあたった。 | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

教職科目の一つである。現在の幼稚園教育は、「環境を通して」行うとされている。子どもの心とからだが生かすような「環境」をどのように選択し設定するのか、また、活動に参加してこない子にどうはたらきかけるのかななどを様々な角度から考察する。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- 1, 近代以降の幼児教育方法の概要を知る。
- 2, 幼児の発達に即した教材を理解する。
- 3, カリキュラムマネジメントを理解する。
- 4, 幼小の連携・接続について理解する。

準備学習

次回取り上げる内容のテキストや配信した資料を読む。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 使用テキスト | 『教育方法論』豊岡短期大学 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 |
|--------|-----------------------------------|

アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|---------------|----------------------------|
| 1 | ガイダンス | シラバス解説 授業の進め方・注意事項 学習したいこと |
| 2 | 3歳児クラスの生活とあそび | ごっこ遊び おにごっこ ぶつかり合い |
| 3 | 4歳児クラスの生活とあそび | 運動会 劇あそび ルールあそび |
| 4 | 5歳児クラスの生活とあそび | 仕事 プロジェクト |
| 5 | 異年齢集団の生活とあそび | 概説 部屋の構造 |
| 6 | 近代以降の幼児教育方法① | フレーベルほか |
| 7 | 近代以降の幼児教育方法② | シュタイナーほか |
| 8 | 幼小の連携・接続① | 基本的な考え方 教員間の連携 |
| 9 | 幼小の連携・接続② | 接続期カリキュラム |
| 10 | 「気になる子」の教育方法① | 基本的な考え方 |
| 11 | 「気になる子」の教育方法② | 事例の検討 |
| 12 | カリキュラムマネジメント | カリキュラムマネジメントとはなにか |
| 13 | さまざまな教具・教材 | 幼児向けの教具・教材 |
| 14 | まとめ① | 復習と補足 |
| 15 | まとめ② | 科目まとめ 解説 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | 教育実習 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 4 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに自らの課題を自覚する機会である。 また、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践の基礎的な能力と態度を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加できる。 ②子どもとの関わりを通して、その実態や課題を把握する。 ③幼稚園教育要領および幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習開始前には、実習先園と事前オリエンテーションを実施する。 実習簿の準備をする。 責任実習に向けて、子どもの実態に沿った指導案を作成し、準備を行う。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。 実習園の評価と教育連携校である豊岡短期大学の評価も併せて総合的に評価される。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------|-----------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 観察・参加 | 実習園について理解する |
| 2 | 観察・参加 | 幼稚園の一日の流れを理解し、積極的に参加する |
| 3 | 観察・参加 | 子どもの観察や関わりを通して、幼児の発達を理解する |
| 4 | 観察・参加 | 幼稚園の役割と機能を理解する |
| 5 | 観察・参加 | 子ども理解に基づく援助の実際を学ぶ |
| 6 | 参加・部分 | 生活やあそびの一部を担当し、保育の技術を習得する① |
| 7 | 参加・部分 | 生活やあそびの一部を担当し、保育の技術を習得する② |
| 8 | 参加・部分 | 子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ |
| 9 | 参加・部分 | 実践を通して記録や考察を深める① |
| 10 | 参加・部分 | 実践を通して記録や考察を深める② |
| 11 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする① |
| 12 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする② |
| 13 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする③ |
| 14 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする④ |
| 15 | 部分 | 職員間の役割分担とチームワークについて理解する |
| 16 | 部分・責任 | 自らの実践を振り返り、課題を明確にする① |
| 17 | 部分・責任 | 自らの実践を振り返り、課題を明確にする② |
| 18 | 部分・責任 | 安全な環境や衛生管理、疾病予防等の配慮について理解する |
| 19 | 部分・責任 | 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ |
| 20 | 部分・責任 | 幼稚園教諭としての職業倫理を具体的に学ぶ |

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 教育実習事前事後指導 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

- ・幼稚園実習の意義や必要性を理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。
- ・幼稚園実習終了後に、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の学習につなげる。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ・幼稚園教育の実際の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。
- ・実習のために必要な知識・技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。
- ・実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

準備學習

| |
|-----------------------------|
| テキストにより講義内容の把握及び、演習及び実習への準備 |
|-----------------------------|

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|------------------------------|
| 使用テキスト | テキスト「幼稚園教育実習事前・事後指導」（豊岡短期大学） |
|--------|------------------------------|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|------------|----------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 実習の目的と概要 | 幼稚園と幼稚園教諭の職務 |
| 3 | 幼稚園実習の心構え | 幼稚園実習の内容と準備の歩み |
| 4 | 幼稚園の実際 | 幼稚園の1日の生活理解 |
| 5 | 専門用語の理解 | 専門用語の意味を理解する |
| 6 | 指導案の書き方 | 指導案の書き方と模写 |
| 7 | 演習準備① | 模擬保育に向けての教材研究 |
| 8 | 演習準備② | 部分実習指導案作成 |
| 9 | 演習① | 部分実習の演習（模擬保育）① |
| 10 | 演習② | 部分実習の演習（模擬保育）② |
| 11 | 演習③ | 部分実習の演習（模擬保育）③ |
| 12 | 演習④ | 部分実習の演習（模擬保育）④ |
| 13 | 演習準備 | 実習に向けての準備 |
| 14 | 幼稚園実習の振り返り | 成果と課題を明確にする |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導（保育所・施設） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰに向けて記録を取ることを通して、的確に状況を捉え分析する力を養います。また、様々な福祉施設の実際を知り知識を得るだけでなく、保育者として自分がどのように関わることができるのかということを思考します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める。 ②子どもや利用者の姿を観察・記録し分析することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 福祉に関する多様な文献およびニュースに触れ、自分なりの考えをもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|----------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の説明/保育実習Ⅰの意義と目的を確認する |
| 2 | 保育を記録する① | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 3 | 保育を記録する② | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 4 | 保育を記録する③ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 5 | 保育を記録する④ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 6 | 保育を組み立てる | 子どもの世界に没入し、実態からあそびを創る |
| 7 | 施設実習を考える | グループワーク 自分の配属先施設への理解を深め、学びの視点をもつ/施設の生活を記録する |
| 8 | 社会的養護の視点から考える① | ゲストスピーカー 施設実習の意義と目的を考える |
| 9 | 社会的養護の視点から考える② | ゲストスピーカー 児童発達支援職員 |
| 10 | 社会的養護の視点から考える③ | ゲストスピーカー 重症心身障害児施設職員 |
| 11 | 社会的養護の視点から考える④ | ゲストスピーカー 児童養護施設職員 |
| 12 | 社会的養護の視点から考える⑤ | ゲストスピーカー 知的障害者施設職員 |
| 13 | 鑑賞 | 福祉をテーマにした映画を鑑賞し、グループワークを行う |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導（保育所・施設） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰに向けて記録を取ることを通して、的確に状況を捉え分析する力を養います。また、様々な福祉施設の実際を知り知識を得るだけでなく、保育者として自分がどのように関わることができるのかということを思考します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める。 ②子どもや利用者の姿を観察・記録し分析することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 福祉に関する多様な文献およびニュースに触れ、自分なりの考えをもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|----------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の説明/保育実習Ⅰの意義と目的を確認する |
| 2 | 保育を記録する① | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 3 | 保育を記録する② | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 4 | 保育を記録する③ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 5 | 保育を記録する④ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 6 | 保育を組み立てる | 子どもの世界に没入し、実態からあそびを創る |
| 7 | 施設実習を考える | グループワーク 自分の配属先施設への理解を深め、学びの視点をもつ/施設の生活を記録する |
| 8 | 社会的養護の視点から考える① | ゲストスピーカー 施設実習の意義と目的を考える |
| 9 | 社会的養護の視点から考える② | ゲストスピーカー 児童発達支援職員 |
| 10 | 社会的養護の視点から考える③ | ゲストスピーカー 重症心身障害児施設職員 |
| 11 | 社会的養護の視点から考える④ | ゲストスピーカー 児童養護施設職員 |
| 12 | 社会的養護の視点から考える⑤ | ゲストスピーカー 知的障害者施設職員 |
| 13 | 鑑賞 | 福祉をテーマにした映画を鑑賞し、グループワークを行う |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習事前事後指導 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育実習Ⅰに向けて、他者と気持ちを共有し合う中で多角的に実習を捉えることに取り組みます。また、部分実習に向けた指導案の準備をすすめます。さらに、実習での学びを振り返り、今後の課題を明確化します。また、実習報告会に向けた準備を行う中で、保育者にとって重要な専門性である「伝えること」とも向き合います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①実習に向けた現在地を明確化し、具体的な目標をもって実習に向かうことができる。 ②実習で得た学びを確認し共有することで、保育現場への理解を深める。 ③他者と思いを交わしたり考えを伝え合う中で、保育者としての力量を形成する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習に向けて明確な目標をもち、必要な準備（実習簿、指導案等）をすすめる。また、実習後は自身の取り組みを丁寧に振り返り、今後の課題を抽出する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 授業内でのグループワーク及び指導案、保育教材への作成への取り組み 授業内で随時作成するミニレポートの提出 これらを踏まえ、総合的に評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 保育所実習に向けて① | グループワーク 保育所実習に向かう気持ちを共有する/保育所実習部分実習実施に向けてあそびの面白さを探る |
| 2 | 保育所実習に向けて② | 部分実習に向けて指導案を作成する |
| 3 | 保育所実習に向けて③ | 指導案の内容を磨く/ロールプレイング |
| 4 | 保育所実習に向けて④ | 保育所実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 5 | 振り返り① | グループワーク 実習の学びを共有し、施設実習に向けて課題を明確化する/お礼状の作成 |
| 6 | 施設実習に向けて | 施設実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 7 | 振り返り② | グループワーク 実習の学びを共有し今後に向けての課題を明確化する |
| 8 | 振り返り③ | 発表 グループで話し合ったことを共有する |
| 9 | 振り返り④ | 実習報告書の作成 |
| 10 | 振り返り⑤ | プレゼンの準備をする |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習事前事後指導 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育実習Ⅰに向けて、他者と気持ちを共有し合う中で多角的に実習を捉えることに取り組みます。また、部分実習に向けた指導案の準備をすすめます。さらに、実習での学びを振り返り、今後の課題を明確化します。また、実習報告会に向けた準備を行う中で、保育者にとって重要な専門性である「伝えること」とも向き合います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①実習に向けた現在地を明確化し、具体的な目標をもって実習に向かうことができる。 ②実習で得た学びを確認し共有することで、保育現場への理解を深める。 ③他者と思いを交わしたり考えを伝え合う中で、保育者としての力量を形成する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習に向けて明確な目標をもち、必要な準備（実習簿、指導案等）をすすめる。また、実習後は自身の取り組みを丁寧に振り返り、今後の課題を抽出する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 授業内でのグループワーク及び指導案、保育教材への作成への取り組み 授業内で随時作成するミニレポートの提出 これらを踏まえ、総合的に評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 保育所実習に向けて① | グループワーク 保育所実習に向かう気持ちを共有する/保育所実習部分実習実施に向けてあそびの面白さを探る |
| 2 | 保育所実習に向けて② | 部分実習に向けて指導案を作成する |
| 3 | 保育所実習に向けて③ | 指導案の内容を磨く/ロールプレイング |
| 4 | 保育所実習に向けて④ | 保育所実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 5 | 振り返り① | グループワーク 実習の学びを共有し、施設実習に向けて課題を明確化する/お礼状の作成 |
| 6 | 施設実習に向けて | 施設実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 7 | 振り返り② | グループワーク 実習の学びを共有し今後に向けての課題を明確化する |
| 8 | 振り返り③ | 発表 グループで話し合ったことを共有する |
| 9 | 振り返り④ | 実習報告書の作成 |
| 10 | 振り返り⑤ | プレゼンの準備をする |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | ピアノ演習 I | | | |
|---------|--------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 北川 聖子、吉田 裕佳子 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

この授業では、前期の授業を踏まえ、引き続き保育士や幼稚園教諭に必要なピアノの技術を修得するために、現場で使用される楽曲（「季節・生活・行事のうた」）を取り上げながら実践する。また、それらの楽曲に加えて、ピアノ奏法の入門的な教則本となる『バイエル』も使用し、ピアノ演奏技術のさらなる向上を目指す。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

ト音記号とヘ音記号を区別して理解し、正しく読譜した上で、右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音や分散の形式で伴奏を弾くことができるようになる。また、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、活き活きと楽しく演奏ができるようになることを目標としている。

準備學習

- ・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。
 - ・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、再度練習すること。
- ※毎日30分～1時間程度の練習をすること。

| 成績評価 | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 出題内容に準じて評価。出題内容に準じて評価。出題内容に準じて評価。 | 出題内容に準じて評価。出題内容に準じて評価。出題内容に準じて評価。 |

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜のスケッチブック（前期の配布プリント集） ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和 5 年） ・配布プリント |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、前期の復習（「生活のうた」）など |
| 2 | 秋のうた① | 「大きな栗の木の下で」・「どんぐりころころ」 |
| 3 | 生活のうた③ | 「おべんとう」 |
| 4 | 『バイエル』 | ※『こどもの指導法「音楽表現」』の指定曲から選曲 |
| 5 | 小テスト | 第2回～第3回までの中で学習した曲から実施 |
| 6 | 秋のうた② | 「きのこ」・「やきいもグーチーパー」 |
| 7 | 生活のうた④ | 「朝のうた」 |
| 8 | 『バイエル』 | ※『こどもの指導法「音楽表現」』の指定曲から選曲 |
| 9 | 小テスト | 第6回～第7回までの中で学習した曲から実施 |
| 10 | 伝統行事のうた① | 「まめまき」 |
| 11 | 伝統行事のうた② | 「うれしいひなまつり」 |
| 12 | 生活のうた⑤ | 「はをみがきましょう」 |
| 13 | 『バイエル』 | ※『こどもの指導法「音楽表現」』の指定曲から選曲 |
| 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|---|------|-----|------|------------------------|-----------|---------------------------|
| 科目名 | ピアノ演習Ⅰ | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 | 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、前期の復習 |
| 担当教員 | 中野由紀子、小林美智子 | | | | 2 | バイエル① | 第16番、第18番 |
| 実務経験 | 幼稚園にて幼稚園教諭、保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（中野）。保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（小林）。 | | | | 3 | バイエル② | 第46番 など |
| 授業概要 | | | | | 4 | 秋のうた① | 大きなくりの木の下で |
| 前期の「保育の表現技術（ピアノ）」で学んだ音楽の基礎知識やピアノの演奏技術を基にして、バイエルピアノ教則本も使用し、保育士として必要な表現力を更に磨く。器楽を軸とした音楽活動（合奏、アンサンブル）にも取り組む。学生個々のレベルに応じた個別指導も引き続き行い、こどもの歌のレパートリーを拡げていく。 | | | | | 5 | 小テスト | 第4回までに学習した曲から実施 |
| | | | | | 6 | 秋のうた② | どんぐりころころ、まつぼっくり |
| | | | | | 7 | 冬のうた① | あわてんぼうのサンタクロース |
| | | | | | 8 | 冬のうた② | お正月 |
| 到達目標 | | | | | 9 | アンサンブル① | ミュージックベル「きよしこの夜」グループ・担当決め |
| ①保育士としての音楽技術について理解し、発展できる。 ②それぞれのレベルに応じたこどもの歌のピアノ伴奏や弾き歌いの応用力を習得する。 保育士として自信をもって歌唱伴奏を務めることができる。④アンサンブルの基礎を理解する。 | | | | | 10 | アンサンブル② | ミュージックベル「きよしこの夜」グループ練習 |
| | | | | | 11 | アンサンブル③ | ミュージックベル「きよしこの夜」発表 |
| 準備学習 | | | | | 12 | 行事のうた① | 豆まき |
| 受講時に学んだ音楽の知識を復習し、それぞれに与えられた課題曲の練習を行う。配布プリントはスクラップブックにまとめる。 | | | | | 13 | 行事のうた② | 思い出のアルバム |
| | | | | | 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 成績評価 | | | | | 15 | 科目のまとめ | 期末試験と科目のまとめ |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 使用テキスト | こどもの指導法「音楽表現」 母とおさなごの歌 配布プリント | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|---|--|------|-----|------|------------------------|--------------------|-----------------------------------|
| 科目名 | こどもと体育 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 | 1 | ガイダンス／遊びとねらいの理解① | 授業概要の伝達／遊びのねらい：映像視聴 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | | 2 | 遊びとねらいの理解②／幼児期運動指針 | 遊びのねらい：事例研究／幼児期に身につけたい36の基本動作、調整力 |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | | 3 | 運動遊びの計画立案① | 部分実習指導案作成（計画、ねらいの設定） |
| 授業概要 | | | | | 4 | 運動遊びの計画立案② | 部分実習指導案作成（仕上げ） |
| ・幼児向けの運動遊びを様々な方面から検討する ・具体的には、指導案を作成し運動遊びの計画立案、実践、その後の振り返りを通じ、保育現場における運動遊びへの関わり方を学ぶ ・乳幼児の運動発達について理解を深める ※授業の進捗状況により、内容を変更する場合があります | | | | | 5 | 個別発表 | 演習：個別発表 |
| | | | | | 6 | 個別発表と振り返り① | 演習：個別発表 |
| | | | | | 7 | 個別発表と振り返り② | 演習：個別発表 |
| 到達目標 | | | | | 8 | 運動遊び振り返り（教育実習）① | 記録作成 |
| 1. 年齢や発達段階に即した運動遊びの具体的内容を検討する 2. それぞれの運動遊びについて、ねらいを通じた実践内容を計画する 3. 必要な環境設定や安全配慮を工夫する 4. 1～3について指導案上で実施計画を組み立て、個別発表を通じその内容を実践する | | | | | 9 | 運動遊び振り返り（教育実習）② | 報告 |
| | | | | | 10 | 乳幼児の運動発達① | 原始反射、発達の一般原則、新生児期～定頸 |
| | | | | | 11 | 乳幼児の運動発達② | 定頸～寝返り～おすわり～様々なハイハイの形 |
| 準備学習 | | | | | 12 | 乳幼児の運動発達③ | つかまり立ち～一人歩き |
| ・子どもの運動遊びや身体表現の様子に意識的に目を向けるようにしましょう ・見学者は要レポート提出 | | | | | 13 | 乳幼児の運動発達④ | 上手に歩き始めるころ、まとめ |
| | | | | | 14 | 総括 | 学習内容の確認、振り返り、復習 |
| 成績評価 | | | | | 15 | まとめ | 定期試験 |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 使用テキスト | 適宜配布 | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | こどもと体育 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成教育内容の研究活動、及び子ども・保育者向け実技講習（身体表現）などの経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| ・幼児向けの運動遊びを様々な方面から検討し、内容や関わり方について理解する ・幼児期運動指針を通して、「多様な動き」の背景と実践について理解する ・指導案を作成する。運動遊びの計画立案、実践、その後の振り返りを通じ、保育現場における運動遊びへの関わり方を学ぶ | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1. 保育現場で行われていた運動遊びを様々な方面から振り返り、気づきや学びを得る 2. 運動遊びの創作、計画を実践する 3. 幼児期運動指針と「多様な動き」を理解する 4. 指導案上で運動遊びの実施計画を組み立て、個別発表を通じその内容を実践する | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・子どもの運動遊びや身体表現の様子に意識的に目を向けるようにしましょう ・見学者は要レポート提出 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、課題評価10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 適宜配布 | | | |

| 授業計画 | | |
|------|------------------|---|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス／運動遊び 振り返り① | 授業概要の説明／実習振り返り テーマ：運動遊び |
| 2 | 運動遊び 振り返り②：演習 | 運動遊びの際の困り感について |
| 3 | 運動遊びの創作① | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに：運動案の検討 |
| 4 | 運動遊びの創作② | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに：素材の検討 |
| 5 | 運動遊びの創作③ | 絵本『できるかな？あたまからつまさきまで』『げつようびはなにたべる』を手がかりに：仕上げと発表 |
| 6 | 幼児期運動指針：演習 | 幼児期に身につけたい36の基本動作／多様な動きと調整力／年齢別のボール遊び |
| 7 | 幼児期運動指針：実技予定 | 多様な動きと年齢別のボール遊び／動きの分析 |
| 8 | 遊びとねらいの理解 | 映像視聴：遊びの設定から見るねらい |
| 9 | 指導案作成：演習① | 部分実習（運動遊び）指導案の作成（グループ） |
| 10 | 指導案作成：演習② | 部分実習（運動遊び）指導案の作成（グループ及び個別） |
| 11 | 指導案作成：演習③ | 部分実習（運動遊び）指導案の作成（個別）、仕上げ |
| 12 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表① |
| 13 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表② |
| 14 | 運動実技 | 運動遊び：個別発表③ |
| 15 | まとめ | 定期試験 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育所における実習（各12日間/90時間以上） | | | | |
| 参加実習：子どもや利用者と生活をともにしながら学びを深める。 | | | | |
| 部分実習：短時間の指導計画を立案し実践する。 | | | | |
| 責任実習：1日全体を通した指導計画を立案し実践する。（必須） | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育所および保育士に求められる専門性について理解を深める。 | | | | |
| ②子ども一人ひとりの権利を尊重した援助のあり方について学ぶ。 | | | | |
| ③保育を計画し展開する中で、子ども主体の生活を実現する保育について自分なりに思考する。 | | | | |
| ④家庭や地域との連携の実践について学ぶ。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習開始前には、実習先園・施設と事前オリエンテーションを実施する。 | | | | |
| 実習簿の準備をする。 | | | | |
| 責任実習に向けて、子どもの実態に沿った指導案を作成し、準備を行う。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。 | | | | |
| 実習園（施設）の評価と当校の実習担当教員の評価および実習報告会への参加を併せて総合的に成績評価を行う。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|-------|--------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 参加・部分 | 実習園での子どもの生活の流れを理解する。 |
| 2 | 参加・部分 | 子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達への理解を深める。① |
| 3 | 参加・部分 | 子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達への理解を深める。② |
| 4 | 参加・部分 | 保育者の姿から、子ども一人ひとりの個性に応じた援助について考える。① |
| 5 | 参加・部分 | 保育者の姿から、子ども一人ひとりの個性に応じた援助について考える。② |
| 6 | 参加・部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする。 |
| 7 | 参加・責任 | 生活やあそび等の一部を担当し、保育技術を習得する。 |
| 8 | 参加・責任 | 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 |
| 9 | 参加・責任 | 実践を通して記録や考察を深める。 |
| 10 | 参加・責任 | 家庭や地域との連携について理解をする。 |
| 11 | 参加・責任 | 安全な環境や衛生管理、疾病予防等の配慮について理解する。 |
| 12 | 参加・責任 | 子どもの権利を尊重した保育について自分なりに考えを深める。 |
| 13 | 実習報告会 | 12日間の実習を振り返りに基づいた報告書をまとめ、グループワークを行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子、新海智子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育所における実習（各12日間/90時間以上） | | | | |
| 参加実習：子どもや利用者と生活をともにしながら学びを深める。 | | | | |
| 部分実習：短時間の指導計画を立案し実践する。 | | | | |
| 責任実習：1日全体を通した指導計画を立案し実践する。（必須） | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育所および保育士に求められる専門性について理解を深める。 | | | | |
| ②子ども一人ひとりの権利を尊重した援助のあり方について学ぶ。 | | | | |
| ③保育を計画し展開する中で、子ども主体の生活を実現する保育について自分なりに思考する。 | | | | |
| ④家庭や地域との連携の実際について学ぶ。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習開始前には、実習先園・施設と事前オリエンテーションを実施する。 | | | | |
| 実習簿の準備をする。 | | | | |
| 責任実習に向けて、子どもの実態に沿った指導案を作成し、準備を行う。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。 | | | | |
| 実習園（施設）の評価と当校の実習担当教員の評価および実習報告会への参加を併せて総合的に成績評価を行う。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校<こども保育学科> | | |
|-----------------------|-------|--------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 参加・部分 | 実習園での子どもの生活の流れを理解する。 |
| 2 | 参加・部分 | 子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達への理解を深める。① |
| 3 | 参加・部分 | 子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達への理解を深める。② |
| 4 | 参加・部分 | 保育者の姿から、子ども一人ひとりの個性に応じた援助について考える。① |
| 5 | 参加・部分 | 保育者の姿から、子ども一人ひとりの個性に応じた援助について考える。② |
| 6 | 参加・部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする。 |
| 7 | 参加・責任 | 生活やあそび等の一部を担当し、保育技術を習得する。 |
| 8 | 参加・責任 | 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 |
| 9 | 参加・責任 | 実践を通して記録や考察を深める。 |
| 10 | 参加・責任 | 家庭や地域との連携について理解をする。 |
| 11 | 参加・責任 | 安全な環境や衛生管理、疾病予防等の配慮について理解する。 |
| 12 | 参加・責任 | 子どもの権利を尊重した保育について自分なりに考えを深める。 |
| 13 | 実習報告会 | 12日間の実習を振り返りに基づいた報告書をまとめ、グループワークを行う。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園にて実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰでの個々の課題感を明確にしながら、実際の保育現場を想定した、より実践的な学びによって、記録する力と子どもの実態を捉える力を養います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅱの意義・目的を理解し学びを深める。 ②保育実習Ⅱに向けて、自らの課題を明確にする。 ③エピソード型・ドキュメンテーション型の記録を作成できる。 ④子どもの姿を多角的に捉えることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常を子どもの視点で観察・理解する姿勢をもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------|------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要説明/保育実習Ⅰの学びと課題 |
| 2 | 保育記録の作成① | エピソード記録の書き方を振り返る/エピソード記録を作成する |
| 3 | 保育記録の作成② | 作成した記録のフィードバック/ドキュメンテーションの作成方法 |
| 4 | 保育記録の作成③ | グループワーク ドキュメンテーションの作成 |
| 5 | 現場理解 | 様々な園や施設の職員からお話をうかがう |
| 6 | 保育記録の作成④ | グループワーク ドキュメンテーションのリフレクション |
| 7 | 子どものあそび① | 0歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 8 | 子どものあそび② | 1歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 9 | 子どものあそび③ | 2歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 10 | 子どものあそび④ | 3歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 11 | 子どものあそび⑤ | 4歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 12 | 子どものあそび⑥ | 5歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 13 | 保育実習Ⅱに向けて | 実習の手引きを確認する/保育実習Ⅱに向けた自己の課題を明確化する |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園にて実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰでの個々の課題感を明確にしながら、実際の保育現場を想定した、より実践的な学びによって、記録する力と子どもの実態を捉える力を養います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅱの意義・目的を理解し学びを深める。 ②保育実習Ⅱに向けて、自らの課題を明確にする。 ③エピソード型・ドキュメンテーション型の記録を作成できる。 ④子どもの姿を多角的に捉えることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 日常を子どもの視点で観察・理解する姿勢をもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞ | | |
|-----------------------|-----------|------------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要説明/保育実習Ⅰの学びと課題 |
| 2 | 保育記録の作成① | エピソード記録の書き方を振り返る/エピソード記録を作成する |
| 3 | 保育記録の作成② | 作成した記録のフィードバック/ドキュメンテーションの作成方法 |
| 4 | 保育記録の作成③ | グループワーク ドキュメンテーションの作成 |
| 5 | 現場理解 | 様々な園や施設の職員からお話をうかがう |
| 6 | 保育記録の作成④ | グループワーク ドキュメンテーションのリフレクション |
| 7 | 子どものあそび① | 0歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 8 | 子どものあそび② | 1歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 9 | 子どものあそび③ | 2歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 10 | 子どものあそび④ | 3歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 11 | 子どものあそび⑤ | 4歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 12 | 子どものあそび⑥ | 5歳児のあそびを理解し、考察する（グループワーク：ロールプレイング） |
| 13 | 保育実習Ⅱに向けて | 実習の手引きを確認する/保育実習Ⅱに向けた自己の課題を明確化する |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|--|------|-----|------|------------------------|-----------|----------------------------------|
| 科目名 | こどもの理解と相談支援 | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 | 1 | ガイダンス | 授業ガイダンス、教育相談とは何か |
| 担当教員 | 弓田千春 | | | | 2 | 心理学の諸理論 1 | フロイトの理論から実践へ～防衛機制、転移、逆転移、無意識について |
| 実務経験 | 臨床心理士、公認心理師としてカウンセリングを行う。高校、専門学校、大学（医療、看護、保育、心理、教職資格過程など）で、講師を務めている。臨床心理士養成の大学院における実習施設指導員を務めた。現在は、クリニックや大学学生相談室にてカウンセリングを行っている。 | | | | 3 | 心理学の諸理論 2 | カウンセリングマインドとその他の理論について |
| 授業概要 | | | | | | | |
| 教育相談では、進路相談や人間関係の相談から障害や精神疾患の対応など、非常に幅広く、様々な問題について、個人へのアプローチだけでなく、環境調整をも行う。これらを前提に、教員としての具体的な支援者像を持ち、心理学や精神医学の知見から問題に対する理解を深め、支援に対する多角的な視点を養うことを目指す。 | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | |
| 心理学の諸理論についての知識を獲得し、問題の見立てや対応に活用できる。 児童・生徒、保護者、校内外の関係機関など、多様な対象への適切なカウンセリングスキルの獲得。 自分自身の認知の仕方や行動傾向などを分析し、自己理解を深める。 | | | | | | | |
| 準備学習 | | | | | | | |
| 授業前は資料や教科書で予習する。授業中はノートテイクに集中し、わからないことはなるべく授業中に質問すること。授業後の復習が重要であるため、作成したノートをもとに理解を深めること。 | | | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。 | | | | | | | |
| 使用テキスト | 指定教科書を使用。その他は、資料等はデータ配布する。 | | | | | | |

| | | |
|--|--|--|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-----------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 教育方法論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 林 若子 | | | |
| 実務経験 | 短期大学にて、専任および非常勤の教員として保育者養成にあたった。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 教職科目の一つである。現在の幼稚園教育は、「環境を通して」行うとされている。子どもの心とからだから思わず動き出すような「環境」をどのように選択し設定するのか、また、活動に参加してこない子にどうはたらきかけるのかななどを様々な角度から考察する。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 1, 近代以降の幼児教育方法の概要を知る。 2, 幼児の発達に即した教材を理解する。 3, カリキュラムマネジメントを理解する。 4, 幼小の連携・接続について理解する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 次回取り上げる内容のテキストや配信した資料を読む。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『教育方法論』豊岡短期大学 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------|----------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | シラバス解説 授業の進め方・注意事項 学習したいこと |
| 2 | 3歳児クラスの生活とあそび | ごっこ遊び おにごっこ ぶつかり合い |
| 3 | 4歳児クラスの生活とあそび | 運動会 劇あそび ルールあそび |
| 4 | 5歳児クラスの生活とあそび | 仕事 プロジェクト |
| 5 | 異年齢集団の生活とあそび | 概説 部屋の構造 |
| 6 | 近代以降の幼児教育方法① | フレーベルほか |
| 7 | 近代以降の幼児教育方法② | シュタイナーほか |
| 8 | 幼小の連携・接続① | 基本的な考え方 教員間の連携 |
| 9 | 幼小の連携・接続② | 接続期カリキュラム |
| 10 | 「気になる子」の教育方法① | 基本的な考え方 |
| 11 | 「気になる子」の教育方法② | 事例の検討 |
| 12 | カリキュラムマネジメント | カリキュラムマネジメントとはなにか |
| 13 | さまざまな教具・教材 | 幼児向けの教具・教材 |
| 14 | まとめ① | 復習と補足 |
| 15 | まとめ② | 科目まとめ 解説 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | 教育実習 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 4 | 実習 |
| 担当教員 | 倉島 多摩代、伊藤 萌、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になる上での能力や適性を考えるとともに自らの課題を自覚する機会である。 また、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践の基礎的な能力と態度を身につける。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加できる。 ②子どもとの関わりを通して、その実態や課題を把握する。 ③幼稚園教育要領および幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習開始前には、実習先園と事前オリエンテーションを実施する。 実習簿の準備をする。 責任実習に向けて、子どもの実態に沿った指導案を作成し、準備を行う。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 規定された実習時間を全て終了することにより、実習園（施設）の責任者より実習の評価がされる。 実習園の評価と教育連携校である豊岡短期大学の評価も併せて総合的に評価される。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-------|-----------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 観察・参加 | 実習園について理解する |
| 2 | 観察・参加 | 幼稚園の一日の流れを理解し、積極的に参加する |
| 3 | 観察・参加 | 子どもの観察や関わりを通して、幼児の発達を理解する |
| 4 | 観察・参加 | 幼稚園の役割と機能を理解する |
| 5 | 観察・参加 | 子ども理解に基づく援助の実際を学ぶ |
| 6 | 参加・部分 | 生活やあそびの一部を担当し、保育の技術を習得する① |
| 7 | 参加・部分 | 生活やあそびの一部を担当し、保育の技術を習得する② |
| 8 | 参加・部分 | 子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ |
| 9 | 参加・部分 | 実践を通して記録や考察を深める① |
| 10 | 参加・部分 | 実践を通して記録や考察を深める② |
| 11 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする① |
| 12 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする② |
| 13 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする③ |
| 14 | 部分 | 園の保育計画を理解し、責任実習に向けて準備をする④ |
| 15 | 部分 | 職員間の役割分担とチームワークについて理解する |
| 16 | 部分・責任 | 自らの実践を振り返り、課題を明確にする① |
| 17 | 部分・責任 | 自らの実践を振り返り、課題を明確にする② |
| 18 | 部分・責任 | 安全な環境や衛生管理、疾病予防等の配慮について理解する |
| 19 | 部分・責任 | 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ |
| 20 | 部分・責任 | 幼稚園教諭としての職業倫理を具体的に学ぶ |

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス

| 科目名 | 教育実習事前事後指導 | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 中村 リヨ | | | |
| 実務経験 | 公立幼稚園にて、教諭・園長。幼保一元化施設にて施設長。大学にて児童学科及び、子ども学科講師の実務経験を有する。 □ | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

- ・幼稚園実習の意義や必要性を理解し、実習が十分な成果を納められるように準備する。
- ・幼稚園実習終了後に、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の学習につなげる。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

- ・幼稚園教育の実際の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。
- ・実習のために必要な知識・技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。
- ・実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。

準備學習

テキストにより講義内容の把握及び、演習及び実習への準備

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)

| | |
|--------|------------------------------|
| 使用テキスト | テキスト「幼稚園教育実習事前・事後指導」（豊岡短期大学） |
|--------|------------------------------|

アルファ医療福祉専門学校＜こども保育学科＞

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|------------|----------------|
| 1 | ガイダンス | 科目概要の説明 |
| 2 | 実習の目的と概要 | 幼稚園と幼稚園教諭の職務 |
| 3 | 幼稚園実習の心構え | 幼稚園実習の内容と準備の歩み |
| 4 | 幼稚園の実際 | 幼稚園の1日の生活理解 |
| 5 | 専門用語の理解 | 専門用語の意味を理解する |
| 6 | 指導案の書き方 | 指導案の書き方と模写 |
| 7 | 演習準備① | 模擬保育に向けての教材研究 |
| 8 | 演習準備② | 部分実習指導案作成 |
| 9 | 演習① | 部分実習の演習（模擬保育）① |
| 10 | 演習② | 部分実習の演習（模擬保育）② |
| 11 | 演習③ | 部分実習の演習（模擬保育）③ |
| 12 | 演習④ | 部分実習の演習（模擬保育）④ |
| 13 | 演習準備 | 実習に向けての準備 |
| 14 | 幼稚園実習の振り返り | 成果と課題を明確にする |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導（保育所・施設） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰに向けて記録を取ることを通して、的確に状況を捉え分析する力を養います。また、様々な福祉施設の実際を知り知識を得るだけでなく、保育者として自分がどのように関わることができるのかということを思考します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める。 ②子どもや利用者の姿を観察・記録し分析することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 福祉に関する多様な文献およびニュースに触れ、自分なりの考えをもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の説明/保育実習Ⅰの意義と目的を確認する |
| 2 | 保育を記録する① | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 3 | 保育を記録する② | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 4 | 保育を記録する③ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 5 | 保育を記録する④ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 6 | 保育を組み立てる | 子どもの世界に没入し、実態からあそびを創る |
| 7 | 施設実習を考える | グループワーク 自分の配属先施設への理解を深め、学びの視点をもつ/施設の生活を記録する |
| 8 | 社会的養護の視点から考える① | ゲストスピーカー 施設実習の意義と目的を考える |
| 9 | 社会的養護の視点から考える② | ゲストスピーカー 児童発達支援職員 |
| 10 | 社会的養護の視点から考える③ | ゲストスピーカー 重症心身障害児施設職員 |
| 11 | 社会的養護の視点から考える④ | ゲストスピーカー 児童養護施設職員 |
| 12 | 社会的養護の視点から考える⑤ | ゲストスピーカー 知的障害者施設職員 |
| 13 | 鑑賞 | 福祉をテーマにした映画を鑑賞し、グループワークを行う |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習指導（保育所・施設） | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 本授業では、保育実習Ⅰに向けて記録を取ることを通して、的確に状況を捉え分析する力を養います。また、様々な福祉施設の実際を知り知識を得るだけでなく、保育者として自分がどのように関わることができるのかということを思考します。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める。 ②子どもや利用者の姿を観察・記録し分析することができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 福祉に関する多様な文献およびニュースに触れ、自分なりの考えをもつ。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びつづける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|----------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 授業概要の説明/保育実習Ⅰの意義と目的を確認する |
| 2 | 保育を記録する① | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 3 | 保育を記録する② | 子どもの生活全体を捉え記録する |
| 4 | 保育を記録する③ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 5 | 保育を記録する④ | 子どもの生活の一場面を詳しく捉え記録する |
| 6 | 保育を組み立てる | 子どもの世界に没入し、実態からあそびを創る |
| 7 | 施設実習を考える | グループワーク 自分の配属先施設への理解を深め、学びの視点をもつ/施設の生活を記録する |
| 8 | 社会的養護の視点から考える① | ゲストスピーカー 施設実習の意義と目的を考える |
| 9 | 社会的養護の視点から考える② | ゲストスピーカー 児童発達支援職員 |
| 10 | 社会的養護の視点から考える③ | ゲストスピーカー 重症心身障害児施設職員 |
| 11 | 社会的養護の視点から考える④ | ゲストスピーカー 児童養護施設職員 |
| 12 | 社会的養護の視点から考える⑤ | ゲストスピーカー 知的障害者施設職員 |
| 13 | 鑑賞 | 福祉をテーマにした映画を鑑賞し、グループワークを行う |
| 14 | 振り返り | 授業内容の振り返り |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習事前事後指導 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育実習Ⅰに向けて、他者と気持ちを共有し合う中で多角的に実習を捉えることに取り組みます。また、部分実習に向けた指導案の準備をすすめます。さらに、実習での学びを振り返り、今後の課題を明確化します。また、実習報告会に向けた準備を行う中で、保育者にとって重要な専門性である「伝えること」とも向き合います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①実習に向けた現在地を明確化し、具体的な目標をもって実習に向かうことができる。 ②実習で得た学びを確認し共有することで、保育現場への理解を深める。 ③他者と思いを交わしたり考えを伝え合う中で、保育者としての力量を形成する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習に向けて明確な目標をもち、必要な準備（実習簿、指導案等）をすすめる。また、実習後は自身の取り組みを丁寧に振り返り、今後の課題を抽出する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 授業内でのグループワーク及び指導案、保育教材への作成への取り組み 授業内で随時作成するミニレポートの提出 これらを踏まえ、総合的に評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 保育所実習に向けて① | グループワーク 保育所実習に向かう気持ちを共有する/保育所実習部分実習実施に向けてあそびの面白さを探る |
| 2 | 保育所実習に向けて② | 部分実習に向けて指導案を作成する |
| 3 | 保育所実習に向けて③ | 指導案の内容を磨く/ロールプレイング |
| 4 | 保育所実習に向けて④ | 保育所実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 5 | 振り返り① | グループワーク 実習の学びを共有し、施設実習に向けて課題を明確化する/お礼状の作成 |
| 6 | 施設実習に向けて | 施設実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 7 | 振り返り② | グループワーク 実習の学びを共有し今後に向けての課題を明確化する |
| 8 | 振り返り③ | 発表 グループで話し合ったことを共有する |
| 9 | 振り返り④ | 実習報告書の作成 |
| 10 | 振り返り⑤ | プレゼンの準備をする |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|--|------|-----|------|
| 科目名 | 保育実習事前事後指導 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 1 | 演習 |
| 担当教員 | 伊藤 萌、倉島 多摩代 | | | |
| 実務経験 | 幼稚園および保育園において実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育実習Ⅰに向けて、他者と気持ちを共有し合う中で多角的に実習を捉えることに取り組みます。また、部分実習に向けた指導案の準備をすすめます。さらに、実習での学びを振り返り、今後の課題を明確化します。また、実習報告会に向けた準備を行う中で、保育者にとって重要な専門性である「伝えること」とも向き合います。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①実習に向けた現在地を明確化し、具体的な目標をもって実習に向かうことができる。 ②実習で得た学びを確認し共有することで、保育現場への理解を深める。 ③他者と思いを交わしたり考えを伝え合う中で、保育者としての力量を形成する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 実習に向けて明確な目標をもち、必要な準備（実習簿、指導案等）をすすめる。また、実習後は自身の取り組みを丁寧に振り返り、今後の課題を抽出する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 授業内でのグループワーク及び指導案、保育教材への作成への取り組み 授業内で随時作成するミニレポートの提出 これらを踏まえ、総合的に評価する。 | | | | |
| 使用テキスト | 『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『学びにつける保育者をめざす実習の本 保育所・施設・幼稚園』 萌文書林 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | 保育所実習に向けて① | グループワーク 保育所実習に向かう気持ちを共有する/保育所実習部分実習実施に向けてあそびの面白さを探る |
| 2 | 保育所実習に向けて② | 部分実習に向けて指導案を作成する |
| 3 | 保育所実習に向けて③ | 指導案の内容を磨く/ロールプレイング |
| 4 | 保育所実習に向けて④ | 保育所実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 5 | 振り返り① | グループワーク 実習の学びを共有し、施設実習に向けて課題を明確化する/お礼状の作成 |
| 6 | 施設実習に向けて | 施設実習日誌作成の手順振り返り/実習中の留意事項 |
| 7 | 振り返り② | グループワーク 実習の学びを共有し今後に向けての課題を明確化する |
| 8 | 振り返り③ | 発表 グループで話し合ったことを共有する |
| 9 | 振り返り④ | 実習報告書の作成 |
| 10 | 振り返り⑤ | プレゼンの準備をする |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

| 科目名 | ピアノ演習Ⅰ | | | |
|---------|--------------|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 北川 聖子、吉田 裕佳子 | | | |
| 実務経験 | | | | |

| |
|------|
| 授業概要 |
|------|

この授業では、前期の授業を踏まえ、引き続き保育士や幼稚園教諭に必要なピアノの技術を修得するために、現場で使用される楽曲（「季節・生活・行事のうた」）を取り上げながら実践する。また、それらの楽曲に加えて、ピアノ奏法の入門的な教則本となる『バイエル』も使用し、ピアノ演奏技術のさらなる向上を目指す。

| |
|------|
| 到達目標 |
|------|

ト音記号とヘ音記号を区別して理解し、正しく読譜した上で、右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音や分散の形式で伴奏を弾くことができるようになる。また、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、活き活きと楽しく演奏ができるようになることを目標としている。

準備學習

- ・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。
・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、再度練習すること。
※毎日30分～1時間程度の練習をすること。

| | |
|------|--|
| 成績評価 | |
|------|--|

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。
定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

| | |
|--------|--|
| 使用テキスト | <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜のスケッチブック（前期の配布プリント集） ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和5年） ・配布プリント |
|--------|--|

アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

| |
|------|
| 授業計画 |
|------|

| 回数 | 単元 | 内容 |
|----|-----------|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、前期の復習（「生活のうた」）など |
| 2 | 秋のうた① | «大きな栗の木の下で»・«どんぐりころころ» |
| 3 | 生活のうた③ | «おべんとう» |
| 4 | 『バイエル』 | ※『こどもの指導法「音楽表現」』の指定曲から選曲 |
| 5 | 小テスト | 第2回～第3回までの中で学習した曲から実施 |
| 6 | 秋のうた② | «きのこ»・«やきいもグーチーパー» |
| 7 | 生活のうた④ | «朝のうた» |
| 8 | 『バイエル』 | ※『こどもの指導法「音楽表現」』の指定曲から選曲 |
| 9 | 小テスト | 第6回～第7回までの中で学習した曲から実施 |
| 10 | 伝統行事のうた① | «まめまき» |
| 11 | 伝統行事のうた② | «うれしいひなまつり» |
| 12 | 生活のうた⑤ | «はをみがきましょう» |
| 13 | 『バイエル』 | ※『こどもの指導法「音楽表現」』の指定曲から選曲 |
| 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|---|------|-----|------|------------------------|-----------|---------------------------|
| 科目名 | ピアノ演習Ⅰ | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 1年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 | 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、前期の復習 |
| 担当教員 | 中野由紀子、小林美智子 | | | | 2 | バイエル① | 第16番、第18番 |
| 実務経験 | 幼稚園にて幼稚園教諭、保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（中野）。保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（小林）。 | | | | 3 | バイエル② | 第46番 など |
| 授業概要 | | | | | 4 | 秋のうた① | 大きなくりの木の下で |
| 前期の「保育の表現技術（ピアノ）」で学んだ音楽の基礎知識やピアノの演奏技術を基にして、バイエルピアノ教則本も使用し、保育士として必要な表現力を更に磨く。器楽を軸とした音楽活動（合奏、アンサンブル）にも取り組む。学生個々のレベルに応じた個別指導も引き続き行い、こどもの歌のレパートリーを拡げていく。 | | | | | 5 | 小テスト | 第4回までに学習した曲から実施 |
| | | | | | 6 | 秋のうた② | どんぐりころころ、まつぼっくり |
| | | | | | 7 | 冬のうた① | あわてんぼうのサンタクロース |
| | | | | | 8 | 冬のうた② | お正月 |
| 到達目標 | | | | | 9 | アンサンブル① | ミュージックベル「きよしこの夜」グループ・担当決め |
| ①保育士としての音楽技術について理解し、発展できる。 ②それぞれのレベルに応じたこどもの歌のピアノ伴奏や弾き歌いの応用力を習得する。 保育士として自信をもって歌唱伴奏を務めることができる。④アンサンブルの基礎を理解する。 | | | | | 10 | アンサンブル② | ミュージックベル「きよしこの夜」グループ練習 |
| | | | | | 11 | アンサンブル③ | ミュージックベル「きよしこの夜」発表 |
| 準備学習 | | | | | 12 | 行事のうた① | 豆まき |
| 受講時に学んだ音楽の知識を復習し、それぞれに与えられた課題曲の練習を行う。配布プリントはスクラップブックにまとめる。 | | | | | 13 | 行事のうた② | 思い出のアルバム |
| | | | | | 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 成績評価 | | | | | 15 | 科目のまとめ | 期末試験と科目のまとめ |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 使用テキスト | こどもの指導法「音楽表現」 母とおさなごの歌 配布プリント | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | ピアノ演習Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 北川 聖子、吉田 裕佳子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、保育士や幼稚園教諭に必要な「弾き歌い」のためのピアノに関する知識や技術を修得するために、現場で使用される楽曲（「季節・生活・行事のうた」）を取り上げながら展開していく。また、幼稚園実習などに向けて、実習園からの課題曲にも取り組む。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音や分散の形式で伴奏を弾くことができるようになる。さらに、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、活き活きと楽しく「弾き歌い」ができるようになることを目標としている。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。 ・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、再度練習すること。 ※毎日30分～1時間程度の練習をすること。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和5年） ・配布プリント | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------|---------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、1年次の復習（「生活のうた」）など |
| 2 | 幼稚園実習に向けての準備① | 6月の「季節のうた」 |
| 3 | 幼稚園実習に向けての準備② | 6月の「行事のうた」 |
| 4 | 実習園からの課題曲① | ※園からの課題曲に取り組む |
| 5 | 実習園からの課題曲② | ※園からの課題曲に取り組む |
| 6 | 実習園からの課題曲③ | ※園からの課題曲に取り組む |
| 7 | 小テスト | 第2回～第6回までの中で学習した曲から実施 |
| 8 | 夏のうた① | «きらきら星» |
| 9 | 夏のうた② | «たなばたさま» |
| 10 | 夏のうた③ | «やぎさんゆうびん» |
| 11 | 夏のうた④ | «山の音楽家» |
| 12 | 夏のうた⑤ | «イルカはザンブラコ» |
| 13 | 夏のうた⑥ | «南の島のハメハメハ大王» |
| 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | ピアノ演習Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 小林 美智子・中野 由紀子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（小林） 幼稚園にて幼稚園教諭、保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（中野） | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、「生活のうた」「季節のうた」「こどものうた」など、現場で必要とされる楽曲を取り上げ、ピアノ演奏、弾き歌いのためのピアノに関する知識や技術を習得する | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育現場での音楽指導に対応できるピアノ演奏と弾き歌いの技術を、個々のレベルに合わせた難易度を設定の上で習得させる。 また、読譜、リズム、コードによる伴奏付けなど音楽の基本的な知識の理解を深めることを目標とする | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 自宅、学校などで予習復習をし、演奏技術の向上に努める | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・母と幼子の歌 ・こどもの指導法「音楽表現」 ・配布プリント | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|-----------|----------------------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、一年時の復習など |
| 2 | 生活のうた① | おかえりのうた |
| 3 | 生活のうた② | むすんでひらいて バイエル第 1 5 番 |
| 4 | 生活のうた③ | おかたづけ 先生とおともだち |
| 5 | 生活のうた④ | はをみがきましよう |
| 6 | 生活のうた⑤ | おべんとうのうた |
| 7 | 小テスト | 第 2 回から第 6 回までの中で学習した曲から実施 リズム活動 |
| 8 | 季節のうた① | きらきらぼし バイエル第 1 8 番 |
| 9 | 季節のうた② | たなばたさま |
| 10 | 生活のうた⑥ | おはようのうた |
| 11 | 季節のうた③ | ハッピーバースデイトゥーユー おばけなんてないさ |
| 12 | 季節のうた④ | ハッピーバースデイトゥーユー おばけなんてないさ |
| 13 | 小テスト | 第 8 回から第 1 2 回までの中で学習した曲から実施 |
| 14 | 試験対策 | 前期試験対策 |
| 15 | 科目のまとめ | 前期試験と科目のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|--------------|------|-----|------|
| 科目名 | ピアノ演習Ⅲ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 北川 聖子、吉田 裕佳子 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この授業では、前期の「ピアノ演習Ⅱ」の授業を踏まえ、引き続き保育士や幼稚園教諭に必要な「弾き歌い」のためのピアノに関する知識や技術を修得するために、現場で使用される楽曲（「季節・生活・行事のうた」）を取り上げながら展開していく。また、保育実習に向けて、適切な楽曲にも取り組む。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音や分散の形式で伴奏を弾くことができるようになる。さらに、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、生き活きと楽しく「弾き歌い」ができるようになることを目標としている。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。 ・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、再度練習すること。 ※毎日30分～1時間程度の練習をすること。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | | | | |
| ・楽譜のスケッチブック（前期の配布プリント集） ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和5年） ・配布プリント | | | | |

| 授業計画 | | |
|------|--------------|--------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、前期の復習（「生活のうた」）など |
| 2 | 保育実習に向けての準備① | 10月の「季節のうた」 |
| 3 | 保育実習に向けての準備② | 10月の「行事のうた」 |
| 4 | 秋のうた① | «大きな栗の木の下で» |
| 5 | 秋のうた② | «まつぼっくり» |
| 6 | 秋のうた③ | «きのこ» |
| 7 | 冬のうた① | «ジングルベル» |
| 8 | 冬のうた② | «きよしこの夜» |
| 9 | 小テスト | 第2回～第8回までの中で学習した曲から実施 |
| 10 | 冬のうた③ | «ゆき» |
| 11 | 伝統行事のうた① | «まめまき» |
| 12 | 伝統行事のうた② | «うれしいひなまつり» |
| 13 | 春のうた① | «思い出のアルバム» |
| 14 | 成果発表会 | これまでの復習と期末試験対策 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科>

| 科目名 | ピアノ演習Ⅲ | | | |
|---------|---|------|-----|------|
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 小林 美智子・中野 由紀子 | | | |
| 実務経験 | 保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（小林） 幼稚園にて幼稚園教諭、保育者養成校にて講師としての実務経験を有する（中野） | | | |

| 授業概要 |
|--|
| ピアノ演習Ⅱを踏まえ引き続き現場で必要とされる「生活のうた」「季節のうた」「こどものうた」を取り上げ、ピアノ演奏、弾き歌いを実践しレパートリーを増やしていく。 「アンサンブル（連弾）」を取り入れ音楽の表現力を深める |
| 到達目標 |
| 個々のレベルに合わせた難易度を設定した上で夫々の課題曲を生き生きと楽しく、また子供たちにとって心地よいピアノ演奏、弾き歌いができる音楽の知識や技術の習得を目指す |
| 準備学習 |
| 自宅、学校などで予習復習をし、演奏技術の向上に努める |
| 成績評価 |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） |

| 使用テキスト | ・母と幼子の歌 ・こどもの指導法「音楽表現」 ・配布プリント |
|--------|--------------------------------------|
|--------|--------------------------------------|

| 授業計画 | | |
|------|-----------|----------------------------------|
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業概要の説明、前期の復習など |
| 2 | 季節のうた⑤ | 大きな栗の木の下で まつぼっくり |
| 3 | 生活のうた⑦ | 朝のうた あさがきた |
| 4 | 季節のうた⑥ | きのこ バイエル ハ調長音階 |
| 5 | 季節のうた⑦ | きのこ やきいもグーチャーパー |
| 6 | 季節のうた⑧ | やきいもグーチャーパー バイエル第4 5番 |
| 7 | 小テスト | 第2回から第6回までの中で学習した曲から実施 アンサンブルの準備 |
| 8 | アンサンブル | 連弾によるアンサンブルの体験 |
| 9 | アンサンブル | 連弾によるミニ発表会 |
| 10 | 季節のうた⑨ | ゆき（さよならのうた） |
| 11 | 季節のうた⑩ | まめまき（さよならのうた） |
| 12 | 季節のうた⑪ | うれしいひなまつり（さよならのうた） |
| 13 | 小テスト | 第10回から第12回までの中で学習した曲から実施 |
| 14 | 試験対策 | 後期試験対策 |
| 15 | 科目のまとめ | 後期試験と科目のまとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|-----------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | レクリエーション理論と実技Ⅰ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 金井玲奈 | | | |
| 実務経験 | | | | |
| 授業概要 | | | | |
| この講義では、子どもの遊びとはなんであるか？を常に問いながら、様々な遊びを知り体験する。また、子どもの権利条約に示される「遊びの権利を保障」する為には、どのような保育者の関りが必要であるか学ぶ。主に、生活と文化を生み出す遊び、遊びに関連する社会課題、プレイワークについての知識と実践である。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 学習を通じて、遊びの理論を理解し、子どもと共に遊びを作る事ができる技術を学びます、具体的な到達目標は、子どもにとっての遊びの重要性を理解し、その価値と意味を説明できることを目指す。また、遊びが保障されるために保育者としてできる援助や関わる技術をつけることができる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| IPA JAPANのHPで子どもの遊ぶ権利について視聴する https://www.ipajapan.org/ 日本冒険遊び場づくり協会のHPにて子どものあそびについて視聴する https://bouken-asobiba.org/ | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 園田碩哉編著「プレイワーク入門」アネスト出版2022年 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校〈こども保育学科〉 | | |
|-----------------------|----------|-----------------------|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | ガイダンス | 子どもの遊びを支えるプレイワーク |
| 2 | 発達と遊び | 子どもの発達段階における遊び |
| 3 | 遊び | 子どもにおける遊びとは |
| 4 | 遊びと社会課題 | 子どもの遊びに関わる社会課題 |
| 5 | 遊び | 5感を使った遊び |
| 6 | 遊び | 音楽を奏でる遊び |
| 7 | 遊び | 文化と遊び 踊るということ |
| 8 | プレイワーク | 子どもと遊びを作り出す技術 |
| 9 | プレイワーク | プレイワーク理論 |
| 10 | プレイワーク | PAの手法を用いてグループワーク |
| 11 | 遊び | からだと遊 競争系 |
| 12 | 遊び | からだと遊び 協働系 |
| 13 | 遊び | インプロ 即興劇と遊び |
| 14 | レクリエーション | リスクとマネージメント イベントを企画する |
| 15 | 科目のまとめ | 企画したイベントを実施する |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | | アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|--|---------------------------------|------|-----|------|------------------------|--------------------|-----------------------------|
| 科目名 | レクリエーション理論と実技Ⅰ | | | | 授業計画 | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 | 回数 | 単元 | 内容 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 演習 | 1 | 子どもの遊ぶ力を支援するプレイワーク | オリエンテーション |
| 担当教員 | 渡辺 建 | | | | 2 | 子どもの遊びを支援する3つの方法 | 指導と支援 個人支援・集団支援・環境支援 |
| 実務経験 | 放課後児童クラブにおいて、施設長としての実務経験を有する。 | | | | 3 | 個人支援 | 信頼関係づくり コミュニケーションスキル |
| 授業概要 | | | | | 4 | 集団支援 | 仲間との安心感・達成感 |
| 子どもが自由で主体的に遊ぶために支援する大人のあり方を考える。①遊びが人間の生活と文化を生み出す土台であること、②子どもには「遊ぶ権利」があるが十分に実現できていないこと、③子どもの遊びを支援する「レイワーク」が必要であること、④さまざまな遊びの素材を実体験し、楽しむ方法を学ぶ。 | | | | | 5 | 演習：協働する遊び | 競争する遊び、競争しない遊び／協働する遊び |
| 到達目標 | | | | | 6 | 子どもを取り巻く社会環境 | 子どもの「遊ぶ権利」 忘れられた権利 子どもの権利条約 |
| ①遊びの意味と価値を理論的に説明できる。②「子どもの遊ぶ権利」とそれを実現する社会運動を理解する。③遊びの支援には3種類の方法があることを知る。④遊びのプログラムを組み立て、それを実施する方法とリスクへの対処法を学ぶ。⑤多種多様な遊びを実際に体験し、支援のスキルを身につける。 | | | | | 7 | 遊びとは？ | 子どもにとっての遊び・学び・育ち |
| 準備学習 | | | | | 8 | 演習：自然遊び | 自然遊び、工作遊び |
| ①自らの遊び経験を振り返る。②実習先での遊び体験を通して考える。③就職先の保育方針に従って自由で自主的な遊びにできるように工夫する。④自らが遊びの支援者（プレイワーカー）になることを自覚する。 | | | | | 9 | 遊びの分類 | 遊びの学説 I T時代の子どもの遊び |
| 成績評価 | | | | | 10 | リスクマネジメント | 遊びの行事づくり 危険予知訓練 |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | | 11 | 環境支援 | 遊びの環境づくり（遊び場のデザイン） |
| 使用テキスト | 『プレイワーク入門』（園田碩哉編著 アネスト出版 2022年） | | | | 12 | 遊びを仕掛ける | 主役で入って脇役で抜けろ C S Sプロセス |
| | | | | | 13 | プレイワーカーの役割 | 子どもの遊びに関わる大人の在り方 省察的実践家 |
| | | | | | 14 | まとめ | 科目まとめ |
| | | | | | 15 | 演習：伝承遊び | 技のある遊びの習得 |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---|------|-----|------|
| 科目名 | レポート入門Ⅱ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 後期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 新海 智子 | | | |
| 実務経験 | 保育所にて保育士としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 保育の現場で使うさまざまな文書の書き方について演習形式で学ぶことを通して、保育の現場や社会に出た時に活かせる文書作成のスキルが身に付くようにする。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①保育の現場で使うさまざまな文書の意義と書き方について理解する。 ②文書の書き方を理解した上で文書を作成できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・授業で出された課題について事前学習と準備をする。 | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』（ナツメ社 ISBN978-4816350573） ・必要に応じてプリントを配布する | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------------------|--|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション/メールを書く際の注意点について | オリエンテーション/目上の人へのメールを書く際の注意点について学びメールを作成する。 |
| 2 | 報告書とは何か | 客観的な報告書の書き方、保育現場におけるさまざまな報告書について学ぶ。 |
| 3 | 保育で使う漢字・言葉 | 保育の書類等で使う言葉、漢字を確認していく。 |
| 4 | 尊敬語、謙譲語、丁寧語 | 尊敬語、謙譲語、丁寧語を確認していく。 |
| 5 | 連絡帳の意義と書き方の基本 | 連絡帳の意義を考え、基本的な書き方や注意点について学ぶ。 |
| 6 | 連絡帳を書く | 連絡帳を書き、相互評価をし書き方や注意点を確認する。 |
| 7 | クラスだより作成① | クラスだよりの書き方について学び、作成する。 |
| 8 | クラスだより作成② | クラスだよりを作成し相互評価をする。 |
| 9 | レジュメとは何か | レジュメの書き方について学び、園内研修に使用するレジュメの作成をする。 |
| 10 | レジュメ作成 | 作成したレジュメを、相互評価を行いレジュメの相手に伝わりやすいレジュメの書き方について確認する。 |
| 11 | エピソード記録とは何か | 保育の中での子どもの姿を記録する方法の一つであるエピソード記録の書き方について学ぶ。 |
| 12 | 保育ドキュメンテーションとは何か | 保育ドキュメンテーションとは何か作成の仕方を学び、ドキュメンテーションを作成する。 |
| 13 | ドキュメンテーション作成 | ドキュメンテーションを作成しグループで相互評価する。 |
| 14 | 授業の振り返り | 保育の現場における様々な文書についてまとめる。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|--|---|------|-----|------|
| 科目名 | レポート入門Ⅰ | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 1年幼保コース | 前期 | 2 | 演習 |
| 担当教員 | 新海 智子 | | | |
| 実務経験 | 保育所にて保育士としての実務経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 学生生活においても保育の現場においても様々な文書を作成する機会が多くある。本授業ではレポートや保育現場で必要な書類を作成する基本的な技術について演習形式で行う。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| ①様々な文章に触れ、客観的な文章を書くことになれる。 ②レポートを作成作成の仕方を知り、説明できる。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| 各回の学習内容に対応するテキストの該当範囲を事前に読む | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | ・石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』（ナツメ社 ISBN978-4816350573） ・必要に応じてプリントを配布する | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション・書くということ | オリエンテーション・書くということについて考える。 |
| 2 | 作文とレポートの違い | 作文とレポートの違いについて学ぶ。 |
| 3 | 文章の構成① | 文章の起承転結/序論・本論・結論について学ぶ。 |
| 4 | 文章の構成② | 段落・表記のルールについて学ぶ。 |
| 5 | さまざまなレポートの形 | さまざまなレポートの種類について知る。文章の要約。 |
| 6 | レポート用紙（原稿用紙）の使い方と 注意点 | レポート用紙（原稿用紙）の使い方と注意点を学ぶ。 |
| 7 | テーマの設定 | レポートのテーマを設定するポイントを確認し、大まかな思考マップを作る方法を知る。 |
| 8 | 思考マップ作成 | 思考マップを作成し、レポートの詳細な組み立て方を学ぶ |
| 9 | ・文献・資料の収集、引用の仕方 ・参考文献・文献の書き方 | レポートにおける引用の仕方を理解し、自分の意見を効果的に主張する方法を学ぶ。 |
| 10 | 図・表の作成と使い方 | 図・表の基本的な作成の仕方と効果的な使い方について学ぶ。 |
| 11 | レポート作成① | 授業で学んだことを活かしてレポートを作成する。 |
| 12 | レポート作成② | 授業で学んだことを活かしてレポートを作成する。 |
| 13 | 授業の振り返り | 授業の振り返り/科目試験に向けて |
| 14 | まとめ | 科目まとめ |
| 15 | レポートを読み合い評価する | 作成したレポートを読み合い相互評価をする中で、レポートの書き方や約束事を再度確認する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---------------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 児童ソーシャルワーク論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年幼保コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして児童とその保護者、家庭の支援経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 社会福祉から保育士の役割を考えた際に、子どもだけではなくその保護者、家庭への支援も必要である。一言で支援と言っても内容は幅広く、地域との繋がりや社会資源の活用も含め、保育士も多様な家庭環境で育つ子どもへの支援者であり、相談援助を担う職種であることに理解を深める講義となっている。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育士として子どもとその保護者、家庭を支援するために必要な知識を習得する。事例を通し、子どもや保護者への相談援助技術を学ぶ。支援の在り方は多様にあり、地域の特性や社会資源をいかに活用するかを知り、保育士としての役割について多方面から考察する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・配布プリントを見返して復習をする。 ・ニュース記事などを読んでおく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 参考図書『相談援助』倉石哲也・大竹智編著 ミネルヴァ書房 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業を通し、子どもを対象としたソーシャルワークとはなにかについて概要を説明する。 |
| 2 | 相談援助とはなにか | 相談援助の意義、保育所および保育士に求められる役割について |
| 3 | 保育とソーシャルワーク | 保育現場における保護者支援とはなにか |
| 4 | 子どもと家族の理解① | 子どもを取り巻く学校、家庭、地域の状況を理解する |
| 5 | 子どもと家族の理解② | 子どもと家族が抱える様々な困難を知る |
| 6 | 相談援助の方法について | 相談援助の対象を理解する。また、相談援助の展開や過程について考察する |
| 7 | 相談援助の計画・記録・評価 | 計画、記録の意義を学び、事例を通して児童自立支援計画を作成する |
| 8 | 相談援助の技術について | 個別援助や地域援助活動などさまざまな相談援助の方法とアプローチについて学ぶ |
| 9 | 関係機関との協働について | 関係機関と協働する必要性、重要性、多機関による支援について学ぶ |
| 10 | 多様な専門職との連携 | 福祉サービスを支える多様な専門職との連携の意義や実際にについて学ぶ |
| 11 | 社会資源の活用 | 社会資源にはどのようなものがあるか、また新たな社会資源の開発や調整について考察する |
| 12 | 虐待・ネグレクトへの支援 | 事例を通して支援方法や援助過程を理解し、演習課題に取り組む |
| 13 | 発達に課題のある子ども・保護者への支援 | 事例を通して支援方法や援助過程を理解し、演習課題に取り組む |
| 14 | 振り返り | 学んだことから疑問点などを抽出し、テストに向け、また保育士として働くために必要な知識や技術を学ぶことができたかを考察する。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 令和7年度 シラバス | | | | |
|---|---------------------------------------|------|-----|------|
| 科目名 | 児童ソーシャルワーク論 | | | |
| 対象学科 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
| こども保育学科 | 2年保育士コース | 後期 | 2 | 講義 |
| 担当教員 | 宮坂 幸香 | | | |
| 実務経験 | スクールソーシャルワーカーとして児童とその保護者、家庭の支援経験を有する。 | | | |
| 授業概要 | | | | |
| 社会福祉から保育士の役割を考えた際に、子どもだけではなくその保護者、家庭への支援も必要である。一言で支援と言っても内容は幅広く、地域との繋がりや社会資源の活用も含め、保育士も多様な家庭環境で育つ子どもへの支援者であり、相談援助を担う職種であることに理解を深める講義となっている。 | | | | |
| 到達目標 | | | | |
| 保育士として子どもとその保護者、家庭を支援するために必要な知識を習得する。事例を通し、子どもや保護者への相談援助技術を学ぶ。支援の在り方は多様にあり、地域の特性や社会資源をいかに活用するかを知り、保育士としての役割について多方面から考察する。 | | | | |
| 準備学習 | | | | |
| ・配布プリントを見返して復習をする。 ・ニュース記事などを読んでおく | | | | |
| 成績評価 | | | | |
| 出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て） | | | | |
| 使用テキスト | 参考図書『相談援助』倉石哲也・大竹智編著 ミネルヴァ書房 | | | |

| アルファ医療福祉専門学校 <こども保育学科> | | |
|------------------------|---------------------|---|
| 授業計画 | | |
| 回数 | 単元 | 内容 |
| 1 | オリエンテーション | 授業を通し、子どもを対象としたソーシャルワークとはなにかについて概要を説明する。 |
| 2 | 相談援助とはなにか | 相談援助の意義、保育所および保育士に求められる役割について |
| 3 | 保育とソーシャルワーク | 保育現場における保護者支援とはなにか |
| 4 | 子どもと家族の理解① | 子どもを取り巻く学校、家庭、地域の状況を理解する |
| 5 | 子どもと家族の理解② | 子どもと家族が抱える様々な困難を知る |
| 6 | 相談援助の方法について | 相談援助の対象を理解する。また、相談援助の展開や過程について考察する |
| 7 | 相談援助の計画・記録・評価 | 計画、記録の意義を学び、事例を通して児童自立支援計画を作成する |
| 8 | 相談援助の技術について | 個別援助や地域援助活動などさまざまな相談援助の方法とアプローチについて学ぶ |
| 9 | 関係機関との協働について | 関係機関と協働する必要性、重要性、多機関による支援について学ぶ |
| 10 | 多様な専門職との連携 | 福祉サービスを支える多様な専門職との連携の意義や実際にいついて学ぶ |
| 11 | 社会資源の活用 | 社会資源にはどのようなものがあるか、また新たな社会資源の開発や調整について考察する |
| 12 | 虐待・ネグレクトへの支援 | 事例を通して支援方法や援助過程を理解し、演習課題に取り組む |
| 13 | 発達に課題のある子ども・保護者への支援 | 事例を通して支援方法や援助過程を理解し、演習課題に取り組む |
| 14 | 振り返り | 学んだことから疑問点などを抽出し、テストに向け、また保育士として働くために必要な知識や技術を学ぶことができたかを考察する。 |
| 15 | まとめ | 科目まとめ |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |